

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 秋朝 礼恵 (アキトモ アヤエ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

4年次の卒業研究に備え、幅広い知識とリサーチの手法を身につける。

達成目標

多くの文献を読み議論することを通して、各自が問題意識を明確にし、かつ研究課題を構想する。加えてリサーチの手法を習得する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期スケジュール、演習の進め方、教科書等について)
- 第2回 基礎学習 : 基本的概念・理論学習①
- 第3回 基礎学習 : 基本的概念・理論学習②
- 第4回 基礎学習 : 基本的概念・理論学習③
- 第5回 基礎学習 : リサーチクエスションをたてる
- 第6回 基礎学習 : 仮説をたてる
- 第7回 基礎学習 : 資料・データを収集する①
- 第8回 基礎学習 : 資料・データを収集する②
- 第9回 基礎学習 : 仮説を検証する①
- 第10回 基礎学習 : 仮説を検証する②
- 第11回 基礎学習 : リサーチ結果をまとめる
- 第12回 グループワーク1 : リサーチクエスションをたてる
- 第13回 グループワーク2 : 仮説をたてる
- 第14回 グループワーク3 : 資料・データを収集する
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 ガイダンス (後期スケジュール、演習の進め方、教科書等について)
- 第17回 グループワーク4 : 仮説を検証する①
- 第18回 グループワーク5 : 仮説を検証する②
- 第19回 グループワーク6 : 仮説を検証する③
- 第20回 グループワーク7 : リサーチ結果をまとめる①
- 第21回 グループワーク8 : リサーチ結果をまとめる②
- 第22回 グループワーク9 : リサーチ結果を政策化する
- 第23回 グループワーク10 : 論文を書く①
- 第24回 グループワーク11 : 論文を書く②
- 第25回 グループワーク12 : 発表する
- 第26回 発展学習 : ゼミ論のピアレビューと討論①
- 第27回 発展学習 : ゼミ論のピアレビューと討論②
- 第28回 発展学習 : 卒業研究に向けた補足と応用①
- 第29回 発展学習 : 卒業研究に向けた補足と応用①
- 第30回 一年のまとめ

教科書・参考文献

教科書 ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

輪読に際しては、疑問点は各自で調べ内容を理解した上でゼミに臨むこと。また発表者は、論点を提示するに当たり、議論を主導できるよう十分な準備をして臨むこと。論点を提示するだけでは議論にならない。

評価方法

平常点 (50%)、ゼミ課題 (50%) とする。

履修上の注意

組織を円滑に運営するため、各自が自覚と責任をもって行動すること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 秋朝 礼恵 (アキトモ アヤエ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

卒業研究の成果としての論文を完成させる。

達成目標

卒業論文の作成。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期の進め方、日程調整、卒業論文の書き方についての説明)
- 第2回 研究計画の策定 : 何をいつまでにやるのか
- 第3回 研究テーマを選定する① : 自分の興味や関心を書き出してみる
- 第4回 研究テーマを選定する② : テーマを絞る
- 第5回 リサーチクエスションを設定する① : 不思議な事象を見出す
- 第6回 リサーチクエスションを設定する② : 問いをブレイクダウンする
- 第7回 卒業研究の中間発表 (リサーチクエスション)
- 第8回 仮説をたてる① :
- 第9回 仮説をたてる② :
- 第10回 資料・データを収集する① : 仮説検証のためのデータを集める
- 第11回 資料・データを収集する② : 参考文献をリストアップする
- 第12回 仮説を検証する① : 検証方法を考える
- 第13回 仮説を検証する② : 検証結果の妥当性を検討する
- 第14回 卒業研究の中間発表 (仮説と検証)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 ガイダンス (後期の進め方、日程調整、前期までの進捗度の確認)
- 第17回 卒業研究の中間発表 (論文の構成) ① 概ね3人ずつ (以下同じ)
- 第18回 卒業研究の中間発表 (論文の構成) ②
- 第19回 卒業研究の中間発表 (論文の構成) ③
- 第20回 卒業研究の中間発表 (論文の構成) ④
- 第21回 卒業研究の中間発表 (論文発表) ①
- 第22回 卒業研究の中間発表 (論文発表) ②
- 第23回 卒業研究の中間発表 (論文発表) ③
- 第24回 卒業研究の中間発表 (論文発表) ④
- 第25回 卒業研究の最終発表①
- 第26回 卒業研究の最終発表②
- 第27回 卒業研究の最終発表③
- 第28回 卒業研究の最終発表④
- 第29回 卒業論文の修正
- 第30回 総括、卒業論文の完成・提出

教科書・参考文献

教科書 指定なし。

参考書 ゼミ生各人の関心や卒業研究のテーマに応じて紹介。

授業外での学習

ゼミは、卒業研究の過程で発生する疑問や課題を解決する場である。主体的にゼミに参加するために、また、就職活動と両立させるために、各自で自主的計画的に卒業研究を進めていくこと。

評価方法

平常点 (30%)、卒業論文 (70%) で評価する。

履修上の注意

組織を円滑に運営するため、各自が自覚と責任をもって行動すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 阿部 圭司 (アベ ケイジ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

コーポレートファイナンス分野における企業価値を中心に学びます。同時に資本市場の理解、学外でのプレゼンテーションを目的にプロジェクトを実施します。

達成目標

- (1)コーポレート・ファイナンス全般の学習
- (2)プレゼンテーションスキルの獲得、向上
- (3)証券投資に関する基本的知識の獲得、理解

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(演習の進め方)
- 第2回 第1章: 企業価値は財務諸表にどう表れるのか(中核にあるシンプル公式)
- 第3回 第1章: 企業価値は財務諸表にどう表れるのか(バランスシート、損益計算書と企業価値)
- 第4回 第2章: 基本公式から一歩深掘りする(余剰キャッシュと企業価値の関係)
- 第5回 第2章: 基本公式から一歩深掘りする(ROEの分解とその応用)
- 第6回 第3章: DCF評価と倍率評価は、実は同じ(投資価値算定はDCFから)
- 第7回 ストックリーグ(ブレンストーミング)
- 第8回 ストックリーグ(ブレンストーミングから具体的なアイデア出し)
- 第9回 ストックリーグ(具体的なアイデア出し)
- 第10回 第3章: DCF評価と倍率評価は、実は同じ(利益よりCF, M&Aの場合)
- 第11回 第4章: 日本の株式市場は「サヤ取り天国」なのか
- 第12回 ストックリーグ(各アイデアの評価)
- 第13回 ストックリーグ(テーマ決定へ)
- 第14回 第5章: 事業や業界を再編するM&A活動
- 第15回 第6章: 日本市場に押し寄せる資本の論理とその課題・限界
- 第16回 第7章: リスクを数字にする方法(リスクのとらえ方の差)
- 第17回 第7章: リスクを数字にする方法(市場の現実からリスク=割引率を読み取る)
- 第18回 第8章: 経営支配権を売り買いするM&Aの世界(M&AはDCF方式で、の理由)
- 第19回 ストックリーグ(業種・銘柄のリストアップ)
- 第20回 ストックリーグ(定量的スクリーニング)
- 第21回 ストックリーグ(定性的スクリーニング)
- 第22回 第8章: 経営支配権を売り買いするM&Aの世界(シナジーと支配権プレミアム)
- 第23回 ストックリーグ(ポートフォリオ構築作業)
- 第24回 ストックリーグ(ポートフォリオ確定)
- 第25回 第8章: 経営支配権を売り買いするM&Aの世界(買収ストラクチャーと買収価格の関係)
- 第26回 第9章: リスクマネジメントをオプションで捉える(オプション的思考)
- 第27回 ストックリーグ(レポート提出)
- 第28回 第9章: リスクマネジメントをオプションで捉える(リアルオプションの考え方)
- 第29回 第10章: 株式のオプション価値と事業再生(事業再生の勘所)
- 第30回 第10章: 株式のオプション価値と事業再生(事業再生のシンプル事例分析)

教科書・参考文献

教科書 森生 明, 「バリュエーションの教科書~企業価値・M&Aの本質と実務」, 東洋経済新報社

参考書 齋藤正章・阿部圭司, 「ファイナンス入門'17」, 放送大学教育振興会

授業外での学習

日本経済新聞社が開催するストックリーグに参加します。大会で報告する論文やプレゼン資料をゼミやそれ以外の時間を使って作成します。

評価方法

平常点・ゼミでの発表内容を考慮して評価します。

履修上の注意

可能であれば、企業財務論IとIIを履修するとより理解が進みます。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 阿部 圭司 (アベ ケイジ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

企業価値評価をベースにさまざまな企業財務、資産運用に関する領域への応用を目的として卒業論文の作成に取り組みます。平行して、卒業論文のテーマに合わせた論文、記事の輪読を行います。

達成目標

- (1) 証券市場における実証研究事例の輪読を通じて、分析手法、論文の書き方を理解する。
- (2) ファイナンスの知識を通して社会で行われているさまざまな取引、現象を理解する。
- (3) 卒業論文を作成する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (演習の進め方)
- 第2回 論文輪読(1): 社長交代に対する株式市場の反応
- 第3回 論文輪読(2): 企業買収と株式市場の反応
- 第4回 論文輪読(3): 経営統合の白紙撤回に市場はどう反応したのか?
- 第5回 論文輪読(4): IPO後の経營業績と株式収益率, 卒論テーマ一次発表(1)
- 第6回 論文輪読(5): 新規株式公開企業の利益調整行動, 卒論テーマ一次発表(2)
- 第7回 論文輪読(6): コーポレート・ガバナンスと企業業績, 卒論テーマ一次発表(3)
- 第8回 論文輪読(7): 企業の所有と財務パフォーマンスとの関係に関する実証研究, 卒論テーマ一次発表(4)
- 第9回 データベース利用方法の確認と実践
- 第10回 データ集計と統計処理(1): 基本操作と関数の利用
- 第11回 データ集計と統計処理(2): 関数の利用
- 第12回 論文輪読(8): ESG開示スコアとパフォーマンス, 卒論テーマ二次発表(1)
- 第13回 論文輪読(9): 買収防衛策導入企業のガバナンスと株式市場の評価, 卒論テーマ二次発表(2)
- 第14回 論文輪読(10): 株式分割のシグナリング効果と資本市場の反応, 卒論テーマ二次発表(3)
- 第15回 論文輪読(11): 資産リターンの季節性と投資戦略, 卒論テーマ二次発表(4)
- 第16回 データ集計と統計処理(1): 基本統計量
- 第17回 データ集計と統計処理(2): 仮説検定(1)
- 第18回 データ集計と統計処理(3): 仮説検定(2)
- 第19回 データ集計と統計処理(4): 回帰分析(1): 回帰分析とは, 重回帰分析
- 第20回 データ集計と統計処理(5): 回帰分析(2): 多重共線性, ダミー変数
- 第21回 予備日
- 第22回 論文輪読(12): 同族経営企業の収益・リスク特性
- 第23回 論文輪読(13): ニュース指標による株式市場の予測可能性
- 第24回 論文輪読(14): どのような企業が買収防衛策を導入するのか
- 第25回 論文輪読(15): 経営トップ交代の効果とガバナンスの影響
- 第26回 卒業論文作成作業(1): 分析結果の確認
- 第27回 卒業論文作成作業(2): 再分析の必要性の検討
- 第28回 卒業論文作成作業(3): 分析結果のまとめ
- 第29回 卒業論文作成作業(4): 論文作成
- 第30回 卒業論文作成作業(5): 論文作成

教科書・参考文献

教科書 教科書は用いず、研究論文の輪読を行います。上記の論文は例です。毎年ゼミ生と相談して論文リストを更新しています。

参考書 論文リストはガイダンス時に配布

授業外での学習

原則として卒業論文の作成・指導はゼミの時間外で行います。

評価方法

平常点・ゼミでの発表内容、卒業論文の内容を考慮して評価します。

履修上の注意

卒業論文の多くはデータ分析を伴う実証研究です。ゼミでも取り上げますが、コンピュータや統計、計量経済学などの履修をしておくこと、よりスムーズに卒業論文の作成が進むと思います。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 天羽 正継 (アモウ マサツグ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期では地方財政をテーマとし、まず地方財政の教科書を読んで基礎的な知識を身に付けた後、市町村財政分析の手法を学ぶ。後期ではメンバー同士でグループを組み、前期での学習を基に各グループで群馬県内の市町村について財政分析を行うとともに、それについて報告を行う（共同研究）。また、地方財政以外の財政学関係の文献（未定）を並行して輪読する。

達成目標

前期では地方財政および市町村財政分析の手法についての基礎知識を身に付ける。後期では、共同研究を通じてグループのメンバーと協力しつつ調査を行う能力、調査結果を論文の形にまとめる能力、さらにそれを聞き手に分かりやすく発表する能力を身に付けるとともに、文献輪読を通じて、地方財政以外の財政問題についても考える能力を身に付ける。

スケジュール

第1回	文献輪読：『地方財政を学ぶ』序章・第1章	
第2回	文献輪読：『地方財政を学ぶ』第2章・第3章	
第3回	文献輪読：『地方財政を学ぶ』第4章・第5章	
第4回	文献輪読：『地方財政を学ぶ』第6章・第7章	
第5回	文献輪読：『地方財政を学ぶ』第8章・第9章	
第6回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第1講～第5講	
第7回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第6講～第10講	
第8回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第11講～第15講	
第9回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第16講～第20講	
第10回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第21講～第25講	
第11回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第26講～第30講	
第12回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第31講～第36講	
第13回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第37講～第43講	
第14回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第44講～第48講	
第15回	文献輪読：『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』第49講～第53講	
第16回	文献輪読、共同研究報告：第1班（第1回）	
第17回	文献輪読、共同研究報告：第2班（第1回）	
第18回	文献輪読、共同研究報告：第3班（第1回）	
第19回	文献輪読、共同研究報告：第1班（第2回）	
第20回	文献輪読、共同研究報告：第2班（第2回）	
第21回	文献輪読、共同研究報告：第3班（第2回）	
第22回	文献輪読、共同研究報告：第1班（第3回）	
第23回	文献輪読、共同研究報告：第2班（第3回）	
第24回	文献輪読、共同研究報告：第3班（第3回）	
第25回	文献輪読、共同研究報告：第1班（第4回）	
第26回	文献輪読、共同研究報告：第2班（第4回）	
第27回	文献輪読、共同研究報告：第3班（第4回）	
第28回	文献輪読、共同研究報告：第1班（第5回）	
第29回	文献輪読、共同研究報告：第2班（第5回）	
第30回	文献輪読、共同研究報告：第3班（第5回）	

教科書・参考文献

教科書 沼尾・池上・木村・高端著『地方財政を学ぶ』、大和田一紘・石山雄貴著『四訂版 習うより慣れろの市町村財政分析』（後期の輪読文献は未定。決まり次第指示する）
参考書 演習内で指示する。

授業外での学習

各回の報告担当者とコメンテーターは事前に文献をしっかりと読み込み、疑問点や論点を考えておくこと。共同研究ではメンバー同士で積極的に協力し合うこと。さらに、財政に限らず社会で起きている事象に対して、普段から積極的な問題意識を持つようにすること。

評価方法

本ゼミ独自の「出席・成績評価に関する規定」により評価する。

履修上の注意

出席が評価の前提となりますので、欠席・遅刻はしないように心掛けて下さい。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡するようにして下さい。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 天羽 正継 (アモウ マサツグ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

基礎演習および演習Iで身に付けた知識と思考力を基にし、同時に論文の書き方についても一から学び直しつつ卒業論文の作成を進め、完成させる。

達成目標

基礎演習および演習Iでの学習の集大成として卒業論文を完成させるとともに、その作成を通じて、卒業後に社会でも必要とされることとなる論理的思考力や文章力、さらには一つのことに取り組む忍耐力や集中力を養うことを目標とする。

スケジュール

第1回	文献輪読	『新版論文の教室』第1章、卒業論文第1次報告(1)	(テーマの提示)
第2回	文献輪読	『新版論文の教室』第2章、卒業論文第1次報告(2)	(テーマの提示)
第3回	文献輪読	『新版論文の教室』第3章、卒業論文第1次報告(3)	(テーマの提示)
第4回	文献輪読	『新版論文の教室』第4章、卒業論文第1次報告(4)	(テーマの提示)
第5回	文献輪読	『新版論文の教室』第5章、卒業論文第1次報告(5)	(テーマの提示)
第6回	文献輪読	『新版論文の教室』第6章、卒業論文第2次報告(1)	(先行研究の整理、データの提示等)
第7回	文献輪読	『新版論文の教室』第7章、卒業論文第2次報告(2)	(先行研究の整理、データの提示等)
第8回	文献輪読	『新版論文の教室』第8章、卒業論文第2次報告(3)	(先行研究の整理、データの提示等)
第9回	文献輪読	『新版論文の教室』第9章、卒業論文第2次報告(4)	(先行研究の整理、データの提示等)
第10回	文献輪読	(未定)、卒業論文第2次報告(5)	(先行研究の整理、データの提示等)
第11回	文献輪読	(未定)、卒業論文第3次報告(1)	(作成の中間報告(前期))
第12回	文献輪読	(未定)、卒業論文第3次報告(2)	(作成の中間報告(前期))
第13回	文献輪読	(未定)、卒業論文第3次報告(3)	(作成の中間報告(前期))
第14回	文献輪読	(未定)、卒業論文第3次報告(4)	(作成の中間報告(前期))
第15回	文献輪読	(未定)、卒業論文第3次報告(5)	(作成の中間報告(前期))
第16回	卒業論文第4次報告	(1) (作成の中間報告(後期))	
第17回	卒業論文第4次報告	(2) (作成の中間報告(後期))	
第18回	卒業論文第4次報告	(3) (作成の中間報告(後期))	
第19回	卒業論文第4次報告	(4) (作成の中間報告(後期))	
第20回	卒業論文第4次報告	(5) (作成の中間報告(後期))	
第21回	卒業論文第4次報告	(6) (作成の中間報告(後期))	
第22回	卒業論文第4次報告	(7) (作成の中間報告(後期))	
第23回	卒業論文第5次報告	(1) (最終段階における加筆・修正)	
第24回	卒業論文第5次報告	(2) (最終段階における加筆・修正)	
第25回	卒業論文第5次報告	(3) (最終段階における加筆・修正)	
第26回	卒業論文第5次報告	(4) (最終段階における加筆・修正)	
第27回	卒業論文第5次報告	(5) (最終段階における加筆・修正)	
第28回	卒業論文第5次報告	(6) (最終段階における加筆・修正)	
第29回	卒業論文第5次報告	(7) (最終段階における加筆・修正)	
第30回	卒業論文完成報告		

教科書・参考文献

教科書 戸田山和久著『新版論文の教室-レポートから卒論まで』NHKブックス(2012年)(未定の文献については決定次第指示する)

参考書 演習内で指示する。

授業外での学習

前期で読んだ輪読文献はその後自身で読み返し、論文とは何か、どのように書くのかということについてしっかりと復習しておくこと。もし卒業論文の作成で行き詰ることがあれば、一人で悩まず、担当教員に相談すること。

評価方法

本ゼミ独自の「出席・成績評価に関する規定」により評価する。特に、期限までに卒業論文を提出しなければ評価の対象としないので、注意すること(提出期限・方法については別途指示する)。なお卒業論文は、同じく本ゼミ独自の「卒業論文作成要領」に基いて作成すること。

履修上の注意

出席が評価の前提となりますので、欠席・遅刻はしないように心掛けて下さい。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡するようにして下さい。

基礎演習から継続して、統計学の理論や考え方の学習やデータサイエンスのためのコンピュータ処理について実習を行う。経営学、経済学における諸問題に対して問題意識と関心を持ち、文献の調査・報告・ディスカッションを通じて問題解決へ向けた検討を行う。

経営学・経済学における統計学の理解を深める、コンピュータを用いたデータ処理ができるようになる。
 統計学・データ分析、情報処理に関連するテーマについて積極的に発言・議論ができるようになる。
 経営学・経済学における諸問題について、問題意識と関心をもちそれらを論理立てて説明できる。
 問題の背景や原因を理解し、問題解決のための方針を検討することができる。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)	(35)	(36)	(37)	(38)	(39)	(40)	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)	(46)	(47)	(48)	(49)	(50)	(51)	(52)	(53)	(54)	(55)	(56)	(57)	(58)	(59)	(60)	(61)	(62)	(63)	(64)	(65)	(66)	(67)	(68)	(69)	(70)	(71)	(72)	(73)	(74)	(75)	(76)	(77)	(78)	(79)	(80)	(81)	(82)	(83)	(84)	(85)	(86)	(87)	(88)	(89)	(90)	(91)	(92)	(93)	(94)	(95)	(96)	(97)	(98)	(99)	(100)	(101)	(102)	(103)	(104)	(105)	(106)	(107)	(108)	(109)	(110)	(111)	(112)	(113)	(114)	(115)	(116)	(117)	(118)	(119)	(120)	(121)	(122)	(123)	(124)	(125)	(126)	(127)	(128)	(129)	(130)	(131)	(132)	(133)	(134)	(135)	(136)	(137)	(138)	(139)	(140)	(141)	(142)	(143)	(144)	(145)	(146)	(147)	(148)	(149)	(150)	(151)	(152)	(153)	(154)	(155)	(156)	(157)	(158)	(159)	(160)	(161)	(162)	(163)	(164)	(165)	(166)	(167)	(168)	(169)	(170)	(171)	(172)	(173)	(174)	(175)	(176)	(177)	(178)	(179)	(180)	(181)	(182)	(183)	(184)	(185)	(186)	(187)	(188)	(189)	(190)	(191)	(192)	(193)	(194)	(195)	(196)	(197)	(198)	(199)	(200)	(201)	(202)	(203)	(204)	(205)	(206)	(207)	(208)	(209)	(210)	(211)	(212)	(213)	(214)	(215)	(216)	(217)	(218)	(219)	(220)	(221)	(222)	(223)	(224)	(225)	(226)	(227)	(228)	(229)	(230)	(231)	(232)	(233)	(234)	(235)	(236)	(237)	(238)	(239)	(240)	(241)	(242)	(243)	(244)	(245)	(246)	(247)	(248)	(249)	(250)	(251)	(252)	(253)	(254)	(255)	(256)	(257)	(258)	(259)	(260)	(261)	(262)	(263)	(264)	(265)	(266)	(267)	(268)	(269)	(270)	(271)	(272)	(273)	(274)	(275)	(276)	(277)	(278)	(279)	(280)	(281)	(282)	(283)	(284)	(285)	(286)	(287)	(288)	(289)	(290)	(291)	(292)	(293)	(294)	(295)	(296)	(297)	(298)	(299)	(300)	(301)	(302)	(303)	(304)	(305)	(306)	(307)	(308)	(309)	(310)	(311)	(312)	(313)	(314)	(315)	(316)	(317)	(318)	(319)	(320)	(321)	(322)	(323)	(324)	(325)	(326)	(327)	(328)	(329)	(330)	(331)	(332)	(333)	(334)	(335)	(336)	(337)	(338)	(339)	(340)	(341)	(342)	(343)	(344)	(345)	(346)	(347)	(348)	(349)	(350)	(351)	(352)	(353)	(354)	(355)	(356)	(357)	(358)	(359)	(360)	(361)	(362)	(363)	(364)	(365)	(366)	(367)	(368)	(369)	(370)	(371)	(372)	(373)	(374)	(375)	(376)	(377)	(378)	(379)	(380)	(381)	(382)	(383)	(384)	(385)	(386)	(387)	(388)	(389)	(390)	(391)	(392)	(393)	(394)	(395)	(396)	(397)	(398)	(399)	(400)	(401)	(402)	(403)	(404)	(405)	(406)	(407)	(408)	(409)	(410)	(411)	(412)	(413)	(414)	(415)	(416)	(417)	(418)	(419)	(420)	(421)	(422)	(423)	(424)	(425)	(426)	(427)	(428)	(429)	(430)	(431)	(432)	(433)	(434)	(435)	(436)	(437)	(438)	(439)	(440)	(441)	(442)	(443)	(444)	(445)	(446)	(447)	(448)	(449)	(450)	(451)	(452)	(453)	(454)	(455)	(456)	(457)	(458)	(459)	(460)	(461)	(462)	(463)	(464)	(465)	(466)	(467)	(468)	(469)	(470)	(471)	(472)	(473)	(474)	(475)	(476)	(477)	(478)	(479)	(480)	(481)	(482)	(483)	(484)	(485)	(486)	(487)	(488)	(489)	(490)	(491)	(492)	(493)	(494)	(495)	(496)	(497)	(498)	(499)	(500)	(501)	(502)	(503)	(504)	(505)	(506)	(507)	(508)	(509)	(510)	(511)	(512)	(513)	(514)	(515)	(516)	(517)	(518)	(519)	(520)	(521)	(522)	(523)	(524)
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

教科書	ゼミで相談して決定する。 (一例として、「統計解析入門」「RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習」など)
参考書	適宜演習中に文献リストを提示する。

次回の演習で扱う内容について、テキストを熟読し例題や演習問題を解いた上で演習に臨む。
演習後はノートやテキストに改めてよく目を通し、理解しにくかった点を復習しておく。
必要に応じてサブゼミを実施する。

課題への取り組み状況（50%）、演習への積極的な参加姿勢（50%）で評価する。

毎回遅れずに出席することを原則とする。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 石田 崇 (イシダ タカシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

データサイエンスのためのコンピュータ処理について深く学び、実習により実際のデータ分析スキルを身につける。その集大成として自分で設定した課題に関する分析や問題解決に取り組み卒業研究として成果をまとめる。

達成目標

コンピュータを活用した情報処理技術を身につける。
データ分析の手法を理解し実問題の解決のために活用できる。
研究テーマの決定、関連研究の調査、文献の調査、調査・検討結果の報告を行う。
他者の報告に対して適切な質問やコメントができる。

スケジュール

第1回	前期ガイダンス	
第2回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(1)
第3回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(2)
第4回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(3)
第5回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(4)
第6回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(5)
第7回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(6)
第8回	卒業研究の経過報告とディスカッション (骨子の検討)	(7)
第9回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(1)
第10回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(2)
第11回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(3)
第12回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(4)
第13回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(5)
第14回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(6)
第15回	卒業研究の経過報告とディスカッション (アウトライン作成)	(7)
第16回	後期ガイダンス	
第17回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(1)
第18回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(2)
第19回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(3)
第20回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(4)
第21回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(5)
第22回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(6)
第23回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書作成)	(7)
第24回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書完成)	(1)
第25回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書完成)	(2)
第26回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書完成)	(3)
第27回	卒研最終まとめとディスカッション (概要書完成)	(4)
第28回	卒業研究最終報告	(1)
第29回	卒業研究最終報告	(2)
第30回	卒業研究最終報告	(3)

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない。
演習Iのテキストを継続して使用する場合がある。
参考書 適宜演習中に文献リストを提示する

授業外での学習

卒業研究は授業時間外も継続して自主的に進め、その成果を授業中に報告する。
必要に応じてサブゼミや合宿を実施する。

評価方法

演習への参加姿勢 (経過報告、ディスカッションへの参加) (50%)、卒業研究の完成度 (50%) で評価する

履修上の注意

毎回遅れずに出席することを原則とする。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 伊藤 宣広 (イトウ ノブヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済思想史、金融史、現代経済などの各種文献を輪読し、討論を行う。

達成目標

演習IIでの卒業論文作成を見据え、自分なりに興味のもてる研究テーマを見つけ出す。
年度末にゼミ論文を提出する。

スケジュール

第1回	ガイダンス	
第2回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第3回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第4回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第5回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第6回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第7回	ゼミ論文作成に	関するガイダンス
第8回	ゼミ論文作成に	関するガイダンス
第9回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第10回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第11回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第12回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第13回	経済理論史・思想史に	関する文献輪読
第14回	ゼミ論文の中間報告	
第15回	ゼミ論文の中間報告	
第16回	ゼミ論文の中間報告	
第17回	現代経済学に関する	文献輪読
第18回	現代経済学に関する	文献輪読
第19回	現代経済学に関する	文献輪読
第20回	現代経済学に関する	文献輪読
第21回	現代経済学に関する	文献輪読
第22回	ゼミ論文の中間報告	
第23回	ゼミ論文の中間報告	
第24回	現代経済学に関する	文献輪読
第25回	現代経済学に関する	文献輪読
第26回	現代経済学に関する	文献輪読
第27回	現代経済学に関する	文献輪読
第28回	現代経済学に関する	文献輪読
第29回	ゼミ論文の校正	
第30回	まとめ	

教科書・参考文献

教科書 受講生と相談して決める。

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

適宜指示する。

評価方法

発表内容(50%)、質問・コメント等による議論への貢献(50%)

履修上の注意

無断欠席をしないこと。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 伊藤 宣広 (イトウ ノブヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

卒業論文を作成する。

達成目標

3年次に提出したゼミ論文を発展させ、卒業論文を完成させることを目標とする。

スケジュール

第1回	ガイダンス	
第2回	卒業論文作成 (テーマの選定)	
第3回	卒業論文作成 (テーマの選定)	
第4回	卒業論文作成 (テーマの選定)	
第5回	卒業論文作成 (テーマの選定)	
第6回	卒業論文作成 (構成を固める)	
第7回	卒業論文作成 (構成を固める)	
第8回	卒業論文作成 (構成を固める)	
第9回	卒業論文作成 (構成を固める)	
第10回	卒業論文作成 (中間報告)	
第11回	卒業論文作成 (中間報告)	
第12回	卒業論文作成 (中間報告)	
第13回	卒業論文作成 (中間報告)	
第14回	卒業論文作成 (中間報告)	
第15回	まとめと夏季休業中の課題の確認	
第16回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第17回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第18回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第19回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第20回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第21回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第22回	卒業論文作成 (研究報告と討論)	
第23回	卒業論文作成 (研究報告と討論・完成に向けた準備)	
第24回	卒業論文作成 (研究報告と討論・完成に向けた準備)	
第25回	卒業論文作成 (研究報告と討論・完成に向けた準備)	
第26回	卒業論文作成 (研究報告と討論・完成に向けた準備)	
第27回	卒業論文作成 (研究報告と討論・仮提出)	
第28回	卒業論文作成 (最終校正)	
第29回	卒業論文作成 (最終校正)	
第30回	卒業論文作成 (最終校正)	

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

卒業論文作成を進める。

評価方法

卒業論文の内容(50%)、質問・コメント等による議論への貢献(50%)

履修上の注意

卒業論文作成は就職活動等と同時進行になることが予想されるため、余裕をもって計画的に進めること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 井上 真由美 (イノウエ マユミ)

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

日本の企業活動、長寿企業に関する文献の輪読（報告・討論）を行う。また、文献の内容と関連のある企業・業界について調査、報告する。

達成目標

・企業活動に関する幅広い知識を習得し、日本における経営事情を知る。さらに企業が長期的に存続するために何が必要かを理解する。・文献輪読では、文献の内容を正確に理解し、自分の意見を持ち、さらに他者に伝える力を身につける。・各種調査では、業界・企業について調べるための調査方法（文献・資料調査、ヒアリング調査等）とプレゼン能力を身につける。

スケジュール

第1回 ガイダンス
第2回 日本の企業活動に関する文献輪読①
第3回 日本の企業活動に関する文献輪読②
第4回 日本の企業活動に関する文献輪読③
第5回 日本の企業活動に関する文献輪読④
第6回 日本の企業活動に関する文献輪読⑤
第7回 文献輪読のまとめ
第8回 業界研究に関するガイダンス（目的と調査方法の説明）
第9回 調査対象業界の選定・業界研究の計画
第10回 業界研究のための文献・資料の収集
第11回 業界研究グループワーク①文献・資料の整理
第12回 業界研究グループワーク②発見事実の提示と解釈
第13回 業界研究の中間報告とフィードバック
第14回 業界研究報告会①（報告・質疑応答）
第15回 業界研究報告会②（報告・質疑応答）とまとめ（講評）
第16回 ガイダンス
第17回 長寿企業に関する文献輪読①
第18回 長寿企業に関する文献輪読②
第19回 長寿企業に関する文献輪読③
第20回 長寿企業に関する文献輪読④
第21回 長寿企業に関する文献輪読⑤
第22回 文献輪読のまとめ
第23回 長寿企業研究に関するガイダンス（目的と調査方法の説明）
第24回 調査対象企業の選定・研究計画
第25回 長寿企業調査のための文献・資料の収集
第26回 長寿企業グループワーク①文献・資料の整理
第27回 長寿企業グループワーク②発見事実の提示と解釈
第28回 長寿企業研究の中間報告とフィードバック
第29回 長寿企業研究報告会①（報告・質疑応答）
第30回 長寿企業研究報告会②（報告・質疑応答）とまとめ（講評）

教科書・参考文献

教科書 アントレプレナー、長寿企業、ファミリービジネス、事業承継、地域密着経営等のテーマに関連する本をテキストとして用いる。
参考書 演習の間に適宜紹介する。

授業外での学習

文献輪読は、テキストの各章を熟読の上、出席すること。業界研究・長寿企業研究は、グループで計画的に調査を進めること。

評価方法

課題の成果（30％）、調査・報告の成果（50％）、報告に対する質問とコメント・ディスカッションへの貢献（20％）

履修上の注意

ゼミの研究テーマと関連する本や論文・雑誌記事等は積極的に読み、自分自身の意見を持ち、ディスカッションに積極的に参加してほしい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

講師 塩澤 康平 (シオザワ コウヘイ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

研究を遂行する上で必要となる基礎的な知識を習得します。特に、ミクロ経済学の知識をより深く理解するために、演習問題を解き、テキストを輪読します。また、文献を調査することで、より専門的な知識やミクロ経済学の応用についても理解します。

達成目標

- ・ 経済学や統計学の知識を理解し、具体的な問題で確認できる。
- ・ 専門的な文献の調べ方と読み方を理解し、知識を整理できる。
- ・ 他者と協働する能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につける。

スケジュール

- 第1回 前期のオリエンテーション (全体の目的と前期の進め方について)
- 第2回 ミクロ経済学の復習とプログラミング入門
- 第3回 課題演習 (1)
- 第4回 課題演習 (2)
- 第5回 課題演習 (3)
- 第6回 課題演習 (4)
- 第7回 興味・関心のあるトピックの探索 (1)
- 第8回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (1)
- 第9回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (2)
- 第10回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (3)
- 第11回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (4)
- 第12回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (5)
- 第13回 ミクロ経済学と統計学に関するテキストの輪読 (6)
- 第14回 興味・関心のあるトピックの探索 (2)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期のオリエンテーション (全体の目的と後期の進め方について)
- 第17回 論文の読み方
- 第18回 文献調査の報告 (1)
- 第19回 文献調査の報告 (2)
- 第20回 文献調査の報告 (3)
- 第21回 文献調査の報告 (4)
- 第22回 文献調査の報告 (5)
- 第23回 研究テーマの探索 (1)
- 第24回 文献調査の報告 (6)
- 第25回 文献調査の報告 (7)
- 第26回 文献調査の報告 (8)
- 第27回 文献調査の報告 (9)
- 第28回 文献調査の報告 (10)
- 第29回 研究テーマの探索 (2)
- 第30回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜お知らせします。

参考書 適宜お知らせします。

授業外での学習

課題をたくさん解いてもらい、受講者の前でプレゼンテーションしてもらいますので、授業外での十分な予習・復習と報告準備の時間が必要です。

評価方法

報告内容、ゼミ参加への積極性を基に、総合的に評価します。

履修上の注意

- ・ 課題演習、文献調査、プレゼンテーションのそれぞれに関して、積極的に協調して取り組んでください。
- ・ ミクロ経済学、統計学、経済数学については、入門科目の知識を前提として演習を実施します。
- ・ 上記スケジュールは予定であり、受講者の理解度に応じて変更する場合があります。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

講師 塩澤 康平 (シオザワ コウヘイ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

これまでの学習を踏まえて、ミクロ経済学に関わる研究テーマを各自設定して調査・研究します。

達成目標

- ・ 先行研究を理解し、研究テーマを選択する。
- ・ 研究テーマに関する調査・研究を遂行し、新たな知見を得る。
- ・ 卒業論文を完成させる。

スケジュール

第1回 前期のオリエンテーション (全体の目的と前期の進め方について)
第2回 テーマ設定 (1)
第3回 テーマ設定 (2)
第4回 テーマ設定 (3)
第5回 研究内容の設定と計画の策定 (1)
第6回 研究内容の設定と計画の策定 (2)
第7回 研究内容の設定と計画の策定 (3)
第8回 進捗報告 (1)
第9回 進捗報告 (2)
第10回 進捗報告 (3)
第11回 進捗報告 (4)
第12回 進捗報告 (5)
第13回 進捗報告 (6)
第14回 進捗報告 (7)
第15回 前期のまとめ
第16回 後期のオリエンテーション (全体の目的と後期の進め方について)
第17回 進捗報告 (8)
第18回 進捗報告 (9)
第19回 進捗報告 (10)
第20回 論文指導 (1)
第21回 論文指導 (2)
第22回 論文指導 (3)
第23回 論文指導 (4)
第24回 論文指導 (5)
第25回 論文指導 (6)
第26回 最終報告の準備 (1)
第27回 最終報告の準備 (2)
第28回 最終報告会 (1)
第29回 最終報告会 (2)
第30回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜お知らせします。

参考書 適宜お知らせします。

授業外での学習

卒業研究を遂行し、受講者の前でプレゼンテーションしてもらいますので、授業外での十分な学習と準備時間が必要です。

評価方法

報告内容、ゼミ参加への積極性を基に、総合的に評価します。

履修上の注意

- ・ 卒業論文の完成に向けて、積極的に協調して取り組んでください。
- ・ 上記スケジュールは予定であり、受講者の理解度に応じて変更する場合があります。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 井上 真由美 (イノウエ マユミ)

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

3年次までの演習の内容（日本企業の活動、長寿企業に関する学び）を踏まえ、それぞれが特に関心を持った現象について深く調査・研究できる力を身につける

達成目標

- ・ 演習で学んだ研究領域（アントレプレナー、長寿企業、ファミリービジネス、事業承継、地域密着経営等）内で、各自の関心にもとづいて研究テーマを設定する
- ・ 文献の精読、企業に関する情報・文献の収集と整理、ヒアリング調査等、演習Iで学んだスキルを生かして、卒業論文を完成させる

スケジュール

- 1 論文の書き方についてのガイダンス①（年間スケジュール、作業の進め方に関する説明）
- 2 論文の書き方についてのガイダンス②（問題意識の明確化、先行研究の整理に関する説明）
- 3 論文の書き方についてのガイダンス③（課題の設定、調査方法に関する説明）
- 4～6 研究課題設定のための準備（文献・資料の収集と整理）
- 7 研究計画書の作成
- 8～15 研究課題と調査方法に関する報告
- 16～20 卒業論文の中間報告・質疑応答・今後の進め方の確認（1回目）
- 21～25 卒論論文の中間報告・質疑応答・今後の進め方の確認（2回目）
- 26 卒業論文の提出とグループによる検討、加筆・修正
- 27 グループによる検討、加筆・修正、修正原稿の提出
- 28 卒業研究の報告会①（報告と質疑・応答）
- 29 卒業研究の報告会②（報告と質疑・応答）
- 30 まとめ（卒業論文の講評と総括）

教科書・参考文献

教科書 白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房

参考書 アントレプレナー、長寿企業、ファミリービジネス、事業承継、地域密着経営に関する参考文献を演習時に適宜紹介する

授業外での学習

ゼミ生各自の研究計画にもとづき、卒業論文を執筆する

評価方法

卒業論文と最終報告の成果（70％）、他のゼミ生の中間報告に対する助言の内容（20％）、グループワークへの貢献（10％）

履修上の注意

12月の卒業論文提出に向けて、ゼミ生各自が計画的に作業を進める必要があります

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 内山 知一 (ウチャマ トモカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

社会科教育を含む教育分野のさまざまな内容について、基礎知識を習得し、自らの関心を深める。

達成目標

1. 教育分野の基礎的な内容を、関連性も含めて把握する。
2. 既習の知識も生かしながら、当該領域において自らの関心を深めることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期)
- 第2回 テキスト輪読等によるテーマづくり(1)
- 第3回 テキスト輪読等によるテーマづくり(2)
- 第4回 テキスト輪読等によるテーマづくり(3)
- 第5回 テキスト輪読等によるテーマづくり(4)
- 第6回 テキスト輪読等によるテーマづくり(5)
- 第7回 テキスト輪読等によるテーマづくり(6)
- 第8回 基礎的分野についての班活動(1)
- 第9回 基礎的分野についての班活動(2)
- 第10回 基礎的分野についての班活動(3)
- 第11回 基礎的分野についての班活動(4)
- 第12回 基礎的分野についての班活動(5)
- 第13回 基礎的分野についての班活動(6)
- 第14回 振り返りと既習事項の確認
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 ガイダンス (後期)
- 第17回 テキスト輪読等によるテーマづくり(7)
- 第18回 テキスト輪読等によるテーマづくり(8)
- 第19回 テキスト輪読等によるテーマづくり(9)
- 第20回 テキスト輪読等によるテーマづくり(10)
- 第21回 テキスト輪読等によるテーマづくり(11)
- 第22回 テキスト輪読等によるテーマづくり(12)
- 第23回 授業事例の評価(1)
- 第24回 授業事例の評価(2)
- 第25回 授業事例の評価(3)
- 第26回 授業事例の評価(4)
- 第27回 関心テーマの発表(1)
- 第28回 関心テーマの発表(2)
- 第29回 関心テーマの発表(3)
- 第30回 後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 学生の希望も踏まえて決定する。

参考書 適宜資料を配布する。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度 (50%)
提出物・発表等 (50%)

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・進捗度合等によって、進行順等が前後することがある。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 内山 知一 (ウチャマ トモカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

これまでの学習も念頭に、自らの関心を発展させ、卒論として結実させる。

達成目標

1. 教育分野の基礎知識を十分に身に付け、その土台の上に、卒論を完成させることができる。
2. 既習の内容も生かして、自らが持つ関心を深め、発展させることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (前期)
- 第2回 テキスト輪読等によるテーマづくり (1)
- 第3回 テキスト輪読等によるテーマづくり (2)
- 第4回 テキスト輪読等によるテーマづくり (3)
- 第5回 テキスト輪読等によるテーマづくり (4)
- 第6回 基礎的分野についての班活動 (1)
- 第7回 基礎的分野についての班活動 (2)
- 第8回 基礎的分野についての班活動 (3)
- 第9回 基礎的分野についての班活動 (4)
- 第10回 基礎的分野についての班活動 (5)
- 第11回 卒論テーマ (方向性等を含む) の発表 (1)
- 第12回 卒論テーマ (方向性等を含む) の発表 (2)
- 第13回 卒論テーマ (方向性等を含む) の発表 (3)
- 第14回 卒論テーマ (方向性等を含む) の発表 (4)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 ガイダンス (後期)
- 第17回 授業事例の評価 (1)
- 第18回 授業事例の評価 (2)
- 第19回 授業事例の評価 (3)
- 第20回 授業事例の評価 (4)
- 第21回 卒論経過報告 (1)
- 第22回 卒論経過報告 (2)
- 第23回 卒論経過報告 (3)
- 第24回 卒論経過報告 (4)
- 第25回 卒論概要の発表 (1)
- 第26回 卒論概要の発表 (2)
- 第27回 卒論概要の発表 (3)
- 第28回 卒論概要の発表 (4)
- 第29回 卒論概要の発表 (5)
- 第30回 後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 学生の希望も踏まえて決定する。

参考書 適宜資料を配布する。

授業外での学習

事前・事後の予習・復習をしっかりと行うこと。

評価方法

参加度 (提出物・発表等を含む : 50%)
卒論 (50%)

履修上の注意

やむを得ない場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。受講人数・進捗度合等によって、進行順等が前後することがある。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

講師 梅田 宙 (ウメダ ヒロシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

基礎演習で学習した会計の知識をベースとして、より専門的な学習を行う。学習方法として文献の輪読・討論やグループごとにテーマを決めて研究を行う。学外のインゼミに参加することも視野に入れる。

達成目標

研究テーマを設定し、テーマに沿った情報の収集を行い、自分なりの考え方を提示することができる。

スケジュール

- 第1回 前期ガイダンス (演習の進め方、テキストの決定)
- 第2回 文献の輪読1
- 第3回 文献の輪読2
- 第4回 文献の輪読3
- 第5回 文献の輪読4
- 第6回 文献の輪読5
- 第7回 文献の輪読6
- 第8回 文献の輪読7
- 第9回 研究テーマの絞り込み
- 第10回 発表資料の作成1
- 第11回 発表資料の作成2
- 第12回 グループごとの研究発表1
- 第13回 グループごとの研究発表2
- 第14回 グループごとの研究発表3
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期ガイダンス
- 第17回 文献の輪読1
- 第18回 文献の輪読2
- 第19回 文献の輪読3
- 第20回 文献の輪読4
- 第21回 研究課題の抽出
- 第22回 論文の書き方1: 形式面 (論文の構成、参考文献の表示方法等)
- 第23回 論文の書き方2: 問題提起、問題の背景、論文の目的
- 第24回 論文の書き方3: 課題に関連する先行研究のレビュー、基本的な知識の提示
- 第25回 論文の書き方4: 課題に対する見解の提示
- 第26回 論文の書き方5: 分析・解釈・自分の主張の提示
- 第27回 発表資料の作成1
- 第28回 グループごとの研究発表1
- 第29回 グループごとの研究発表2
- 第30回 一年間のまとめ

教科書・参考文献

教科書 輪読用テキスト (ゼミ生と相談して決める)

参考書

授業外での学習

関心のある企業の開示資料を読む。

評価方法

演習講義の受講状況と報告・討論などの取り組み姿勢によって総合的に評価する。

履修上の注意

積極的かつ主体的な取り組みが求められます。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

講師 梅田 宙 (ウメダ ヒロシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

基礎演習と演習Iで学んできた知識を活用して卒業論文を書き上げることを目的とする。また、自分が研究した内容を他人に伝えられるように報告する手法を身につけることを目的とする。学外のインゼミに参加することも視野に入れる。

達成目標

- ・ 卒業論文をまとめる。
- ・ 研究内容を相手に伝えるようにプレゼンする。

スケジュール

- 第1回 前期ガイダンス (演習の進め方)
- 第2回 研究テーマの検討1: 問題提起, 問題の背景, 論文の目的などの決定
- 第3回 研究テーマの検討2: 問題提起, 問題の背景, 論文の目的などの決定
- 第4回 研究テーマに関連した文献の収集と発表1
- 第5回 研究テーマに関連した文献の収集と発表2
- 第6回 研究テーマに関連した文献の収集と発表3
- 第7回 研究テーマに関連した文献の収集と発表4
- 第8回 中間報告1: 研究課題に対する現時点の主張が中心
- 第9回 研究テーマの再検討1
- 第10回 研究テーマの再検討2
- 第11回 研究テーマに関連した文献の収集と発表5
- 第12回 研究テーマに関連した文献の収集と発表6
- 第13回 研究テーマに関連した文献の収集と発表7
- 第14回 中間報告2
- 第15回 前期のまとめと夏休みの課題設定
- 第16回 後期ガイダンス
- 第17回 研究テーマの最終決定
- 第18回 論文の書き方の復習
- 第19回 卒業論文原稿の執筆1: 問題提起, 問題の背景, 論文の目的の執筆
- 第20回 卒業論文原稿の執筆2: 先行研究レビュー等の執筆
- 第21回 卒業論文原稿の執筆3: 課題に対する見解の執筆
- 第22回 中間報告1: 執筆論文の進捗状況
- 第23回 卒業論文原稿の修正1
- 第24回 卒業論文原稿の修正2
- 第25回 中間報告2: 執筆論文の進捗状況
- 第26回 卒業論文報告の準備
- 第27回 卒業論文の報告1
- 第28回 卒業論文の報告2
- 第29回 卒業論文の報告3
- 第30回 まとめ: 卒業論文の提出

教科書・参考文献

教科書 テキスト (ゼミ生と相談して決める)

参考書

授業外での学習

関心のある企業の開示資料を読む。

評価方法

演習講義の受講状況, 報告・討論の取り組み姿勢, 卒業論文の内容などを総合的に評価する。

履修上の注意

積極的かつ主体的な取り組みが求められます。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 大石 恵 (オオイシ メグミ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

- ① 中国・アジア経済に関する基本文献の輪読（報告・討論）を行い、広くアジア経済に関する知識を深める。
- ② 各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、進級論文を執筆する。
- ③ 『日本経済新聞』の記事から重要と思われる内容を取り上げ、毎週発表する。

達成目標

- ① テキストの輪読を通じて、経済発展の歴史に関する知識を修得する。
- ② 各自で研究テーマを設定し、4年次の卒業論文作成の準備段階として進級論文を執筆する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（年間計画等）
- 第2回 新聞記事の発表、テキスト第7章1～3の輪読
- 第3回 新聞記事の発表、テキスト第7章4、5の輪読
- 第4回 新聞記事の発表、テキスト第7章練習問題
- 第5回 新聞記事の発表、テキスト第8章1、2の輪読
- 第6回 新聞記事の発表、テキスト第8章3、4の輪読
- 第7回 新聞記事の発表、テキスト第8章練習問題
- 第8回 新聞記事の発表、テキスト第9章1、2の輪読
- 第9回 新聞記事の発表、テキスト第9章3の輪読、練習問題
- 第10回 新聞記事の発表、テキスト第10章1の輪読
- 第11回 新聞記事の発表、テキスト第10章2、3の輪読
- 第12回 新聞記事の発表、テキスト第10章練習問題
- 第13回 新聞記事の発表、テキスト第11章1、2の輪読
- 第14回 新聞記事の発表、テキスト第11章3、4の輪読
- 第15回 新聞記事の発表、テキスト第11章練習問題、終章の輪読
- 第16回 ガイダンス（進級論文の執筆に関する諸注意）
- 第17回 新聞記事の発表、進級論文の構想発表①
- 第18回 新聞記事の発表、進級論文の構想発表②
- 第19回 新聞記事の発表、進級論文の構想発表③
- 第20回 新聞記事の発表、進級論文の構想発表④
- 第21回 進級論文の執筆指導
- 第22回 新聞記事の発表、進級論文の発表①
- 第23回 新聞記事の発表、進級論文の発表②
- 第24回 新聞記事の発表、進級論文の発表③
- 第25回 新聞記事の発表、進級論文の発表④
- 第26回 進級論文の執筆指導
- 第27回 新聞記事の発表、進級論文の最終発表①
- 第28回 新聞記事の発表、進級論文の最終発表②
- 第29回 新聞記事の発表、進級論文の最終発表③
- 第30回 新聞記事の発表、進級論文の最終発表④

教科書・参考文献

- 教科書 基礎演習から継続して、以下の本を使用する。
河崎信樹・奥和義編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年。
- 参考書 必要に応じて、ゼミ中に紹介する。

授業外での学習

年度末の進級論文の完成に向けて、参考文献の収集、読み込みを行うとともに、随時、進級論文の個別報告を行う。

評価方法

- 評価の基準は、以下の通りとする。
- (1) 毎回の報告・討論への取組み（50%）、(2) 進級論文への取組み・論文の内容（50%）

履修上の注意

病気、忌引等の場合、速やかに担当教員に連絡すること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 大石 恵 (オオイシ メグミ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

アジア経済に関する知識を深めるとともに、各自で研究テーマを設定し、特定の国・地域や領域に関する調査・研究を行う。

達成目標

2年半のゼミ活動の集大成として、年度末に卒業論文を完成させる。

スケジュール

第1回 ガイダンス (年間計画、卒業論文作成上の諸注意)
第2回 卒業論文計画の発表①
第3回 卒業論文計画の発表②
第4回 卒業論文計画の発表③
第5回 卒業論文の発表 第1回①
第6回 卒業論文の発表 第1回②
第7回 卒業論文の発表 第1回③
第8回 第1回発表に対する指導
第9回 卒業論文の発表 第2回①
第10回 卒業論文の発表 第2回②
第11回 卒業論文の発表 第2回③
第12回 第2回発表に対する指導
第13回 卒業論文の発表 第3回①
第14回 卒業論文の発表 第3回②
第15回 卒業論文の発表 第3回③
第16回 ガイダンスおよび第2～15回を踏まえた論文指導
第17回 卒業論文の発表 第4回①
第18回 卒業論文の発表 第4回②
第19回 卒業論文の発表 第4回③
第20回 第4回発表に対する指導
第21回 卒業論文の発表 第5回①
第22回 卒業論文の発表 第5回②
第23回 卒業論文の発表 第5回③
第24回 第5回発表に対する指導
第25回 卒業論文の発表 第6回①
第26回 卒業論文の発表 第6回②
第27回 卒業論文の発表 第6回③
第28回 論文指導 (加筆・修正) ①
第29回 論文指導 (加筆・修正) ②
第30回 卒業論文の最終発表

教科書・参考文献

教科書 指定なし。

参考書 卒業論文のテーマに応じて、個別に指示する。

授業外での学習

4年次では卒業論文を作成するため、必要に応じて授業時間外でも個別指導を行う。授業内外での指示にしたがって、本や資料の収集を進めておく。

評価方法

評価の基準は、次の2点とする。

(1)発表準備・実施状況、論文指導 (60%)、(2)卒業論文の提出・内容 (40%)

履修上の注意

病気、忌引等で欠席する場合、速やかに担当教員に連絡すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期は、特定の地域（都市）において、ゼミナールとして、宿泊を伴う臨地フィールド調査（夏休み期間中に実施予定）を行うことを通して、各自が自分の興味あるテーマを見つけて文献調査や現地調査をして、卒業論文に準拠するレポートを仕上げることを目指す。後期は、その調査の成果を全員に発表させて、各自の調査の長短所を考察させる。後半は、日本地理の基本事項が学べる本を輪読し、日本地理の基礎的事項と教養を学習させる。

達成目標

臨地フィールド調査を行う場所と日程を決めた上で、全員でその旅行計画を立てさせる。また、各自調査計画を立て、事前調査を行い、中間報告したうえで、効率よい調査に臨めるようにする。進むように各自の調査に取り掛かる。後期は、フィールド調査の成果発表をさせたうえで、レポートとしてまとめる。後半は、下記教科書を、順番に分担を割り振って、輪読を行う。

スケジュール

- 第1回 年間の授業計画の概要
- 第2回 前年度の卒業論文集の配布とその講評
- 第3回 臨地フィールド調査の計画
- 第4回 臨地フィールド調査地の学習
- 第5回 旅行計画の立案（1）
- 第6回 旅行計画の立案（2）
- 第7回 旅行計画の立案（3）
- 第8回 文献調査や現地調査に向けての留意事項
- 第9回 テーマと文献調査の状況を発表（1）
- 第10回 テーマと文献調査の状況を発表（2）
- 第11回 テーマと文献調査の状況を発表（3）
- 第12回 レポートの構成と具体的調査計画を発表（1）
- 第13回 レポートの構成と具体的調査計画を発表（2）
- 第14回 レポートの構成と具体的調査計画を発表（3）
- 第15回 臨地フィールド調査の行程やホテル・経費などの確認と諸注意
- 第16回 後期の授業の進め方を指示
- 第17回 臨地フィールド調査の成果発表（1）
- 第18回 臨地フィールド調査の成果発表（2）
- 第19回 臨地フィールド調査の成果発表（3）
- 第20回 レポート執筆の留意事項と提出の指示
- 第21回 輪読の本の決定と購入
- 第22回 臨地フィールド調査のレポートを提出、以降の輪読分担を指示(以下項目を記載)
- 第23回 輪読（1）
- 第24回 輪読（2）
- 第25回 輪読（3）
- 第26回 輪読（4）
- 第27回 フィールド調査のレポートのまとめ方指導（1）
- 第28回 フィールド調査のレポートのまとめ方指導（2）と提出
- 第29回 論集作成に向けたレポートの編集と講評
- 第30回 1年間の研修の総括

教科書・参考文献

- 教科書 学生が要望出しながら輪読の著書を決める
地図帳と時刻表を毎回各自で持参
- 参考書 必要に応じて、その都度個別に指示

授業外での学習

夏期休業期間中、近隣地方都市を選んで宿泊して、臨地フィールド調査を行う。
また、その下調べや計画の立案を、分担して行う。
輪読を主体とした演習時は、該当書籍の事前購読しておく。

評価方法

出席等受講態度を重視（特に夏休みの臨地フィールド調査必須、25％程度）、
臨地フィールド調査の成果報告（25％程度）、
各学期末に行う筆記試験（25％程度）、学習事項や輪読内容の把握と発表の状況（25％程度）

履修上の注意

予備知識と要望：交通論Ⅱ及び世界地誌・日本地誌を履修しているのが望ましいし、それを前提で授業する。
資格への対応：国内・総合旅行業務取扱管理者試験や時刻表検定などを目指す意欲を持つことが重要と考える。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 大島 登志彦 (オオシマ トシヒコ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期は、前年度の当ゼミナールの卒業論集を分担して講評しあうほか、地理歴史的教養を学べる産業遺産に関する基礎文献を輪読する。それらを通して、参考文献を検索して先行研究論文の意義を理解させたり、作業を通して論文に挿入する図表作成の資質を身につけさせながら、調査・論文執筆を進めて、発表スキルを身につけさせる。後期は、卒業論文の中間発表を講評しあい、それを完成させて論集に掲載させ、充実感と成果を認識させる。

達成目標

前期はまず、次に、図表の作成や参考文献に関わる諸問題を、作業や発表、公共交通や産業遺産に関する輪読を通して、研究に対するスキルが身につくように授業を進める。後期は、指導教員との共同調査も含めて、中間発表を重ねながら、卒業論文を完成させ、論集をまとめさせる。

スケジュール

- 第1回 年間の授業計画と前年度の卒業論文集の配布
- 第2回 前年度の卒業論文の講評発表
- 第3回 前年度の卒業論文の講評発表
- 第4回 輪読の目的と分担(下記著書、以下項目を記載)
- 第5回 産業遺産の概要
- 第6回 産業の分類と産業遺産
- 第7回 東北地方の産業遺産
- 第8回 群馬県の産業遺産
- 第9回 産業遺産の関連学会と主な博物館・資料館
- 第10回 文献調査や地図の作成についての留意事項
- 第11回 重要文献調査の状況を発表(1)
- 第12回 重要文献調査の状況を発表(2)
- 第13回 卒業論文の進捗状況に関する講評
- 第14回 卒業論文の中間発表と夏休みの調査計画
- 第15回 前期の研修の総括
- 第16回 後期の授業の進め方を指示
- 第17回 夏休み中の調査を取り入れた卒業論文の中間発表(1)
- 第18回 夏休み中の調査を取り入れた卒業論文の中間発表(2)
- 第19回 夏休み中の調査を取り入れた卒業論文の中間発表(3)
- 第20回 卒業論文執筆に向けての留意事項
- 第21回 教員との共同調査を踏まえての卒業論文の中間発表(1)
- 第22回 教員との共同調査を踏まえての卒業論文の中間発表(2)
- 第23回 教員との共同調査を踏まえての卒業論文の中間発表(3)
- 第24回 卒業と新たな進路に向けての留意事項
- 第25回 卒論最終まとめと論文集作成に対する留意事項
- 第26回 卒業論文の提出と講評
- 第27回 1年間のまとめと卒業に向けての指示
- 第28回 卒業論文の発表会(1)
- 第29回 卒業論文の発表会(2)
- 第30回 1年間の研修の総括

教科書・参考文献

- 教科書 平井東幸・種田明・堤一郎『産業遺産を歩こう』(2009年、東洋経済新報社)
地図帳と時刻表を毎回各自で持参
- 参考書 白川淳『全国鉄道博物館』(2007年、JTBパブリッシング)
北河大次郎・後藤治編『日本の近代化遺産』(2007年、河出書房新社)

授業外での学習

卒業論文に向けて、各自の調査を進め、随時指導教員と情報交換する。
卒業論文の執筆を各自すすめるとともに、卒業論集について、編集作業を分担して行い、完成させる。

評価方法

出席等受講態度を重視(ゼミナールで行うフィールド調査も含む、25%程度)、卒業論文(25%程度)
各学期末に行う筆記試験(25%程度)、学習事項や輪読内容の把握と発表の状況(25%程度)

履修上の注意

予備知識と要望：交通論I・II及び世界地誌・日本地誌を履修しているのが望ましいし、それを前提で授業する。
資格への対応：国内・総合旅行業務取扱管理者試験や地理・歴史関係検定などを旨とする意欲を持って取り組みたい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
教授 岡田 和彦 (オカダ カズヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

人々の希望を育み、社会に活力を与える新たな社会経済システムとはどのようなものか。本演習では、基礎演習で得られたセーフティネットについての基本的理解を前提にして、セーフティネットの現実のありかたについて検討します。本演習の目的は、各自が自分自身のセーフティネット論をもつことです。その際、基本的なスタンスは、多様性を容認することのできる柔軟な思考・方法論に立脚して、共に悩み、考える、というものです。

達成目標

ゼミ生が自分に固有のセーフティネット論をもち、それを自分の言葉で説明できるようになることが、演習Iの達成目標です。

スケジュール

第1回 はじめに：レジュメのまとめ方について
第2回 「セーフティネットの政治経済学」序章
第3回 「セーフティネットの政治経済学」第1章 1
第4回 「セーフティネットの政治経済学」第1章 2
第5回 「セーフティネットの政治経済学」第2章 1
第6回 「セーフティネットの政治経済学」第2章 2
第7回 「セーフティネットの政治経済学」第3章
第8回 「セーフティネットの政治経済学」第4章 1
第9回 「セーフティネットの政治経済学」第4章 2
第10回 「セーフティネットの政治経済学」第5章 1
第11回 「セーフティネットの政治経済学」第5章 2
第12回 「セーフティネットの政治経済学」第6章 1
第13回 「セーフティネットの政治経済学」第6章 2
第14回 「セーフティネットの政治経済学」終章
第15回 まとめ：市場経済とセーフティネット
第16回 はじめに：研究報告の方法について
第17回 研究経過報告：第1回 (1)
第18回 研究経過報告：第1回 (2)
第19回 研究経過報告：第1回 (3)
第20回 研究経過報告：第1回 (4)
第21回 研究経過報告：第1回 (5)
第22回 研究経過報告：第1回 (6)
第23回 研究経過報告：第1回 (7)
第24回 研究経過報告：第2回 (1)
第25回 研究経過報告：第2回 (2)
第26回 研究経過報告：第2回 (3)
第27回 研究経過報告：第2回 (4)
第28回 研究経過報告：第2回 (5)
第29回 研究経過報告：第2回 (6)
第30回 まとめ：グローバル化とセーフティネット

教科書・参考文献

教科書 金子勝『セーフティネットの政治経済学』ちくま新書、1999年。

参考書 演習時間中に適宜指示します。

授業外での学習

日ごろから新聞・インターネットなどの経済関連記事に目を通すよう心がけること。

評価方法

前期のレジュメ20%×2回=40%(40点満点)、後期の研究経過報告30%×2回=60%(60点満点)で、合格基準は両者あわせて60点以上です。

履修上の注意

演習には積極的に参加し、自主的に学習を進める姿勢を身に付けること。なお、上記のことからについて、状況に応じて変更することがあります。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 岡田 和彦 (オカダ カズヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

演習Iで得られた各自のセーフティネット論を前提にして、セーフティネットの現実的なありかたに考察を進めます。本演習での目的は、各自の関心分野におけるセーフティネットの具体的な制度・政策とその社会的意義について、論文にまとめあげることです。

達成目標

自分の関心領域におけるセーフティネットの具体的なありようと、その社会的な機能および意味について、自分の言葉で説明できるようになることが、演習IIの達成目標です。

スケジュール

- 第1回 はじめに：セーフティネットの現状
- 第2回 『逆システム学』序章
- 第3回 『逆システム学』第1章 (1) (2)
- 第4回 『逆システム学』第1章 (3) (4)
- 第5回 『逆システム学』第2章 (1) (2)
- 第6回 『逆システム学』第2章 (3) (4)
- 第7回 『逆システム学』第3章 (1) (2) (3)
- 第8回 『逆システム学』第3章 (4) (5) (6)
- 第9回 『逆システム学』第4章 (1) (2) (3)
- 第10回 『逆システム学』第4章 (4) (5) (6)
- 第11回 『逆システム学』終章 (1) (2) (3) (4)
- 第12回 労働のセーフティネット
- 第13回 金融のセーフティネット
- 第14回 地域経済とセーフティネット
- 第15回 まとめ：セーフティネットの可能性
- 第16回 はじめに：論文の書き方について
- 第17回 研究報告 (1)
- 第18回 研究報告 (2)
- 第19回 研究報告 (3)
- 第20回 研究報告 (4)
- 第21回 研究報告 (5)
- 第22回 研究報告 (6)
- 第23回 研究報告 (7)
- 第24回 論文発表 (1)
- 第25回 論文発表 (2)
- 第26回 論文発表 (3)
- 第27回 論文発表 (4)
- 第28回 論文発表 (5)
- 第29回 論文発表 (6)
- 第30回 論文発表 (7)

教科書・参考文献

教科書 金子勝・児玉達彦『逆システム学』岩波書店、2004年。

参考書 演習時間中に適宜指示します。

授業外での学習

日ごろから新聞やインターネットの経済関連記事に目を通すよう心がけること。

評価方法

研究報告1回が40% (40点)、論文発表1回が60% (60点)で、合格基準は両者あわせて60点 (100点満点)。

履修上の注意

明確な目的意識と強い責任感をもって、自主的に学習を進めていくこと。なお、上記のことからについては状況に応じて変更することがあります。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員 岡田 知之 (オカダ トモユキ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ミクロ経済学・マクロ経済学といった経済学の基礎理論を習得し、経済学的観点から物事を考える力を身につけることが、ゼミでの目的である。

達成目標

演習Iではミクロ経済学とマクロ経済学の両方について、文献の輪読を行う予定である。報告や質問への返答を行うことにより、「自分の言葉で伝えること」や「自分なりに考えること」を身につけることを目指す。

スケジュール

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 ミクロ経済学：プレリユード | 16 外部性と公共財③ |
| 2 需要と供給 | 17 ゲーム理論① |
| 3 家計の消費行動① | 18 ゲーム理論② |
| 4 家計の消費行動② | 19 マクロ経済学プレリユード |
| 5 企業の供給行動① | 20 GDPと経済指標の見方 |
| 6 企業の供給行動② | 21 GDPの決定① |
| 7 完全競争市場と効率性① | 22 GDPの決定② |
| 8 完全競争市場と効率性② | 23 消費と投資① |
| 9 生産要素市場と所得分配① | 24 消費と投資② |
| 10 生産要素市場と所得分配② | 25 消費と投資③ |
| 11 不完全競争市場① | 26 貨幣の需要と供給① |
| 12 不完全競争市場② | 27 貨幣の需要と供給② |
| 13 不完全競争市場③ | 28 IS-LM分析① |
| 14 外部性と公共財① | 29 IS-LM分析② |
| 15 外部性と公共財② | 30 IS-LM分析③ |

教科書・参考文献

教科書 嶋村、佐々木、横山、片岡、高瀬 (2002年) 『入門ミクロ経済学』中央経済社
嶋村、佐々木、横山、晝間、横田、片岡 (1999年) 『入門マクロ経済学』中央経済社
参考書 特になし。

授業外での学習

報告の担当者は十分に事前準備をするようにお願いします。

評価方法

平常点、発表、レポートの提出の状況をふまえ総合的に評価する。

履修上の注意

ゼミでの発表では、「自分なりに考えること」と「自分の言葉で伝えること」を重視する予定である。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員 岡田 知之 (オカダ トモユキ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ミクロ経済学・マクロ経済学といった経済学の基礎理論を用いて、さまざまな経済問題を考察する力を養うことがゼミの目的である。

達成目標

演習IIでは主にマクロ経済学について、文献の輪読を行う。さらに、興味を持つテーマを選んでいただき、そのテーマに関して、経済学の考え方をふまえて卒業論文を作成していただく予定である。

スケジュール

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 経済政策の有効性① | 16 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 2 経済政策の有効性② | 17 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 3 経済政策の有効性③ | 18 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 4 オープン・マクロ経済学① | 19 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 5 オープン・マクロ経済学② | 20 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 6 オープン・マクロ経済学③ | 21 卒業論文のテーマ選定と内容の検討 |
| 7 労働市場と総需要・総供給① | 22 卒業論文の中間報告 |
| 8 労働市場と総需要・総供給② | 23 卒業論文の中間報告 |
| 9 労働市場と総需要・総供給③ | 24 卒業論文の中間報告 |
| 10 インフレーションと失業① | 25 卒業論文の中間報告 |
| 11 インフレーションと失業② | 26 卒業論文の中間報告 |
| 12 インフレーションと失業③ | 27 卒業論文の中間報告 |
| 13 経済成長① | 28 卒業論文の修正・加筆 |
| 14 経済成長② | 29 卒業論文の修正・加筆 |
| 15 経済成長③ | 30 卒業論文の修正・加筆 |

教科書・参考文献

教科書 嶋村、佐々木、横山、晝間、横田、片岡 (1999年) 『入門マクロ経済学』中央経済社

参考書 特になし。

授業外での学習

報告の担当者は十分に事前準備をするようにお願いします。

評価方法

平常点、発表、レポートの提出の状況をふまえ総合的に評価する。

履修上の注意

ゼミでの発表では、「自分なりに考えること」と「自分の言葉で伝えること」を重視する予定である。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 尾形 祥 (オガタ ショウ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミでは、会社をめぐる問題について、報告者または報告班ごとにテーマを決定し、それについて、報告者に問題提起をしてもらい、私見を述べてもらいます。現実社会において会社をめぐるような問題が存在するの
かを明確にした上で、それをいかに解決していくべきかについて全員でディスカッションをしていきます。
具体的にゼミで取り扱うテーマは下記のスケジュールに記載してある通りです。個々の制度や判例についての
報告を行い、その問題点について全体でディスカッションをしたいと考えています。それにより、会社法や商法
の基礎知識の習得と確認、さらに、法的な思考方法を身に付けることを目的とします。また、報告や討論を通じ
て、プレゼンテーションや質疑応答の仕方を学び、それらに慣れることを目的とします。

達成目標

会社法や商法の基礎知識の習得を目標とします。また、会社法や商法をめぐる身近な事例問題を取り上げ、「会社」や「商」の世界で引き起こされる問題について検討し、各受講生がそうした問題に対する自らの結論を論理的に導き出せるようにすることを目標とします。

スケジュール

- 第1回：今年度の授業計画、各自の学習計画を立て、報告順番を決める
- 第2回：A班報告①（持分会社に関する報告）と質疑応答
- 第3回：B班報告①（法人の権能力と政治献金に関する報告）と質疑応答
- 第4回：C班報告①（法人格否認に関する報告）と質疑応答
- 第5回：D班報告①（会社の設立と現物出資に関する報告）と質疑応答
- 第6回：A班報告②（設立中の会社に関する報告）と質疑応答
- 第7回：B班報告②（株式およびその共有に関する報告）と質疑応答
- 第8回：C班報告②（株主平等原則に関する報告）と質疑応答
- 第9回：D班報告②（株主の権利行使に関する利益供与の禁止）と質疑応答
- 第10回：A班報告③（配当・残余財産分配についての種類株式に関する報告）と質疑応答
- 第11回：B班報告③（議決権制限株式に関する報告）と質疑応答
- 第12回：C班報告③（全部取得条項付種類株式に関する報告）と質疑応答
- 第13回：D班報告③（株式の流通に関する報告）と質疑応答
- 第14回：A班報告④（自己株式に関する報告）と質疑応答
- 第15回：学習の振り返り
- 第16回：ガイダンス（後期研究報告の方針決定）
- 第17回：B班報告④（株主の会社に対する権利行使に関する報告）と質疑応答
- 第18回：C班報告④（株式の償却・併合・分割に関する報告）と質疑応答
- 第19回：D班報告④（新株発行に関する報告）と質疑応答
- 第20回：A班報告⑤（新株発行の瑕疵に関する報告）と質疑応答
- 第21回：B班報告⑤（新株予約権に関する報告）と質疑応答
- 第22回：C班報告⑤（事業譲渡に関する報告）と質疑応答
- 第23回：D班報告⑤（合併に関する報告）と質疑応答
- 第24回：A班報告⑥（会社分割に関する報告）と質疑応答
- 第25回：B班報告⑥（株式交換・株式移転に関する報告）と質疑応答
- 第26回：C班報告⑥（濫用的事業譲渡に関する報告）と質疑応答
- 第27回：D班報告⑥（社債に関する報告）と質疑応答
- 第28回：卒業論文の執筆方法についての講義
- 第29回：卒業論文のテーマと概要の報告
- 第30回：まとめ

教科書・参考文献

教科書 神田秀樹『会社法』（最新版、弘文堂）および六法全書（最新版）を持参してください。レジュメや資料を配布します。

参考書 江頭憲治郎『株式会社法』（第7版、有斐閣、2017年）、会社法判例百選（第3版、有斐閣、2016年）など。なお、講義中に適宜紹介します。

授業外での学習

報告班ごとに、サブゼミを開いて報告の事前準備をしてください。報告班以外のゼミ生は該当箇所を予習し、質問内容を考えてきてください。本ゼミは、プレゼンテーション能力のみならず、質疑応答能力の涵養にも重点を置きます。

評価方法

報告、プレゼンテーション能力（50%）、質問の仕方（20%）、質問に対する応答の仕方（20%）、ゼミへの積極的な参加態度（10%）で評価します。単位認定条件として各学期それぞれ10回以上の出席が必要です。遅刻も欠席とみなします。チャイムが鳴り終わるまでに教室に入ってください。

履修上の注意

本演習で扱うテーマの内容を理解しやすくするために、会社法や民法などの講義をあわせて受講されることをお勧めします。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 尾形 祥 (オガタ ショウ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

文献や事例（判例や裁判例など）から、企業の現状やその課題を見出した上で、報告者は卒業論文のテーマを決定し、研究します。報告者は、自己のテーマについて中間報告を2回行い、卒業論文を執筆することを目的とします。報告者以外の受講生は、報告者のプレゼンテーションを聞き、それについて質問し、コメントを述べてもらいます。担当教員や他の受講生のコメント等を参考にして、報告者は卒業論文を執筆します。

達成目標

先行研究（論文などの文献）や事例（判例、裁判例）から自己の卒業論文のテーマ（課題）を見つけだすことを目標とします。また、先行研究や統計資料から、企業をめぐる諸問題について検証するとともに、かかる諸問題に対して具体的解決策を提示するための方法を身につけます。さらに、自ら設定した問題を分析し、その解決策を説得的に論じるスキルを身につけ、その成果を卒業論文にまとめます。

スケジュール

第1回：オリエンテーション（授業の進め方、スケジュールの確認）

第2回：卒業論文のテーマの確定（問題意識の明確化、論文の構成）

第3回：論文の形式および引用文献の提示方法の説明

第4回～第14回：研究計画の発表。講義1回につき、2名ずつ卒業論文の中間報告（第1回）を行い、報告者相互に司会を担当する。

報告者は、報告レジュメの中で「タイトル」と「目次」を明確化し、論文の「はじめに」の箇所を必ず文章化することとする。

第15回：卒業論文執筆のため夏季休業期間中に行うべき事項の説明

【第1回中間報告に際しての留意事項】

- ① 報告者以外の受講生は、報告に対する質問票を作成し、質問票に基づいて報告者と質疑応答する。
- ② 質問票は回収し、報告者に内容を伝え、卒業論文の執筆に役立てることとする。
- ③ 担当教員は、質疑応答時間に議論をコーディネートし、報告と質疑応答の内容を踏まえつつ、卒業論文の執筆に必要なコメントを作成し、報告者に提供する。また、担当教員は、報告者の論文の「タイトル」、「目次」、「はじめに」についてコメントを作成し、必要に応じて、添削を行うことにより、報告者が論文の方向性を適切に確定させることができるように努める。

第16回：ガイダンス（卒業論文の完成に向けて留意すべき事項の説明）

第17回：第1回目の中間報告の修正事項（論文の形式面）についての確認

第18回～第28回：第1回目の報告とそれに対する担当教員および他の受講生によるコメントを踏まえて、講義1回につき、2名ずつ卒業論文の中間報告（第2回）を行い、報告者相互に司会を担当する。報告者は、第1回報告以降に執筆した論文の内容について報告を行う。

第29回：卒業論文の添削と校正についての説明

第30回：まとめ（卒業論文の提出と演習の総括）

【第2回中間報告に際しての留意事項】

- ① 報告者以外の受講生は、報告に対する質問票を作成し、質問票に基づいて報告者と質疑応答する。
- ② 質問票は回収し、報告者に内容を伝え、卒業論文の執筆に役立てることとする。
- ③ 担当教員は、質疑応答時間に議論をコーディネートし、報告と質疑応答の内容を踏まえつつ、卒業論文の執筆に必要なコメントを作成し、報告者に提供する。担当教員は、受講生の論文の進捗状況に応じて論文の添削を行う。

教科書・参考文献

教科書 神田秀樹『会社法』（最新版、弘文堂）および六法全書（最新版）を持参してください。レジュメや資料を配布します。

参考書 江頭憲治郎『株式会社法』（第7版、有斐閣、2017年）、会社法判例百選（第3版、有斐閣、2016年）など。なお、講義中に適宜紹介します。

授業外での学習

各受講生は、卒業論文の中間報告に先立ち参考文献や資料を精査し、講義に臨んでください。報告者以外の受講生が質問票に記載したコメントと担当教員によるコメントを参考に、卒業論文を執筆してください。

評価方法

報告、プレゼンテーション能力（50%）、質問の仕方（20%）、質問に対する応答の仕方（20%）、ゼミへの積極的な参加態度（10%）で評価します。単位認定条件として各学期それぞれ10回以上の出席が必要です。遅刻も欠席とみなします。チャイムが鳴り終わるまでに教室に入ってください。

履修上の注意

本演習で扱うテーマの内容を理解しやすくするために、会社法や民法などの講義をあわせて受講されることをお勧めします。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 加藤 健太 (カトウ ケンタ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

この演習の目的は、自分の意見を自分の言葉で発信できるようになることである。

達成目標

目的の達成のためには、さまざまな情報を収集し、取捨選択して自らのものにしていくこと、つまり、調べる力が必要になる。また、他の人の意見にも耳を傾け、協力し合いながら、自分の意見をさらに磨き上げていくこと、つまり、協同する力も大切である。このような力を、レポートの作成と発表、ディベートへの取り組みなどを通じて身に付けることが達成目標となる。

スケジュール

- 第1回 インタロクダクション 演習I前期運営計画の発表
- 第2回 企業のケーススタディII グループワークの計画発表
- 第3回 企業のケーススタディII グループワークの中間報告
- 第4回 企業のケーススタディII グループワークの成果報告①
- 第5回 企業のケーススタディII グループワークの成果報告②
- 第6回 ディベートのテーマおよび取り組み方に関する解説
- 第7回 企業のケーススタディII 個人レポートの計画発表
- 第8回 ディベートのテーマに関するプレゼンテーション①
- 第9回 ディベートのテーマに関するプレゼンテーション②
- 第10回 ゼミ内ディベート紅白戦(肯定A VS 否定C)
- 第11回 ゼミ内ディベート紅白戦(肯定B VS 否定D)
- 第12回 ゼミ内ディベート紅白戦(肯定 VS 否定)
- 第13回 ゼミ内ディベート紅白戦(肯定A VS 否定D)
- 第14回 ゼミ内ディベート紅白戦(肯定B VS 否定C)
- 第15回 紅白戦を踏まえた立論検討会の開催
- 第16回 インタロクダクション 演習I後期運営計画の発表
- 第17回 ディベートのオープン戦対策
- 第18回 ディベートの本戦対策①
- 第19回 ディベートの本戦対策②
- 第20回 企業のケーススタディII コメントーターの選定とコメントーターの役割
- 第21回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表①
- 第22回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表②
- 第23回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表③
- 第24回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表④
- 第25回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表⑤
- 第26回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表⑥
- 第27回 企業のケーススタディII 個人レポートの発表⑦
- 第28回 コメントを踏まえて加筆・修正したレポートの発表①
- 第29回 コメントを踏まえて加筆・修正したレポートの発表②
- 第30回 コメントを踏まえて加筆・修正したレポートの発表③

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 講義時に提示する。

授業外での学習

ゼミは、発表と議論の場であるため、その準備はすべて講義時間外に行うことになる。

評価方法

受講状況(25%)、レポートとその発表の内容(25%)、
発言(他人の発表に対する質問やコメントなど)(25%)、
公開ゼミやディベートリーグに向けた取り組みとその実績(25%)

履修上の注意

ディベート準備期間はサブゼミを開催する。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 加藤 健太 (カトウ ケンタ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

この演習の目的は、自分の意見を自分の言葉で発信できるようになることである。

達成目標

目的の達成のためには、さまざまな情報を収集し、取捨選択して自らのものにしていくこと、つまり、調べる力が必要になる。また、他の人の意見にも耳を傾け、協力し合いながら、自分の意見をさらに磨き上げていくことも大切である。このような力を卒論の作成・発表などを通じて身に付けることが達成目標となる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション 演習II前期運営計画の発表
- 第2回 課題の設定方法と先行研究のサーベイの方法
- 第3回 業界研究①
- 第4回 業界研究②
- 第5回 卒論の構想発表①
- 第6回 卒論の構想発表②
- 第7回 卒論の構想発表③
- 第8回 卒論の中間報告I—①
- 第9回 卒論の中間報告I—②
- 第10回 卒論の中間報告I—③
- 第11回 卒論の中間報告I—④
- 第12回 卒論の中間報告I—⑤
- 第13回 卒論の中間報告I—⑥
- 第14回 卒論の中間報告I—⑦
- 第15回 卒論の中間報告I—⑧
- 第16回 インタロダクション 演習II後期運営計画の発表
- 第17回 コメンテーターの選定とコメンテーターの役割
- 第18回 学術的なコメントの方法
- 第19回 卒論の中間報告II—①
- 第20回 卒論の中間報告II—②
- 第21回 卒論の中間報告II—③
- 第22回 卒論の中間報告II—④
- 第23回 卒論の中間報告II—⑤
- 第24回 卒論の中間報告II—⑥
- 第25回 卒論の中間報告II—⑦
- 第26回 卒論の中間報告II—⑧
- 第27回 コメントを踏まえた加筆・修正の発表①
- 第28回 コメントを踏まえた加筆・修正の発表②
- 第29回 コメントを踏まえた加筆・修正の発表③
- 第30回 卒論発表会

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 講義時に提示する。

授業外での学習

ゼミは、発表と議論の場であるため、卒論とコメントの作成は講義時間外に取り組むことになる。

評価方法

受講状況 (33%)、卒論等の発表とその内容 (34%)、
発言 (他人の発表に対する質問やコメントなど) (33%)

履修上の注意

特になし

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 唐澤 達之 (カラサワ タツユキ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミナールでは、近年におけるグローバル化の進展と、環大西洋地域から環太平洋地域への世界経済の重心移動という現実を踏まえて、グローバルな視点から、欧米とアジアの社会経済システムの歴史的成り立ちを比較し、今後の世界経済の行方をともに考える。また、グループ研究を軸として進めることによって、研究の生産性を高めるだけでなく、コミュニケーション力を養う。

達成目標

年度の初めに1年間かけて取り組む大きなテーマを設定し、そのテーマに関するいくつかの基本文献の輪読をした後、グループ毎にテーマを絞り研究を進め、中間報告を経て、年度末に共同研究の発表を行う。また、共同研究の成果を論文としてまとめ、『ゼミナール年報』に掲載する。

スケジュール

第1回：ガイダンス ゼミの進め方・成績評価に関する説明
第2回：共同研究の大きなテーマの設定・趣旨説明
第3-6回：共同研究の大きなテーマに関する基本文献（1）の輪読
第7回：輪読文献の論点整理と今後検討すべき課題の確認
第8-11回：共同研究の大きなテーマに関する基本文献（2）の輪読
第12回：輪読文献の論点整理と今後検討すべき課題の確認
第13回：研究テーマの絞り込みとグループ分け
第14回：各グループの研究テーマ・目次構成の検討
第15回：前期まとめ
第16回：共同研究企画案と文献報告の準備
第17回：共同研究 企画案報告
第18-20回：各グループの研究テーマに関する重要文献の報告
第21回：中間報告
第22回：共同研究報告のリハーサルに向けての準備
第23-25回：共同研究報告のリハーサル
第26回：リハーサルで浮かび上がった課題の整理、共同研究報告に向けての最終調整
第27-29回：共同研究報告
第30回：後期まとめ

教科書・参考文献

教科書 輪読する文献は受講者と相談して決定する。昨年度は、水島司・島田竜登『グローバル経済史』（放送大学教育振興会、2018年）などを輪読した。
参考書 授業中に適宜指示する。

授業外での学習

授業時間における報告・討論のための準備をしっかりとってから授業に臨むこと。また、グループ研究のスタイルをとっているため、同じグループのメンバーと授業時間外に報告や論文作成のための打ち合わせをすることが求められる。

評価方法

授業時間における報告内容、報告にむけての準備への取り組み状況、グループ作業への貢献度、授業時間における討論への参加状況、『ゼミナール年報』に掲載する論文などを総合して評価する。

履修上の注意

やむをえず欠席する場合は、事前に担当教員に連絡すること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 唐澤 達之 (カラサワ タツユキ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミナールでは、近年におけるグローバル化の進展と、環大西洋地域から環太平洋地域への世界経済の重心移動という現実を踏まえて、グローバルな視点から、欧米とアジアの社会経済システムの歴史的成り立ちを比較し、今後の世界経済の行方をともに考える。

達成目標

前期は主として、社会経済史関係の重要文献の輪読と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行い、後期はゼミ論文の中間報告を重ねていき、最終的に完成したゼミ論文は、ゼミ論文報告会で報告し、年度末に刊行される『ゼミナール年報』に掲載する。

スケジュール

第1回：ガイダンス 年間計画の説明他
第2-4回：経済・社会関係文献（1）の輪読
第5回：ゼミ論文作成に向けてのガイダンス
第6-9回：経済・社会関係文献（2）の輪読
第10-11回：ゼミ論文のテーマ、作成計画に関する報告
第12-14回：経済・社会関係文献（3）の輪読
第15回：前期まとめ
第16-18回：ゼミ論文の目次構成と主要文献の報告
第19-23回：ゼミ論文の中間報告
第24-28回：ゼミ論文の草稿提出と修正・加筆
第29回：ゼミ論文報告会
第30回：後期まとめ

教科書・参考文献

教科書 輪読する文献は受講者と相談して決定する。昨年度輪読した文献は、貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』（岩波書店、2018年）と神島裕子『正義とは何か』（中央公論新社、2018年）などである。
参考書 授業中に適宜指示する。

授業外での学習

授業時間における報告・討論のための準備をしっかりとってから授業に臨むこと。前期の授業では、輪読する文献を事前に読んでおくことが、後期の授業では、ゼミ論文の完成に向けて各自書き進めていくことが、主として求められます。

評価方法

授業時間における報告内容、報告にむけての準備への取り組み状況、授業時間における討論への参加状況、『ゼミナール年報』に掲載するゼミ論文などを総合して評価する。

履修上の注意

やむをえず欠席する場合は、事前に担当教員に連絡すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期は、心理学研究を行うにあたって必要な基本理論および統計学的知識について学ぶ。学会誌論文を講読し、パソコンによる統計処理を習得し、成果のプレゼンテーション能力を身に付ける。後期は、心理学の文献に関する討論と、ディベートを通じて、対話的な学習をし、新しい視点の取得と理解の深化を目指す。1年を通じて、プレ卒論を作成し、卒論に向けたテーマと研究方法の選定を行い、論文作成の手続きを習得する。

達成目標

心理学に関する学術論文を理解し、要点をまとめて説明することができる。卒業論文を作成するのに必要な、基礎的技術の習得（論文講読、統計処理、論文作成）を目指す。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 プレ卒論作成1 テーマの選定
- 第3回 プレ卒論作成2 論文講読
- 第4回 プレ卒論作成3 研究紹介（社会、教育、発達領域）
- 第5回 プレ卒論作成4 研究紹介（臨床、認知、人格領域）
- 第6回 心理学研究法演習1（平均と分散、信頼区間）
- 第7回 心理学研究法演習2（カイ2乗検定）
- 第8回 心理学実験演習3（2つの平均値の比較）
- 第9回 心理学実験演習4（3つの平均値の比較）
- 第10回 心理学実験演習5（相関と回帰）
- 第11回 ビブリオバトル1（グループA）
- 第12回 ビブリオバトル2（グループB）
- 第13回 卒業論文中間発表（4年生グループA）の聴講
- 第14回 卒業論文中間発表（4年生グループB）の聴講
- 第15回 総括
- 第16回 ガイダンス
- 第17回 グループディスカッション1 教育領域について
- 第18回 グループディスカッション2 社会領域について
- 第19回 グループディスカッション3 人格領域について
- 第20回 デイベート（3年生ペア1）
- 第21回 デイベート（3年生ペア2）
- 第22回 デイベート（3年生ペア3）
- 第23回 デイベート（3年生ペア4）
- 第24回 デイベート（3年生ペア5）
- 第25回 デイベート（3年生ペア6）
- 第26回 デイベートの振り返り
- 第27回 プレ卒論作成8 研究目的発表（社会、教育、発達領域）
- 第28回 プレ卒論作成9 研究目的発表（臨床、認知、人格領域）
- 第29回 卒業論文最終発表（4年生グループA）の聴講
- 第30回 卒業論文最終発表（4年生グループB）の聴講

教科書・参考文献

- 教科書 前期：授業中にプリントを配布する。
後期：授業内にて指示する。
- 参考書 授業内で適宜指示する。

授業外での学習

- 前期：統計学に関する復習を自主的に行うこと。また、授業時間外での研究発表の準備について積極的に取り組むこと。
- 後期：発表者は入念な準備を行うこと。聴講者は、各回のテキストを講読しておくこと。

評価方法

平常点（50％）、期末レポート（50％）

履修上の注意

ディベートやプレゼンの際には、オーディエンスにも発表者に対するフィードバックを行ってもらいます。ただ聞くだけの受け身ではなく、発表の良い点・改善点を見つけるように意識してください。

心理学研究法については、統計学の知識があると理解が容易です。自主的に関連科目を履修しておくことをすすめます。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 木下 まゆみ (キノシタ マユミ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

自身の関心に基づきテーマを設定し、文献講読・データ収集等を行い、卒業論文を完成させる

達成目標

心理学研究として適切な研究方法を用いて、各自の問いに対する答えとしての卒業論文を作成する。

スケジュール

- 1 ガイダンス
- 2 心理学論文講読1 (科学論文としての位置づけ、問題)
- 3 心理学論文講読2 (方法、結果・考察)
- 4 プレ卒論発表の聴講 (社会、教育、発達領域)
- 5 プレ卒論発表の聴講 (臨床、認知、人格領域)
- 6 卒業論文指導1 (テーマの設定)
- 7 卒業論文指導2 (リサーチクエスションの設定)
- 8 卒業論文指導3 (目的の明確化)
- 9 卒業論文指導4 (研究方法の決定)
- 10 卒業論文指導5 (データ収集の設計)
- 11 ビブリオバトル1 (3年生グループAの聴講)
- 12 ビブリオバトル2 (3年生グループBの聴講)
- 13 卒業論文中間発表 (4年生グループA)
- 14 卒業論文中間発表 (4年生グループB)
- 15 総括
- 16 ガイダンス
- 17 グループディスカッション (3年生教育領域) のとりまとめ
- 18 グループディスカッション (3年生社会領域) のとりまとめ
- 19 グループディスカッション (3年生人格領域) のとりまとめ
- 20 デイバート (3年生ペア1) の評価
- 21 デイバート (3年生ペア2) の評価
- 22 デイバート (3年生ペア3) の評価
- 23 デイバート (3年生ペア4) の評価
- 24 デイバート (3年生ペア5) の評価
- 25 デイバート (3年生ペア6) の評価
- 26 デイバートの総評
- 27 プレ卒論目的発表の聴講 (社会、教育、発達領域)
- 28 プレ卒論目的発表の聴講 (臨床、認知、人格領域)
- 29 卒業論文最終発表 (グループA)
- 30 卒業論文最終発表 (グループB)

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 松井豊『改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社、2010

授業外での学習

卒業論文に関する文献を積極的に講読すること。統計学に関する復習を自主的に行うこと。継続的に論文作成にあたること。

評価方法

平常点 (50%)、卒業論文 (50%)

履修上の注意

3年生のデイバートやディスカッションの際には、4年生からのフィードバックを中心に振り返りを行います。ただ聞くだけの受け身ではなく、発表の良い点・改善点を見つけるように意識してください。
卒論作成に当たっては、統計学の知識が必要な場合があります。自主的に、3年次の「演習I」の復習および関連科目の履修を行ってください。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 小林 徹 (コバヤシ トオル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

基礎演習とこれまで受講した講義で得た知識を活用し、独自の研究を実施する

達成目標

経済論文の構造、先行研究のまとめ方、仮説の設計方法、仮説検証の方法について学ぶ。
次年度の卒業研究の基礎力を身に付ける。

スケジュール

- 1: ガイダンスとテーマの検討
- 2: 現状把握に関する文献、先行研究のサーチと収集
- 3: 文献輪読①: 先行研究のうち1つ
- 4: 文献輪読②: 先行研究のうち1つ
- 5: 文献輪読③: 先行研究のうち1つ
- 6: 文献輪読④: 先行研究のうち1つ
- 7: 文献輪読⑤: 先行研究のうち1つ
- 8: 文献輪読⑥: 先行研究のうち1つ
- 9: 文献輪読⑦: 先行研究のうち1つ
- 10: 文献輪読⑧: 先行研究のうち1つ
- 11: 文献輪読⑨: 先行研究のうち1つ
- 12: 文献輪読⑩: 先行研究のうち1つ
- 13: 現状分析と先行研究の整理①
- 14: 現状分析と先行研究の整理②
- 15: 研究計画(研究の意義、仮説・サーチ計画)の作成
- 16: ガイダンスと前期の振り返り
- 17: データの収集と構築①
- 18: データの収集と構築②
- 19: データ分析①: 基本統計量と基礎集計による概観
- 20: データ分析②: 様々な回帰分析手法
- 21: データ分析③: 分析結果の正誤判断の視点と修正・対応方法
- 22: 研究成果の取りまとめ① PPT
- 23: 研究成果の取りまとめ② PPT
- 24: 研究成果の取りまとめ③ PPT
- 25: 研究成果報告とコメントへの対応
- 26: コメントにそった研究の見直し・修正
- 27: 最終成果の作成I: 論文作成
- 28: 最終成果の作成II: 論文作成
- 29: 最終成果の作成III: 論文作成
- 30: 総括と論文の取り纏め

教科書・参考文献

教科書 演習内で提示する

参考書 山本勲(2015)「実証分析のための計量経済学」中央経済社

授業外での学習

- ・研究成果を持ち寄って学内外のプレゼン大会出場を目指す
- ・悩みごとや質問があったら研究室に相談に来ること。

評価方法

投票を行います。ゼミ内研究で最も活躍したという得票を得た人から順番に評価得点を高くします。

履修上の注意

学内外での生活や見聞きした情報から自分なりの問題意識を持つように努めること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 小林 徹 (コバヤシ トオル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

演習Iやこれまで受講した講義で得た知識を活用し、自分自身で研究テーマを設定し、卒業論文に向けた研究を実施する

達成目標

自分で研究論文を執筆し、卒業論文を提出する。これを通じて論理構成能力、分析能力、提案力を身につける。

スケジュール

- 第1回 到達目標と使用可能なデータの提示
- 第2回 テーマと先行研究の報告①：演習Iで用いた計画書の作成法を参照し
- 第3回 テーマと先行研究の報告②：演習Iで用いた計画書の作成法を参照し
- 第4回 テーマと先行研究の報告③：演習Iで用いた計画書の作成法を参照し
- 第5回 研究テーマを精査・修正する
- 第6回 卒業論文の序章作成と報告①：ワード作成物での報告とチェック（体裁、文章、構成）
- 第7回 卒業論文の序章作成と報告②：ワード作成物での報告とチェック（体裁、文章、構成）
- 第8回 卒業論文の序章作成と報告③：ワード作成物での報告とチェック（体裁、文章、構成）
- 第9回 分析計画の立案とデータ加工（収集）①
- 第10回 分析計画の立案とデータ加工（収集）②
- 第11回 分析計画の立案とデータ加工（収集）③
- 第12回 分析の実施と分析結果の解釈①
- 第13回 分析の実施と分析結果の解釈②
- 第14回 分析の実施と分析結果の解釈③
- 第15回 前期総括と後期までに行うべき課題の議論
- 第16回 ガイダンスと個別の進捗打ち合わせ
- 第17回 分析結果の妥当性や追加分析の必要性や方法の検討①
- 第18回 分析結果の妥当性や追加分析の必要性や方法の検討②
- 第19回 分析結果の妥当性や追加分析の必要性や方法の検討③
- 第20回 卒業論文の分析パートの作成①：データ記述、図表の体裁など
- 第21回 卒業論文の分析パートの作成②：回帰分析結果の見せ方など
- 第22回 卒業論文の分析パートの作成③：本文でどこまで解釈して述べるか
- 第23回 結論部分の検討と作成①
- 第24回 結論部分の検討と作成②
- 第25回 結論部分の検討と作成③
- 第26回 卒業論文の最終プレゼンテーション①
- 第27回 卒業論文の最終プレゼンテーション②
- 第28回 卒業論文の最終プレゼンテーション③
- 第29回 卒業論文の最終プレゼンテーション④
- 第30回 卒業論文の最終プレゼンテーション⑤

教科書・参考文献

教科書 小浜裕久・木村福成『経済論文の作法』、1996年、日本評論社

参考書 演習内で提示する

授業外での学習

- ・授業外に各自で研究を進めておくこと
- ・授業時に相談しきれなかった問題については研究室まで相談に来ること。

評価方法

ゼミ内での報告、参加状況から社会人基礎力のうち以下の能力を評価し点数化する。
「主体性」、「働きかけ力」、「実行力」

履修上の注意

各自の状況もいろいろ違いがあるだろうが、自律的に研究を進めること。
テーマはなんでもよい。研究はモチベーションが無いと続かないので、まずはモチベーションが湧き上がるようなテーマを考えてほしい。※自由なテーマ設定が難しい学生については、使用できるデータを提示するのでそこから分析可能なテーマを検討すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 今野 昌信 (コンノ マサノブ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

2年次から継続して①産業研究報告②統計学の学習を行います。また、前期に③マクロ経済学、後期に④ミクロ経済学の学習をします。①③④は報告者を決めて、毎週順番で報告をし、討論をします。②との関連で、PC教室で経済統計の検索・収集とその解析を行います。

達成目標

理論と実証が理解でき、自らデータを検索・収集・分析してevidenceを提示して議論する方法を身に着けることが目標です。

スケジュール

第1回 イントロダクション：前期活動の確認 ①産業研究報告第1班 ②統計学・データ分析 ③マクロ経済学報告
第2回 ①産業研究報告第2班 ②③
第3回 ①産業研究報告第3班 ②③
第4回 ①産業研究報告第1班 ②③
第5回 ①産業研究報告第2班 ②③
第6回 ①産業研究報告第3班 ②③
第7回 ①産業研究報告第1班 ②③
第8回 ①産業研究報告第2班 ②③
第9回 ①産業研究報告第3班 ②③
第10回 ①産業研究報告第1班 ②③
第11回 ①産業研究報告第2班 ②③
第12回 ①産業研究報告第3班 ②③
第13回 ①産業研究報告第1班 ②③
第14回 ①産業研究報告第2班 ②③
第15回 まとめ；前期活動の総括 ①産業研究報告第3班 ②③
第16回 イントロダクション：後期活動の確認 ①産業研究報告第1班 ②統計学・データ分析 ④ミクロ経済学報告
第17回 ①産業研究報告第2班 ②④
第18回 ①産業研究報告第3班 ②④
第19回 ①産業研究報告第1班 ②④
第20回 ①産業研究報告第2班 ②④
第21回 ①産業研究報告第3班 ②④
第22回 ①産業研究報告第1班 ②④
第23回 ①産業研究報告第2班 ②④
第24回 ①産業研究報告第3班 ②④
第25回 ①産業研究報告第1班 ②④
第26回 ①産業研究報告第2班 ②④
第27回 ①産業研究報告第3班 ②④
第28回 ①産業研究報告第1班 ②④
第29回 ①産業研究報告第2班 ②④
第30回 まとめ；後期活動の総括、卒論作成スケジュール ①産業研究報告第3班 ②④

教科書・参考文献

教科書 田中勝人「基礎コース統計学」第2版新世社、中谷巖「入門マクロ経済学」第5版日本評論社、武隈慎一「新版ミクロ経済学」新世社
参考書 廣松ほか「経済統計」新世社、浅利ほか「はじめよう経済学のための情報処理」日本評論社、その他授業で適宜コピーを配布します。

授業外での学習

3年次はサブゼミがあります。本ゼミと併せ、毎回の報告を準備してください。

評価方法

ゼミの目標を理解し、エコノミストの素養を獲得するのが狙いです。それにどれだけ近づけるかは各自の意識次第ですが、毎回の報告にそれが現れます。具体的には報告のために①作成したレジユメ②報告③質疑応答④次回へ繰り越された課題の達成度、などから評価されます。

履修上の注意

ゼミは必修科目ですが、自分の目標を以って参加しましょう。大学卒業後プロのビジネスパーソンや公務員になるための基礎課程です。休まず、遅刻せず、です。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	今野 昌信 (コンノ マサノブ)	

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

2年次基礎演習から始めた産業研究やExcelを使った統計データ解析の方法、3年次の経済理論演習などの活動をベースに、各自卒業論文のテーマにあわせ、報告と論文作成を行います。

達成目標

卒業論文の作成を通して自分の経済観を表現すること。

スケジュール

1. ガイダンス 報告順番などを決定
2. 報告者卒業論文のテーマ、概要報告 産業研究との関連、マクロ経済データ・企業データなど紹介、質疑・討論
3. 報告者第1回報告での質疑・討論を受けて、回答と進捗状況報告
4. 報告者第2回報告での質疑・討論を受けて、回答 執筆と論文の添削
- 5~29 2~4を反復
30. ゼミ活動総括と卒業論文の提出

教科書・参考文献

教科書 特に定めない。

参考書 各自、新聞・雑誌・ネットなどから参考文献やデータを検索する。図書館所蔵の蔵書やネット上での文献検索なども活用してください。

授業外での学習

卒業論文に4年間の学習成果を表現してください。資料収集や文章表現に充分時間をかけてMBAへの足掛かりとなるようなシャープな問題意識を感じさせる卒業論文を目指してください。

評価方法

卒業論文で評価します。単位修得は卒業論文提出が必要条件です。

履修上の注意

授業に遅れず休まず出席してください。自分の到達目標を忘れずに。4年生は各自関心のあるテーマを設定し、報告と卒業論文を作成。1人/週のペースで進みますので、自分の報告の準備とほかのゼミ生の報告を聞き、討論に参加すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	佐藤 綾野 (サトウ アヤノ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本講義では、さまざまな経済現象を理論的および実証的アプローチから分析を行っていく。なお講義で取り扱うテーマは、ゼミ生を中心に決定していく。

達成目標

本講義では①プレゼンテーション能力の向上、②卒業論文テーマに関する先行研究の理解、③レポートの書き方の習得を到達目標として設定している。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(教科書選定と前期スケジュール決定)
- 第2回 パワーポイントの使い方
- 第3回 プレゼンテーションの技法(ビデオ鑑賞)
- 第4回 教科書の輪読①
- 第5回 教科書の輪読②
- 第6回 教科書の輪読③
- 第7回 中間コメントと討論
- 第8回 教科書の輪読④
- 第9回 教科書の輪読⑤
- 第10回 教科書の輪読⑥
- 第11回 中間コメントと討論
- 第12回 教科書の輪読⑦
- 第13回 教科書の輪読⑧
- 第14回 教科書の輪読⑨
- 第15回 前期講義のまとめと反省
- 第16回 ガイダンス(教科書選定と後期スケジュール決定)
- 第17回 レポートの書き方①
- 第18回 参考文献と引用の仕方②
- 第19回 教科書の輪読①
- 第20回 教科書の輪読②
- 第21回 教科書の輪読③
- 第22回 中間コメントと討論
- 第23回 教科書の輪読④
- 第24回 教科書の輪読⑤
- 第25回 教科書の輪読⑥
- 第26回 中間コメントと討論
- 第27回 卒業論文テーマの探し方①
- 第28回 先行研究の探し方②
- 第29回 卒業論文の章立ての指導③
- 第30回 後期講義のまとめと反省

教科書・参考文献

- 教科書 初回講義時に、ゼミ学生によって決定してください(昨年度は水野勝之著『テキスト計量経済学第二版』中央経済社)。
- 参考書 適宜指定します。

授業外での学習

教科書を事前に読み、また講義終了後には練習問題を解くこと。

評価方法

受講状況50% レポート50%

履修上の注意

講義中の活発な質疑応答を期待します。積極的に講義に参加してください。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 佐藤 綾野 (サトウ アヤノ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本講義では、3年次に習得した計量分析的手法を使用して、各自の卒業論文テーマに沿った研究を行う。また同時に各自のプレゼンテーション能力およびディスカッション能力の向上も目指す。

達成目標

本講義終了後には、各自で決定した卒業論文テーマに関する先行研究の理解および計量分析を用いた卒業論文を作成、また卒業論文のプレゼンテーションを行う能力を習得することを達成目標としている。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(前期スケジュール決定)
- 第2回 パワーポイントの使い方
- 第3回 プレゼンテーションの技法(ビデオ鑑賞)
- 第4回 研究テーマのプレゼンテーション①
- 第5回 研究テーマのプレゼンテーション②
- 第6回 中間コメントと討論
- 第7回 卒業論文研究計画(テーマ選定)
- 第8回 各自卒業論文研究テーマについて報告①
- 第9回 各自卒業論文研究テーマについて報告②
- 第10回 文献調査の方法と先行研究の選び方
- 第11回 計量ソフトの使用法：輪読①
- 第12回 計量ソフトの使用法：輪読②
- 第13回 計量ソフトの使用法：輪読③
- 第14回 計量ソフトの使用法：輪読④
- 第15回 前期講義のまとめと反省
- 第16回 ガイダンス(後期スケジュール決定)
- 第17回 統計ソフト(系列相関)の実習①
- 第18回 卒業論文研究の中間報告①
- 第19回 統計ソフト(不均一分散)の実習②
- 第20回 卒業論文研究の中間報告②
- 第21回 統計ソフト(マルチコ)の実習③
- 第22回 卒業論文研究の中間報告③
- 第23回 統計ソフトの実習(2段階最小法)④
- 第24回 卒業論文研究の中間指導(脚注の使い方)①
- 第25回 卒業論文研究の中間指導(参考文献の書き方と引用)②
- 第26回 卒業論文研究の中間指導(推計結果の書き方)③
- 第27回 卒業論文研究の修正・加筆①
- 第28回 卒業論文研究の修正・加筆②
- 第29回 卒業論文研究の最終提出と後期講義のまとめ
- 第30回 卒業論文報告会

教科書・参考文献

教科書 秋山裕著「Rによる計量経済学」オーム社

参考書 適宜指定します。

授業外での学習

教科書を事前に読み、また講義終了後には練習問題を解くこと。

評価方法

受講状況50% レポート50%

履修上の注意

講義中の活発な質疑応答を期待します。積極的に講義に参加してください。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	佐藤 敏久 (サトウ トシヒサ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

考え方や知識獲得とその応用と実践を各チーム行う。また、時間管理と段取りが行えるようにする。

達成目標

知識取得と実践を各自体験すること。そのために思考訓練を継続的に行うこと。

スケジュール

3年次のゼミは、ゼミの時間以外にもチームで行動し、知識取得と実践を行う。

第1回 オリエンテーション、1年の活動計画確認

第2-5回 テキスト (マーケティング) 輪読とインカレ大会参加

第6-7回 テキスト (商品開発) 輪読

第8-9回 マーケティングリサーチ (教員によるレクチャーを含む)

第10-14回 マーケティング関連の大会参加にあたってチームごとに討論、プレゼン資料作成

第15回 プレゼンの練習とマーケティング手法の確認による改善

第16回 プレゼン用スライド資料、発表原稿作成、プレゼン練習

第17回 参加にあたって、やらなければならないことの確認と方法

第18-25回 マーケティング関連の大会参加にあたってチームごとに討論、プレゼン資料作成

第26-28回 各自1冊ずつ割り当てられた書籍をもとに輪読およびプレゼン

第29-30回 卒業論文作成にあたって参考テキスト輪読

* 演習Iでは、複数の大会などに参加予定である、全員参加のものと任意参加のものがあるが、一人2つ以上の参加となるため、必ずしも上記のスケジュール通りにいくとは限らない。

教科書・参考文献

教科書 池尾恭一 (2016) 『入門・マーケティング戦略』有斐閣

参考書 西川英彦、廣田章光 (2012) 『1からの商品企画』碩学舎など、年度初めに教員が複数指定する

授業外での学習

たくさんの本、資料を狩猟し、読み込み、要約やメモを取ること。多学問分野に視野を広げること。

評価方法

ゼミで定めた規定に従って積極性や参加度合、レポート提出などによって評価する。

履修上の注意

時間があるようであっという間に過ぎてしまうので、時間を大事にすること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 担当教員 佐藤 敏久 (サトウ トシヒサ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

学生生活の集大成として、卒業論文の作成を各自行う。また、時間管理が行えるようにする。

達成目標

卒業論文を、「ゼミ卒業論文執筆要綱」にしたがって、書き上げること。そのために思考訓練を継続的に行うこと。

スケジュール

4年次のゼミは、各自卒業論文作成を行う。

ゼミで定めた「論文作成要項」を参考にし、試行錯誤しながらフレームワークと現象の間の知的往復を行うことになる。個人で決めた問いに対して、自分で決めたアプローチ方法を用いて、どのように問題に取り組んでいるのかを、毎回のゼミの時間に発表する。

第1回 卒業論文作成について、論文とは

第2回 研究方法のレクチャーと自分の卒業論文の方向性

第3-7回 論文作成方法に関する書籍（佐藤ゼミ指定のもの）を輪読

第8-15回 卒論中間発表①問題意識と先行研究、参考文献

第16-20回 卒論中間発表②研究方法と手続き、参考文献

第21-25回 卒論中間発表③議論とインプリケーション、結果（結びにかえて）

第26回 卒業論文年内提出

第27-29回 添削された論文を受けて修正したものを発表

第30回 ゼミでの卒論発表会、印刷物とワードファイルでの提出

* 随時、定量的調査、定性的調査のレクチャーを行う

* 卒論発表会はゼミ生2-4年生、全員参加で行う

* 4年次に、希望者は全国規模のインカレ大会に参加する

教科書・参考文献

教科書 石川敦志、佐藤健二、山田一成（1998）『見えないものを見る力』八千代出版など担当者が指定する書籍

参考書 山田剛史、林創（2011）『大学生のためのリサーチとリテラシー入門』ミネルヴァ書房
井下千以子（2013）『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（第2版）、慶應義塾大学出版会など

授業外での学習

たくさん本、論文を狩猟し、読み込み、要約をしたり、メモを取る。多学問分野に視野を広げること。

評価方法

ゼミで定めた規定（作成要項、定めた文字数と枚数）に従って論文作成をしたものを評価する。

履修上の注意

論文には鳥の目と虫の目が必要であるため、大局を見ながら細かい部分にコツコツと取り組まねばならない。4年生の時間はあるようであつという間に過ぎてしまうので、時間を大事にすること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	関根 雅則 (セキネ マサノリ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習の目的は、経営戦略に関するテキスト、および、『日経ビジネス』を輪読することにより、企業活動を論理的かつ実践的に理解することである。

達成目標

社会に出てからビジネスマンとして最低限必要とされる知識を身につけることが達成目標である。

スケジュール

毎回、テキストおよび『日経ビジネス』をベースに担当者がレジュメを用意し報告する。そのうえで、質疑応答し議論する。なお、年間を通して学習する内容は以下のとおりである。

- 第1～2回： 経営戦略の概念
- 第3～4回： 経営戦略のレベル
- 第5～6回： 経営戦略研究の系譜
- 第7～8回： 環境分析
- 第9～10回： 業界構造
- 第11～12回： 競争戦略
- 第13～14回： 基本戦略
- 第15～16回： プロダクト・ライフサイクル
- 第17～18回： 市場地位別戦略
- 第19～20回： Resource Based View (経営資源に基づく観点)
- 第21～22回： 組織的知識創造
- 第23～24回： 事業システム
- 第25～26回： 企業ドメイン/事業ドメイン
- 第27～28回： 多角化戦略
- 第29～30回： 経営資源の展開

教科書・参考文献

- 教科書 嶋口充輝他編著『1からの戦略論』中央経済社
『日経ビジネス』(年間購読)
- 参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

テキストや雑誌を予め熟読しておくこと。

評価方法

報告内容、および、演習にどれだけ積極的に関与しているかによって評価する。

履修上の注意

特になし。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授	担当教員 関根 雅則 (セキネ マサノリ)	担当教員との連絡方法
----	----------------------------	------------

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習の目的は、各自が卒業論文作成の経過報告を行い、それに基づいて議論し合うことにより論文の質向上を図ることである。

達成目標

最終的に独自性および完成度の高い卒業論文を作成することが達成目標である。

スケジュール

毎回、各自が卒業論文作成の進捗度に応じてレジュメを用意し報告する。そのうえで、報告内容について質疑応答し議論する。

- 第1回：オリエンテーション
(論文執筆の進め方を確認)
- 第2～3回：論文の体裁
(章や節の立て方、注や参考文献の付け方を確認)
- 第4～6回：論文のテーマ設定
(問題意識を明確化)
- 第7～9回：論文の構成
(論文の全体的な流れを確認。概念説明、先行研究、仮説、事例、仮説検証)
- 第10～12回：研究方法の検討
(文献研究、実地調査について検討)
- 第13～15回：概念説明
(論文のテーマに関わる概念を確認)
- 第16～19回：先行研究
(文献を中心に調査)
- 第20～22回：仮説の設定
(先行研究を前提に自身の仮説を設定)
- 第20～23回：事例研究
(仮説を説明しうる事例を探し検討)
- 第24～26回：仮説検証
(事例を用いて仮説を検証)
- 第27～29回：論文の最終調整
(必要に応じて加筆、修正、削除)
- 第30回：論文の総括
(演習のまとめ)

教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

卒業論文のテーマに関わる文献を幅広く探し、熟読すること。また、事例企業の最新動向に関し、各種メディアを通じて詳細に調査すること。

評価方法

報告内容、卒業論文の完成度、および、演習にどれだけ積極的に関与しているかによって評価する。

履修上の注意

特になし。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 高松 正毅 (タカマツ マサキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

各人が自ら設定した研究テーマに基づき「調べる→まとめる（発表用資料の作成）→発表する→質疑へ応答する→再考し推敲する→報告書（レポートの作成）を提出する」という一連の作業を通じ、以下のトレーニングを行う。高松ゼミでは、3年次と4年次で行うことは基本的に変わらない。2年間の長さをかけて卒業論文を完成させる。また、論文の書き方（執筆過程）については、絶対に一回で身につくものではないので、添削のたびごとに詳細に指導する。なお、高松ゼミでは、グループ研究は基本的に行わない。

- (1) 言語表現技術と、口頭・文書の両面から鍛える。
- (2) 問題解決・意思決定にあたってのロジカル・シンキング、クリティカル・シンキングの能力を鍛える。
- (3) 説得性の高い議論を展開するために、根拠を明確に提示する論理的思考力を鍛える。

達成目標

社会人となっても必ず必要となる「言語表現技術」を、口頭・文書の両面から身につける。
2年次での「基礎演習」で学んだ内容—文献等資料検索をはじめとする論文執筆の段階等—に基づき、3年次では、研究テーマの全体像と問題の広がりをつまえることを当面の目標とする。なお、本演習は徹頭徹尾「発表・質疑応答・討論」の繰り返しによる内容の深化である。たとえば5分であっても毎回必ず全員が発表する。

スケジュール

第1回	論文の書き進め方の確認、発表・質疑応答・討論	1
第2回	発表・質疑応答・討論	2
第3回	発表・質疑応答・討論	3
第4回	発表・質疑応答・討論	4
第5回	発表・質疑応答・討論	5
第6回	発表・質疑応答・討論	6
第7回	発表・質疑応答・討論	7
第8回	発表・質疑応答・討論	8
第9回	発表・質疑応答・討論	9
第10回	発表・質疑応答・討論	10
第11回	発表・質疑応答・討論	11
第12回	発表・質疑応答・討論	12
第13回	発表・質疑応答・討論	13
第14回	発表・質疑応答・討論	14
第15回	発表・質疑応答・討論	15
第16回	発表・質疑応答・討論	16
第17回	発表・質疑応答・討論	17
第18回	発表・質疑応答・討論	18
第19回	発表・質疑応答・討論	19
第20回	発表・質疑応答・討論	20
第21回	発表・質疑応答・討論	21
第22回	発表・質疑応答・討論	22
第23回	発表・質疑応答・討論	23
第24回	発表・質疑応答・討論	24
第25回	発表・質疑応答・討論	25
第26回	発表・質疑応答・討論	26
第27回	発表・質疑応答・討論	27
第28回	発表・質疑応答・討論	28
第29回	発表・質疑応答・討論	29
第30回	発表・質疑応答・討論	30

中間段階提出、論文の書き方指導(1) 研究計画再考

中間段階提出、論文の書き方指導(2) 研究計画再考

中間段階提出、論文の書き方指導(3) 研究計画再考

「進級論文」提出

教科書・参考文献

- 教科書 必要に応じて使用する。例：戸田山和久『論文の教室』NHKブックス、小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社学術新書、石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社 他
- 参考書 ポール・J・シルヴィア『できる研究者の論文生産術 どうすれば「たくさん」書けるのか』講談社 他、授業を通して適宜紹介指示する。

授業外での学習

授業は、発表・質疑応答・討論の場であるから、しっかりと調べ、きちんとまとめてくること。提出物は、すべて必ず返却するので、繰り返し推敲すること。授業外では、繰り返し考え続ける。毎日の執筆時間を確保すること。

評価方法

発表内容の充実度（50％）＋ 討論への参加度（30％）＋ 「進級論文」の出来栄（20％）

履修上の注意

遅刻・欠席は一切認めない。万一、学習を休み怠った場合は必ず補填しなければならない。「進級論文」の提出も必須とする。「高松ゼミの掟」www1.tcue.ac.jp/home1/takamatsu/teacher/Okite.htm を参照のこと。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 高松 正毅 (タカマツ マサキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

各人が自ら設定した研究テーマに基づき「調べる→まとめる（発表用資料の作成）→発表する→質疑へ応答する→再考し推敲する→報告書（レポートの作成）を提出する」という一連の作業を通じ、以下のトレーニングを行う。高松ゼミでは、3年次と4年次で行うことは基本的に変わらない。4年次では、卒業論文を完成させることが唯一にして最大の目標となる。高松ゼミでは、毎週少しずつ書き溜めていく方式を取る。また、論文の書き方（注や参考文献、体裁等を含む）については、絶対に一回で身につくものではないので、添削のたびごとに徹底して指導を行う。（1）言語表現技術を、口頭・文書の両面から鍛える。（2）問題解決・意思決定にあたってのロジカル・シンキング、クリティカル・シンキングの能力を鍛える。（3）説得性の高い議論を展開するために、根拠を明確に提示する論理的思考力を鍛える。

達成目標

社会人となっても必ず必要となる「言語表現技術」を、口頭・文書の両面から身につける。
3年次で完成させた「進級論文」を土台に、4年次では論点を絞りこんで優れた卒業論文の完成を目指す。
なお、本演習は徹頭徹尾「発表・質疑応答・討論」の繰り返しによる内容の深化である。たとえば5分であつても毎回必ず全員が発表する。

スケジュール

第1回	「卒業論文」の書き進め方再確認、発表・質疑応答・討論 31
第2回	発表・質疑応答・討論 32
第3回	発表・質疑応答・討論 33
第4回	発表・質疑応答・討論 34
第5回	発表・質疑応答・討論 35
第6回	発表・質疑応答・討論 36
第7回	発表・質疑応答・討論 37
第8回	発表・質疑応答・討論 38 中間段階提出、「卒業論文」の書き方指導(4) 研究計画再考
第9回	発表・質疑応答・討論 39
第10回	発表・質疑応答・討論 40
第11回	発表・質疑応答・討論 41
第12回	発表・質疑応答・討論 42
第13回	発表・質疑応答・討論 43
第14回	発表・質疑応答・討論 44
第15回	発表・質疑応答・討論 45 中間段階提出、「卒業論文」の書き方指導(5) 研究計画再考
第16回	発表・質疑応答・討論 46
第17回	発表・質疑応答・討論 47
第18回	発表・質疑応答・討論 48
第19回	発表・質疑応答・討論 49
第20回	発表・質疑応答・討論 50
第21回	発表・質疑応答・討論 51
第22回	発表・質疑応答・討論 52
第23回	発表・質疑応答・討論 53 中間段階提出、「卒業論文」の書き方指導(6) 研究計画再考
第24回	発表・質疑応答・討論 54
第25回	発表・質疑応答・討論 55
第26回	発表・質疑応答・討論 56
第27回	発表・質疑応答・討論 57
第28回	発表・質疑応答・討論 58
第29回	発表・質疑応答・討論 59
第30回	発表・質疑応答・討論 60 「卒業論文」提出

教科書・参考文献

- 教科書 必要に応じて使用する。例：戸田山和久『論文の教室』NHKブックス、小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社学術新書、石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社 他
- 参考書 ポール・J・シルヴィア『できる研究者の論文生産術 どうすれば「たくさん」書けるのか』講談社 他、授業を通して適宜紹介指示する。

授業外での学習

授業は、発表・質疑応答・討論の場であるから、しっかりと調べ、きちんとまとめてくること。提出物は、すべて必ず返却するので、繰り返し推敲すること。授業外では、繰り返し考え続ける。毎日の執筆時間を確保すること。

評価方法

発表内容の充実度（50％）＋討論への参加度（30％）＋「卒業論文」の出来栄（20％）

履修上の注意

遅刻・欠席は一切認めない。万一、学習を休み怠った場合は必ず補填しなければならない。「卒業論文」の提出も必須とする。「高松ゼミの掟」www1.tcue.ac.jp/home1/takamatsu/teacher/Okite.htm を参照のこと。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 田中 久夫 (タナカ ヒサオ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

- ① 会計の基礎および制度会計論の研究を行う。
- ② 会社法における計算規則等を研究する。
- ③ 学生諸氏が主体となった報告と討論で演習科目は成立する。君たちの授業前の勉強に多いに期待する。
- ④ 卒業後の希望進路に沿うような企業研究や卒業論文の作成を求める。

達成目標

学生らしく、たのしく、なかよく、かつこよく、自分のやるべきことを知り、それを実践する。

スケジュール

- 第1回 現代の企業会計①
- 第2回 現代の企業会計②
- 第3回 企業会計の本質とフレームワーク①
- 第4回 企業会計の本質とフレームワーク②
- 第5回 会計制度の論理と体系①
- 第6回 会計制度の論理と体系②
- 第7回 企業のディスクロージャー①
- 第8回 企業のディスクロージャー②
- 第9回 損益計算書の体系①
- 第10回 損益計算書の体系②
- 第11回 経営成績の測定と表示①
- 第12回 経営成績の測定と表示②
- 第13回 貸借対照表の体系①
- 第14回 貸借対照表の体系②
- 第15回 総括
- 第16回 資産の会計
- 第17回 持分の会計①
- 第18回 持分の会計②
- 第19回 金融商品の会計①
- 第20回 金融商品の会計②
- 第21回 年金・退職給付の会計①
- 第22回 年金・退職給付の会計②
- 第23回 連結会計①
- 第24回 連結会計②
- 第25回 連結会計③
- 第26回 連結会計④
- 第27回 企業結合の会計①
- 第28回 企業結合の会計②
- 第29回 グローバリゼーションの会計
- 第30回 総括

教科書・参考文献

教科書 都度、指示する。

参考書 適宜、指示する。

授業外での学習

適宜、指示するが、各自、自身の研究テーマに沿った研究を深めること。

評価方法

- ①受講状況 ②作成レポートの完成度 ③授業への貢献度

履修上の注意

特になし。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 田中 久夫 (タナカ ヒサオ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

- ① 演習I(3年次)に引き続き、会計の基礎および制度会計論の研究を行う。
- ② 会社法における計算規則等を研究する。
- ③ 学生諸氏が主体となった報告と討論で演習科目は成立する。君たちの授業前の勉強に多いに期待する。
- ④ 卒業後の希望進路に沿うような企業研究や卒業論文の作成を求める。
- ⑤ 卒業論文の作成・提出は必須である。

達成目標

卒業を間近に控え、それぞれが今やるべきことを知り、それを実行する。学生らしくシンプルに生きよう。

スケジュール

- 第1回 会社法の計算規定関係の整理①
- 第2回 会社法の計算規定関係の整理②
- 第3回 会社法の計算規定関係の整理③
- 第4回 会計帳簿①
- 第5回 会計帳簿②
- 第6回 会計帳簿③
- 第7回 計算書類の内容①
- 第8回 計算書類の内容②
- 第9回 計算書類の内容③
- 第10回 貸借対照表等①
- 第11回 貸借対照表等②
- 第12回 貸借対照表等③
- 第13回 損益計算書等①
- 第14回 損益計算書等②
- 第15回 総括
- 第16回 株主資本等変動計算書等①
- 第17回 株主資本等変動計算書等②
- 第18回 株主資本等変動計算書等③
- 第19回 注記表、附属明細書等①
- 第20回 注記表、附属明細書等②
- 第21回 計算書類の作成手続①
- 第22回 計算書類の作成手続②
- 第23回 計算書類の計算手続③
- 第24回 株主資本と分配可能額①
- 第25回 株主資本と分配可能額②
- 第26回 株主資本と分配可能額③
- 第27回 剰余金の分配等①
- 第28回 剰余金の分配等②
- 第29回 その他・卒業論文の完成
- 第30回 総括

教科書・参考文献

教科書 都度、指示する。

参考書 適宜、指示する。

授業外での学習

適宜、指示するが、各自、自身の研究テーマに沿った研究を深めること。

評価方法

- ①受講状況 ②作成レポートの完成度 ③授業への貢献度

履修上の注意

特になし。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 担当教員 谷口 聡 (タニグチ サトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

民法の学習方法および研究手法を身に付け、民法の重要論点の研究報告をしてもらうことを通じて、民法の基本学習のすべてを自らのおこなうことができる能力を身に付けることを目的とする。

達成目標

民法のあらゆる領域の基本的学習を自分の力で行うことをできる能力を身に付けること。

スケジュール

- 第1回 民法110条の表見代理の研究報告および討論
- 第2回 民法110条と日常家事代理に関する研究報告と討論
- 第3回 無権代理人による本人の相続に関する研究報告と討論
- 第4回 時効の法的構成に関する研究報告と討論
- 第5回 権利消滅期間に関する研究報告と討論
- 第6回 物権の変動時期に関する研究報告と討論
- 第7回 取消と登記に関する研究報告と討論
- 第8回 相続と登記に関する研究報告と討論
- 第9回 占有の訴えと本権の訴えの関係に関する研究報告と討論
- 第10回 占有改定と即時取得に関する研究報告と討論
- 第11回 民法177条によける第三者の範囲に関する研究報告と討論
- 第12回 抵当権の範囲に関する研究報告と討論
- 第13回 担保物権の優先関係に関する研究報告と討論
- 第14回 譲渡担保の法的構成論に関する研究報告と討論
- 第15回 前期の総括と後期に向けての課題設定
- 第16回 イントロダクションと後期研究報告などの方針決定
- 第17回 履行補助者の過失に関する研究報告と討論
- 第18回 損害賠償の範囲に関する研究報告と討論
- 第19回 債務不履行と不法行為の損害賠償請求権競合に関する研究報告と討論
- 第20回 安全配慮義務の法的構成に関する研究報告と討論
- 第21回 詐害行為取消権の法的構成論に関する研究報告と討論
- 第22回 相殺の担保機能に関する研究報告と討論
- 第23回 売買契約における売主の契約不適合責任
- 第24回 信託関係破壊の法理に関する研究報告と討論
- 第25回 過失一元論に関する研究報告と討論
- 第26回 過失相殺の類推適用に関する研究報告と討論
- 第27回 差止めの法的構成論に関する研究報告と討論
- 第28回 夫婦別姓に関する研究報告と討論
- 第29回 後期の総括
- 第30回 卒業論文作成のための指導

教科書・参考文献

教科書 前年度は、内田貴『民法I』～同『民法IV』などを使用した。

参考書 演習時間中に適宜指定する。

授業外での学習

グループで研究報告を行うので、研究報告のための準備を十分に行うこと。また、研究報告のグループ以外の者は、次回の研究報告テーマについて、十分な討論をするための準備を必ず行うこと。

評価方法

毎回、順次おこなわれるグループ研究報告の水準60%。毎回の研究報告後の討論における態度など20%。平常点20%。以上を基本的な評価事項とした上、総合的な勘案の上、最終的に評価する。

履修上の注意

ゼミでは、研究報告でも、討論参加でも積極性が何より大切。意欲的な取り組みを期待する。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 谷口 聡 (タニグチ サトシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

演習IIでは、各自が卒業論文の作成をすることを目的として、教員がそのための指導をおこなう。(一A)
また、2017年に行われた改正民法の重要論点を補充的に学習する。(一B)

達成目標

法学部以外の学部生として、法律学、特に民法を学習した者の水準として要求される論文を年度内に作成することが達成目標である。その水準とは、法律学の基礎的見識をもとにして、民法の典型論点について、主要な学説と判例を整理して検討し、もってどのような学説および判例を支持すべきかを論理的に説明できるレベルを指している。(一A) 補充的学習に関しては、一般的な知識を獲得することを目指す。(一B)

スケジュール

第1回	イントロダクション(卒業論文作成のためのスケジュールの設定、形式の確認など)	
第2回	A.法律文献調査方法①(民法に關係する重要文献について)	//B.法律行為に関する改正点
第3回	A.法律文献調査方法②(図書館の利用方法について)	//B.代理に関する改正点
第4回	A.法律文献調査方法③(法律關係のデータベースの利用方法について)	//B.無効および取消しに関する改正点
第5回	A.卒業論文の各自テーマ設定のための指導	//B.条件に関する改正点
第6回	A.卒業論文の各自の仮テーマ設定・提出と指導①	//B.時効に関する改正点
第7回	A.卒業論文の各自の仮テーマ設定・提出と指導②	//B.債権の目的に関する改正点
第8回	A.論文執筆方法に関する指導①(「論文」とは何か)	//B.法定利率に関する改正点
第9回	A.論文執筆方法に関する指導②(論文作成の形式と作法)	//B.債権の効力に関する改正点
第10回	A.卒業論文の各自テーマ最終決定と指導①	//B.解除と危険負担に関する改正点
第11回	A.卒業論文の各自テーマ最終決定と指導②	//B.債権者代位に関する改正点
第12回	A.文献調査結果の報告と指導①	//B.詐害行為取消権に関する改正点
第13回	A.文献調査結果の報告と指導②	//B.多数当事者の債権・債務關係に関する改正点
第14回	A.卒業論文の各自テーマにおける必要文献の確認と指導	//B.保証債務に関する改正点
第15回	各自夏季休暇中の課題の確認	
第16回	A.各自卒業論文のための文献リストの提出と確認	//B.債権譲渡に関する改正点
第17回	A.各自卒業論文の構成の骨子提出と指導①	//B.契約上の地位の移転に関する改正点
第18回	A.各自卒業論文の構成の骨子提出と指導②	//B.弁済に関する改正点
第19回	A.各自卒業論文草稿の提出(中間報告)①	//B.相殺に関する改正点
第20回	A.各自卒業論文草稿の提出(中間報告)②	//B.更改に関する改正点
第21回	A.卒業論文中間発表に伴う指導①	//B.契約の成立に関する改正点
第22回	A.卒業論文中間発表に伴う指導②	//B.第三者のためにする契約の改正点
第23回	A.卒業論文原稿の提出	//B.定型約款に関する改正点
第24回	A.卒業論文原稿の修正指導①	//B.売買に関する改正点
第25回	A.卒業論文原稿の修正指導②	//B.贈与に関する改正点
第26回	A.卒業論文最終原稿提出と修正の最終確認①	//B.消費貸借に関する改正点
第27回	A.卒業論文最終原稿提出と修正の最終確認②	//B.貸貸借に関する改正点
第28回	A.各自卒業論文の要約の発表会①	//B.使用貸借に関する改正点
第29回	A.各自卒業論文の要約の発表会②	//B.請負に関する改正点
第30回	演習総括(2年半にわたるゼミ活動の反省のための討論)、および、卒業論文集作成のための計画策定と作業	

教科書・参考文献

- 教科書 ①弥永真生『法律学習マニュアル』(有斐閣 最新版)
②潮見佳男ほか編著『Before/After民法改正』(弘文堂 2017)
- 参考書 各自のテーマに關係する書籍を紹介する。

授業外での学習

スケジュールに沿った形で、卒業論文を作成するため、適宜また順次、手順に沿って課題をこなして、論文作成のための進捗を図ってもらう。

評価方法

スケジュールの手順で、順次設定されている課題の対応水準、完成した卒業論文の水準80%。 平常点20%

履修上の注意

卒業論文は、論文集として、作成し、図書館に永久保存されるものであるから、後世に残る業績として十分な内容のものを作成してもらいたい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 富澤 一弘 (トミザワ カズヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

日本経済史学・日本史学の研究上、必要な知識・技術を身につけて、独自の研究テーマの下、史料収集・分析が行えるように、指導します。毎回、中級の歴史的文献の講読を行うとともに、準専門書の輪読を継続、4年次において、卒業論文の執筆が可能な実力を養成して参ります。

達成目標

準専門的な文献・史料等の読解能力を培い、全くオリジナルな研究主題の下、独力で卒業論文の構想を、準備できるような人材の育成を目指しております。

スケジュール

第1回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (ガイダンス 1)
第2回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (ガイダンス 2)
第3回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (戦国時代の文献 1)
第4回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (戦国時代の文献 2)
第5回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (戦国時代の文献 3)
第6回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代初期の文献 1)
第7回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代初期の文献 2)
第8回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代初期の文献 3)
第9回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代中期の文献 1)
第10回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代中期の文献 2)
第11回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代中期の文献 3)
第12回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代後期の文献 1)
第13回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代後期の文献 2)
第14回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (江戸時代後期の文献 3)
第15回	総括 (総評)	
第16回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (幕末文書 1)
第17回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (幕末文書 2)
第18回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (幕末文書 3)
第19回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治初期の文献 1)
第20回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治初期の文献 2)
第21回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治初期の文献 3)
第22回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治中期の文献 1)
第23回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治中期の文献 2)
第24回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治中期の文献 3)
第25回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治後期の文献 1)
第26回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治後期の文献 2)
第27回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (明治後期の文献 3)
第28回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (総復習 1)
第29回	歴史的文献の講読・	テキスト輪読 (総復習 2)
第30回	総括 (総評)	

教科書・参考文献

教科書 演習開講に際して、指示致します。

参考書 演習開講に際して、指示致します。

授業外での学習

毎日、教科書1時間、歴史的文献1時間の精読を、求めます。

評価方法

毎回の小試験、平常点の平均値と2度の定期試験をもとに総合的に評価致します。平常点7割、定期試験3割の割合で評価致します。

履修上の注意

始業ベルと同時に、演習を開始致します。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 富澤 一弘 (トミザワ カズヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

日本経済史学・日本史学の研究を一層深化させ、独自の研究テーマの下、卒業論文の執筆を行えるように適切に指導します。オリジナルの史料・文献等を駆使して、研究を集大成できるように、上級の歴史的文献の読解とともに、専門書の輪読を重ねていきます。並行して卒業論文作成の指導も実施、最終的には、平成29年12月、同論文の提出につなげていけるように、指導致して参ります。

達成目標

専門的な文献・史料等の読解力を培い、学術的に高水準な卒業論文を、執筆・提出できるような人材の育成を目指しております。

スケジュール

- 第1回 「卒業論文の構想と史料」1 (月例発表1)
- 第2回 文献講読 輪読 (ガイダンス)
- 第3回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編1)
- 第4回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編2)
- 第5回 「卒業論文の構想と史料」2 (月例発表2)
- 第6回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編3)
- 第7回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編4)
- 第8回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編5)
- 第9回 「卒業論文の構想と史料」3 (月例発表3)
- 第10回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編6)
- 第11回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編7)
- 第12回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 上級編8)
- 第13回 「卒業論文の構想と史料」4 (月例発表4)
- 第14回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 総復習)
- 第15回 総括 (報告総括)
- 第16回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 特別編1)
- 第17回 「卒業論文の構想と史料」5 (月例発表5)
- 第18回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 特別編2)
- 第19回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 特別編3)
- 第20回 文献講読 輪読 (戦国期の文書 特別編4 総復習)
- 第21回 「卒業論文の構想と史料」6 (卒論方針の報告1)
- 第22回 「卒業論文の構想と史料」7 (卒論方針の報告2)
- 第23回 「卒業論文の構想と史料」8 (卒論方針の報告3)
- 第24回 「卒業論文の構想と史料」9 (卒論方針の報告4)
- 第25回 卒業論文の校正1
- 第26回 卒業論文の校正2
- 第27回 卒業論文の校正3
- 第28回 卒業論文の校正4
- 第29回 卒業論文の校正5
- 第30回 総括 (卒論の総評)

教科書・参考文献

教科書 開講に際して、指示致します。

参考書 開講に際して、指示致します。

授業外での学習

毎日、教科書1時間、歴史的文献1時間の精読を、求めます。

評価方法

毎回の平常点の平均値と定期試験、卒業論文の成績を以って、総合的に評価致します。平常点、定期試験の成績を7割、卒業論文を3割の割合で評価致します。

履修上の注意

始業ベルと同時に演習を開始致します。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 永田 瞬 (ナガタ シュン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

演習Iは基礎演習の発展科目である。問題関心を、これまでの自分の狭い関心領域から、より専門的な学問領域へと引き上げることを目的とする。自らの生活圏と学問世界との間の距離感を理解するため、労働問題や社会保障に関わる良質のテキストを輪読する。ゼミ発表のための時間を惜しまず、積極的に討議することを厭わない学生の参加を歓迎します。

達成目標

- ・文献の調べ方、読み方やレジュメの作成の方法、発表方法を磨く。
- ・経済社会の常識について自分なりの意見を持てるようにする。
- ・勉強するための仲間をつくり、たくさん議論をする。
- ・学内外で研究成果を発表し、卒業論文にむけた問題意識の先鋭化を図る。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 仮説をつくる1
- 第3回 仮説をつくる2
- 第4回 仮説をつくる3
- 第5回 文献を整理する1
- 第6回 文献を整理する2
- 第7回 文献を整理する3
- 第8回 仮説を検証する1
- 第9回 仮説を検証する2
- 第10回 仮説を検証する3
- 第11回 グループワーク1 仮説をつくる
- 第12回 グループワーク2 資料を収集する
- 第13回 グループワーク3 仮説を検証する
- 第14回 グループワーク4 討論する
- 第15回 まとめ
- 第16回 イントロダクション
- 第17回 リサーチ結果をまとめる1
- 第18回 リサーチ結果をまとめる2
- 第19回 リサーチ結果をまとめる3
- 第20回 論文を書く1
- 第21回 論文を書く2
- 第22回 論文を書く3
- 第23回 論文を発表する1
- 第24回 論文を発表する2
- 第25回 論文を発表する3
- 第26回 ビアレビューを行う1
- 第27回 ビアレビューを行う2
- 第28回 ビアレビューを行う3
- 第29回 グループワーク5 討論する
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 ガイダンス時にアナウンスする。

参考書 必要に応じて紹介する。

授業外での学習

個人研究やグループ研究の準備のため、予習・復習時間の確保は必要である。

評価方法

授業への参加度、課題提出などを総合的に判断する。他人と比較した個人の能力というよりも、自分自身が目標に対してどれだけ達成できたのか、それが評価の基準である。

履修上の注意

基礎演習を履修済みであること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 永田 瞬 (ナガタ シュン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習の目的は、各個人がテーマを決定し、卒業論文を完成させることにある。研究テーマは経営労務論や社会政策論に関わる領域を選ぶことが好ましいが、受講者の関心とテーマ設定にあたっては、教員と相談をして進める。また卒業論文の構想・準備発表とは別に、共通のテキストを指定し、ゼミとしての共通の問題意識を固める作業も行う予定である。

達成目標

- ・卒業論文の構想と計画を準備し、必要な文献を入手・整理できること。
- ・適切なテーマ設定を行い、それに必要な章構成を構築できること。
- ・各種のデータベース（Cinii、国立国会図書館）を利用し、資料収集可能なこと。
- ・卒業論文を完成させ、最終の卒論発表会で研究成果を発表すること。

スケジュール

第1回 イントロダクション
第2回 仮説をつくる1
第3回 仮説をつくる2
第4回 仮説をつくる3
第5回 文献を整理する1
第6回 文献を整理する2
第7回 文献を整理する3
第8回 仮説を検証する1
第9回 仮説を検証する2
第10回 仮説を検証する3
第11回 グループワーク1 仮説をつくる
第12回 グループワーク2 資料を収集する
第13回 グループワーク3 仮説を検証する
第14回 グループワーク4 討論する
第15回 まとめ
第16回 イントロダクション
第17回 リサーチ結果をまとめる1
第18回 リサーチ結果をまとめる2
第19回 リサーチ結果をまとめる3
第20回 論文を書く1
第21回 論文を書く2
第22回 論文を書く3
第23回 論文を発表する1
第24回 論文を発表する2
第25回 論文を発表する3
第26回 ビアレビューを行う1
第27回 ビアレビューを行う2
第28回 ビアレビューを行う3
第29回 グループワーク5 討論する
第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 ガイダンス時にアナウンスする。

参考書 受講者と相談し、適宜紹介する。

授業外での学習

卒業論文の完成に必要な時間は、各自で異なるが、執筆段階では、毎日5～6時間の準備は必要だろう。

評価方法

授業への参加度、課題提出などを総合的に判断する。他人と比較した個人の能力というよりも、自分自身が目標に対してどれだけ達成できたのか、それが評価の基準である。

履修上の注意

- ・研究室に所在している書籍やテキストは、すべて卒業論文の参考として利用可能である。各自オフィスアワーなどを活用し、教員と研究内容を相談しつつ、計画的に進めること。
- ・個別の相談には研究室で対応する。電話等でアポイントメントを取ること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 中野 正裕 (ナカノ マサヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習では、①基本的なマクロ・ミクロの経済分析の分析用具を習得する、②経済データの加工や簡単な計量分析を通じて、経済理論の説明力を検証する、③分析結果を報告し討議を行う、を課題とします。さらに各自の研究内容に応じて、個別の課題が加えられます。これらの課題に取り組むことで、経済社会の現状と課題について理解し、分析する能力を高めることが演習の目標です。また、演習においては、「自身の考えを論理的・説得的に他者に伝える」ための工夫が絶えず求められます。

達成目標

演習における学習、報告および討議を通じて経済問題に対する関心を深め、個別テーマに沿った研究課題を作成することを目標とします。

スケジュール

回数	内容
第1回	前期演習課題の確認、テキスト輪読のデモンストレーション (粗付加価値概念)
第2回	テキスト輪読 (三面等価の原則) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第3回	テキスト輪読 (所得の測定範囲) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第4回	テキスト輪読 (名目値と実質値) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第5回	テキスト輪読 (景気動向指数) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第6回	テキスト輪読 (ケインズ型消費関数) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第7回	テキスト輪読 (消費の時系列データ) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第8回	テキスト輪読 (ライフサイクル仮説) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第9回	テキスト輪読 (恒常所得仮説) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第10回	テキスト輪読 (消費の流動性制約) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第11回	テキスト輪読 (設備投資と景気循環) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第12回	テキスト輪読 (資本の限界生産性) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第13回	テキスト輪読 (資本の使用費用) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第14回	テキスト輪読 (最適資本ストックの決定) / 研究報告 / ミクロ経済学学習・計算演習
第15回	研究成果 (データ分析) 報告会
第16回	後期演習課題の確認 / 研究報告
第17回	テキスト輪読 (投資の調整費用) / 研究報告 / 進級課題の作成計画
第18回	テキスト輪読 (企業の資金調達) / 研究報告 / 進級課題の作成 (データ分析のまとめ)
第19回	テキスト輪読 (家計の資産選択) / 研究報告 / 進級課題の作成 (データ分析のまとめ)
第20回	テキスト輪読 (株価決定理論) / 研究報告 / 進級課題の作成 (データ分析のまとめ)
第21回	テキスト輪読 (投機とパブル) / 研究報告 / 進級課題の作成 (データ分析のまとめ)
第22回	テキスト輪読 (トービンのq理論) / 研究報告 / 進級課題の作成 (テーマ別文献整理)
第23回	テキスト輪読 (投資の実証分析) / 研究報告 / 進級課題の作成 (テーマ別文献整理)
第24回	テキスト輪読 (経済成長のトレンド) / 研究報告 / 進級課題中間提出
第25回	テキスト輪読 (均斉成長の理論) / 研究報告 / 課題作成と個別指導
第26回	テキスト輪読 (ソロー成長会計) / 研究報告 / 課題作成と個別指導
第27回	テキスト輪読 (成長会計と国際データ) / 研究報告 / 課題作成と個別指導
第28回	テキスト輪読 (収束の概念) / 研究報告 / 課題作成と個別指導
第29回	テキスト輪読 (内生的成長理論) / 研究報告 / 課題作成と個別指導
第30回	進級課題に関する意見交換、進級課題の提出

教科書・参考文献

教科書 マクロ経済学のテキストを輪読します (テキストはあらかじめ学生と相談して決定)。
サブゼミでは、基礎演習で使ったテキストを継続使用します。

参考書 必要に応じてReading Listを配布する、または個別に文献を適宜紹介します。

授業外での学習

演習 (とサブゼミ) の講読で用いる教科書は必ず事前に読み、また理論学習における数式やグラフの導出部分は紙と鉛筆を用いて適宜確認して下さい。研究報告の準備、課題の作成、ERE受験の準備は各自計画的に行って下さい。

評価方法

演習における受講状況、報告、討論の態度、課題の提出 (60%) と進級論文の内容 (40%) により評価します。

履修上の注意

3年次前期は経済理論の基礎的なトレーニングを重視し、ERE (経済学検定試験) 等にも挑戦して下さい。また個別研究やグループ研究においては、情報を収集し作業計画の見通しを立て、多くの人と協議を重ねて、研究成果を得るための工夫を楽しんで下さい。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 中野 正裕 (ナカノ マサヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

3年次の「演習I」を基礎として、さらに応用的な学習や個別研究を進めることが目的です。最終学年における個別研究では、これまで養ってきた経済学の知識、分析能力や問題解決能力、プレゼンや討議の技術、独自の経済観が、実際に社会に出てどのように活かせるかを強く意識し、卒業論文の作成と報告、討議に集中してもらいます。

達成目標

演習における学習、報告および討議を通じて経済問題に対する関心を深め、期限までに卒業研究を作成することが目標です。

スケジュール

第1回 前期演習課題の確認
第2回 進級課題の返却と個別指導、卒業課題の計画書作成
第3回 個別指導、卒業課題の作成 (アプローチの選択)
第4回 個別指導、卒業課題の作成 (先行研究の整理)
第5回 個別指導、卒業課題の作成 (先行研究の整理)
第6回 個別指導、卒業課題の作成 (先行研究の整理)
第7回 個別指導、卒業課題の作成 (先行研究の整理)
第8回 卒業課題作成の中間報告書提出、意見交換
第9回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第10回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第11回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第12回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第13回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第14回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第15回 中間原稿の提出と意見交換
第16回 後期演習課題の確認、卒業課題作成計画書の提出
第17回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第18回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第19回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第20回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第21回 卒業課題の作成、個別指導 (分析結果の報告と意見交換)
第22回 卒業課題の作成、全体指導 (研究動機と題目の設定)
第23回 卒業課題の作成、全体指導 (研究方針の文書化)
第24回 卒業課題の作成、全体指導 (章、節の配置)
第25回 卒業課題の作成、全体指導 (データの加工と図表の作成)
第26回 卒業課題の作成、全体指導 (参考文献・資料リストの作成)
第27回 卒業論文草稿の提出
第28回 卒業論文のチェックと個別指導
第29回 卒業論文最終稿の作成
第30回 卒業論文最終稿の提出、論文集の編集作業

教科書・参考文献

教科書 前期では、3年次の演習で使用したテキストを継続使用する、または他の教材を用意して講読を行うことがあります。

参考書 演習生の研究課題と関連した教材や資料を、指定または配布することがあります。

授業外での学習

研究報告の準備、課題の作成は各自計画的に行って下さい。(演習Iに引き続き講読を実施する場合、教科書は必ず事前に読み、また理論学習における数式やグラフの導出部分は紙と鉛筆を用いて適宜確認して下さい。)

評価方法

演習における受講状況、報告、討論の態度、課題の提出 (60%) と卒業論文の内容 (40%) により評価します。

履修上の注意

就職活動など演習外の活動が忙しくなる時期ですが、学業の優先度を下げることなく、スケジュール管理をきちんと行うよう心掛けて下さい。また必要に応じて、3年次生に対しサブゼミ等を通じて責任ある学習指導を実施して下さい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	中村 彰良 (ナカムラ アキヨシ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

会計問題について理解を深めるとともに、自ら調べ、発表することに慣れてもらう。
自ら調べ、発表することで、ゼミ論文で書きたいテーマが見えてくると思われる。

達成目標

会計についての理解を深め、興味を持ったテーマを見つける。

スケジュール

第1回：オリエンテーション
第2～5回：テキストの輪読
第6回：前回までの内容について自分なりの問題意識をまとめる
第7～12回：テキストの輪読
第13～15回：ビジネスゲーム
第16～20回：テキストの輪読
第21回：前回までの内容について自分なりの問題意識をまとめる
第22～25回：テキストの輪読
第26回：どのようなものが論文のテーマになるか検討する
第27～29回：テキストの輪読
第30回：まとめ

教科書・参考文献

教科書 加登豊・李建著『コスト・マネジメント』新世社、伊藤邦雄著『現代会計入門』日本経済新聞社
(前年度と同じ場合)
参考書

授業外での学習

教科書を読んで予習し、授業後は、他の人の意見も踏まえて読み返してみる。

評価方法

平常点50%、発表50%

履修上の注意

簿記の基礎知識を要する。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	中村 彰良 (ナカムラ アキヨシ)	

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

会計問題について理解を深めるとともに、自ら調べ、発表することに慣れ、興味のあるテーマをゼミ論文にまとめる。ゼミ論文が書ければ、良い経験になる。

達成目標

ゼミ論文を仕上げる。

スケジュール

第1回:オリエンテーション
第2～5回:テキストの輪読
第6～10回:会計に関する新聞記事などを読み現在の問題を把握する
第11～14回:ゼミ論文のテーマを設定する
第15回:ゼミ論文テーマの報告
第16～18回:ゼミ論文の進捗状況の報告
第19～23回:会計に関する新聞記事などを読み自分のテーマへの影響を把握する
第24～26回:ゼミ論文の進捗状況の報告
第27回目～30回:完成ゼミ論文の報告

教科書・参考文献

教科書 伊藤邦雄著『現代会計入門』日本経済新聞社 (前年度)

参考書

授業外での学習

ゼミ論文のテーマを考え、論文を完成させる。

評価方法

平常点20%、中間発表30%、論文50%

履修上の注意

簿記の基礎知識を要する。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 名和 賢美 (ナワ ケンミ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習の主目的は、以下の2点です。
1つ目は、プレゼンテーション能力の向上です。人前で立派に堂々と、しかも分かりやすく話をする事ができる人物となるように、「基礎演習」における古典的理論講読で学んだプレゼンのポイントをもとに、実践的な発表練習を積み重ねていきます。
もう1つは、これこそ最大の目的ですが、卒業論文作成の土台作りです。自らが胸に秘めていた社会に対する不満や怒りについて調査研究を進め、テーマの選定および絞り込みを行い、「演習II」での卒業論文作成に向けた土台を築くことを目指します。

達成目標

正規のゼミ時間は、いわば実践練習の場です。この時間以外に、人の見ていないところでコツコツと、関連文献を読み進め、またプレゼン練習する。こうした自主性の高い学生になることこそ、本演習の達成目標です。

スケジュール

授業の中心は、年間を通じて、ゼミ生各自の研究発表と質疑応答です。
担当者は、自らの問題関心をいかに絞ってきたか、先行研究調査からどのような論点が見えてきたか、今後調査研究を進める上での課題は何か、などについて定期的に発表することになります。
担当者の発表後には、発表内容およびプレゼン態度について質疑応答の時間となります。学生相互の批評・訂正を重視するため、毎回全員が積極的に発言することが求められます。
また、研究発表の合間に文献の輪読も組み込みます。

【前期】

- 第1回：前期時間割コンセプトの発表
- 第2～5回：春休みの課題発表（各回2名ずつ）
- 第6回：質問の仕方と回答の読解法
- 第7回：いち押し漫画のプレゼン大会
- 第8～10回：教員いち押し漫画の輪読（論旨把握、論点考察）
- 第11～14回：学生いち押し漫画の輪読（論旨把握、論点考察）
- 第15回：夏休み課題の検討

【後期】

- 第16回：前期時間割コンセプトの発表
- 第17～20回：研究調査の進捗状況報告（各回2名ずつ）
- 第21～24回：プレゼン理論の輪読（論旨把握、論点考察）
- 第25～28回：卒業論文中間報告の聴講および質疑応答
- 第29回：4年次生の公開卒論発表会の聴講
- 第30回：演習の総括

教科書・参考文献

教科書 なし。

参考書 授業中に適宜紹介します。

授業外での学習

自らの研究テーマに関して日々リサーチし続けることになります。研究発表日から逆算して毎日の時間管理に注意を払い、準備を発表前日にためこまないように。

評価方法

研究発表：50%、他のゼミ生の発表に対するコメント：50%

履修上の注意

問題関心の絞り込みが思わしくない、またプレゼンの練習がうまくいかないと感じた場合、積極的に授業時間外に個別指導を受けるように。なお、スケジュールは授業の進行状況等により変更する場合があります。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 西川 静華 (ニシカワ シズカ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

これまでに習ってきたミクロ経済学、ゲーム理論の知識をさらに深め、一人一人が興味を持った事象を自分で研究分析するための素地作りをします。専門書や学術論文を読み発表することで、自分の言葉で物事を人に伝えることを学びます。また他の学生の発表を聞いて質問や議論をすることで、積極性を身に着けます。自分で研究対象を探すことで問題意識を高めます。グループで論文を書くことで、協調性を身に着けます。

達成目標

ミクロ経済学、ゲーム理論の知識を深める。プレゼン能力を高める。卒業論文の題材を見つけ、その素地となるグループ論文を執筆する。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 グループ論文のテーマ探し
- 第3回 テキスト輪読①
- 第4回 テキスト輪読②
- 第5回 テキスト輪読③
- 第6回 テキスト輪読④
- 第7回 テキスト輪読⑤
- 第8回 グループ論文のテーマ発表
- 第9回 テキスト輪読⑥
- 第10回 テキスト輪読⑦
- 第11回 テキスト輪読⑧
- 第12回 テキスト輪読⑨
- 第13回 テキスト輪読⑩
- 第14回 テキスト輪読⑪
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 グループ論文の中間発表①
- 第17回 グループ論文の中間発表②
- 第18回 テキスト輪読⑫
- 第19回 テキスト輪読⑬
- 第20回 テキスト輪読⑭
- 第21回 テキスト輪読⑮
- 第22回 テキスト輪読⑯
- 第23回 テキスト輪読⑰
- 第24回 卒業論文のテーマ選び①
- 第25回 卒業論文のテーマ選び②
- 第26回 グループ論文最終発表①
- 第27回 グループ論文最終発表②
- 第28回 グループ論文最終発表③
- 第29回 グループ論文最終発表④
- 第30回 総括

教科書・参考文献

教科書 開講後に指示します

参考書 開講後に指示します

授業外での学習

輪読発表の準備、グループ論文の発表と執筆

評価方法

演習の積極的参加 (20%)、発表 (40%)、グループ論文 (40%)

履修上の注意

積極的な参加が不可欠です。グループ論文と卒業論文のテーマは同一 (類似) でなくても構いません。常にアンテナを張って面白い題材を探してください。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 西川 静華 (ニシカワ シズカ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

演習Iで培った知識と能力を総動員して、各自が選んだテーマで卒業論文を完成させる。ミクロ経済学の知識をさらに深め、論文の書き方とプレゼンテーションスキルを習得する。

達成目標

高水準の卒業論文を完成させ、プレゼンテーションと討議をする。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 論文の書き方①
- 第3回 論文の書き方②
- 第4回 卒業論文のテーマ発表①
- 第5回 卒業論文のテーマ発表②
- 第6回 テキスト輪読①
- 第7回 テキスト輪読②
- 第8回 テキスト輪読③
- 第9回 テキスト輪読④
- 第10回 先行研究のレビュー①
- 第11回 先行研究のレビュー②
- 第12回 先行研究のレビュー③
- 第13回 先行研究のレビュー④
- 第14回 先行研究のレビュー⑤
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 卒業論文の中間発表 (草稿提出) ①
- 第17回 卒業論文の中間発表 (草稿提出) ②
- 第18回 卒業論文の中間発表 (草稿提出) ③
- 第19回 卒業論文の中間発表 (草稿提出) ④
- 第20回 プレゼンテーションスキル①
- 第21回 プレゼンテーションスキル②
- 第22回 論文の書き方③
- 第23回 論文の書き方④
- 第24回 論文の書き方⑤
- 第25回 論文の書き方⑥
- 第26回 卒業論文最終発表①
- 第27回 卒業論文最終発表②
- 第28回 卒業論文最終発表③
- 第29回 卒業論文最終発表④
- 第30回 総括

教科書・参考文献

教科書 開講後に指示します

参考書 開講後に指示します

授業外での学習

輪読発表の準備、卒業論文の発表と執筆

評価方法

演習の積極的参加 (20%)、発表 (40%)、卒業論文 (40%)

履修上の注意

積極的な参加が不可欠です。グループ論文と卒業論文のテーマは同一 (類似) でなくても構いません。常にアンテナを張って面白い題材を探してください。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 名和 賢美 (ナワ ケンミ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習の主目的は、以下の2点です。
1つ目は、プレゼンテーション能力のさらなる向上です。人前で立派に堂々と、しかも分かりやすく話をする
ことができる人物となるように、「基礎演習」および「演習I」で学んだプレゼンのポイントをもとに、実践的
な発表練習を積み重ねていきます。
もう1つは、これこそ最大の目的ですが、現代社会の諸問題に対する提言の表明です。「演習I」で模索・検
討した自らの研究テーマについてさらに調査研究を進め、論理的な卒業論文としてまとめ上げます。そして、そ
の成果から導き出された具体的な改善策を、公開卒論発表会の場で、提言することを目指します。

達成目標

就活という難関を無事突破した上で、生涯のテーマを見出し、その第一弾の成果として卒業論文を完成させる。
さらには、その成果を公開卒論発表会でピシッとプレゼンする。こうした業績を積み重ねることこそ、本演習の
達成目標です。

スケジュール

授業の中心は、年間を通じて、ゼミ生各自の研究発表と質疑応答です。
担当者は、自らの問題関心をいかに絞ってきたか、先行研究調査からどのような論点が見えてきたか、今後調査
研究を進める上での課題は何か、などについて定期的に発表することになります。
担当者の発表後には、発表内容およびプレゼン態度について質疑応答の時間となります。学生相互の批評・訂正
を重視するため、毎回全員が積極的に発言することが求められます。

【前期】

- 第1回：前期時間割コンセプトの発表
- 第2～5回：春休みの課題発表（各回2名ずつ）
- 第6回：質問の仕方と回答の読解法
- 第7回：卒業論文テーマ選定の発表
- 第8～14回：卒業論文大枠の検討
（問題意識の明確化、先行研究の調査、資料収集）
- 第15回：夏休み課題の検討

【後期】

- 第16回：後期時間割コンセプトの発表
- 第17～20回：研究調査の進捗状況報告（各回2名ずつ）
- 第21～24回：卒業論文執筆準備
（論文の構成、序の執筆、本論・結論の執筆、序の修正）
- 第25～28回：卒業論文中間報告の聴講および質疑応答
- 第29回：公開卒論発表会
- 第30回：演習の総括

教科書・参考文献

教科書 なし。

参考書 授業中に適宜紹介します。

授業外での学習

自らの研究テーマに関して日々リサーチし続けることになります。研究発表日から逆算して毎日の時間管理に注
意を払い、準備を発表前日にためこまないように。

評価方法

研究発表：50%、他のゼミ生の発表に対するコメント：50%

履修上の注意

問題関心の絞り込みが思わしくない、またプレゼンの練習がうまくいかないと感じた場合、積極的に授業時間外
に個別指導を受けるように。なお、スケジュールは授業の進行状況等により変更する場合があります。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 谷川 卓 (タニカワ タク)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

哲学の文献を読むことを通じて、議論を批判的に検討する能力の向上をめざすとともに、哲学的にアプローチする仕方について学ぶ。取り上げる文献は演習参加者の関心などを踏まえて決める。演習の基本的な流れとしてはつぎのようになる。(1)発表担当者が文献の割り当てられた箇所の内容について報告する、(2)参加者全員で発表者による報告を検討しつつ、文献の内容の理解に努める、(3)文献の内容をめぐって、参加者全員でディスカッションをする。また後期には、4年次に執筆する卒論のための準備を開始する。

達成目標

哲学の文献を読み、そこにある議論を適切に取り出せるようになること。そしてその議論を批判的に検討できるようになること。

スケジュール

第1回 ガイダンス
第2回 文献の輪読とディスカッション (1)
第3回 文献の輪読とディスカッション (2)
第4回 文献の輪読とディスカッション (3)
第5回 文献の輪読とディスカッション (4)
第6回 文献の輪読とディスカッション (5)
第7回 文献の輪読とディスカッション (6)
第8回 文献の輪読とディスカッション (7)
第9回 文献の輪読とディスカッション (8)
第10回 文献の輪読とディスカッション (9)
第11回 文献の輪読とディスカッション (10)
第12回 文献の輪読とディスカッション (11)
第13回 文献の輪読とディスカッション (12)
第14回 文献の輪読とディスカッション (13)
第15回 前期のまとめ
第16回 ガイダンス
第17回 文献の輪読とディスカッション (14)
第18回 文献の輪読とディスカッション (15)
第19回 文献の輪読とディスカッション (16)
第20回 文献の輪読とディスカッション (17)
第21回 文献の輪読とディスカッション (18)
第22回 文献の輪読とディスカッション (19)
第23回 文献の輪読とディスカッション (20)
第24回 卒論のテーマについて (1)
第25回 文献の輪読とディスカッション (21)
第26回 文献の輪読とディスカッション (22)
第27回 文献の輪読とディスカッション (23)
第28回 文献の輪読とディスカッション (24)
第29回 卒論のテーマについて (2)
第30回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 ガイダンス時に (あるいはそれに先立って) 指示する。

参考書 授業のなかで適宜紹介する。

授業外での学習

授業で取り上げた文献や、授業中でのディスカッションについて、あらためて自分で考えてみる。授業で取り上げる文献以外にも、哲学分野の文献を読むこと。

評価方法

演習への参加状況を総合的に評価する。演習への参加姿勢や、必要に応じて課す課題などを踏まえて評価する。

履修上の注意

演習形式の授業は、出席者の積極的な参加があつてこそ成り立つ。文献の輪読にあたって割り当てられた箇所の報告をすることも大事だが、それを踏まえたディスカッションなども大事である (ともあれ気になったことは言ってみるといふ姿勢が大事)。出席者全員の活発な参加を求める。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 谷川 卓 (タニカワ タク)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

哲学の文献を読むことを通じて、議論を批判的に検討する能力の向上をめざすとともに、哲学的にアプローチする仕方について学ぶ。取り上げる文献は演習参加者の関心などを踏まえて決める。演習の基本的な流れとしてはつぎのようになる。(1)発表担当者が文献の割り当てられた箇所の内容について報告する、(2)参加者全員で発表者による報告を検討しつつ、文献の内容の理解に努める、(3)文献の内容をめぐって、参加者全員でディスカッションをする。また文献の講読と並行して、卒業論文の作成をする。授業のなかでも卒論のテーマについて発表してもらい、演習参加者全員で検討する機会を設ける。なお最後に、卒業論文に基づく研究発表会を行う予定である。

達成目標

哲学の文献を読み、そこにある議論を適切に取り出せるようになること。そしてその議論を批判的に検討できるようになること。卒業論文を作成すること。

スケジュール

第1回 ガイダンス
第2回 文献の輪読とディスカッション (1)
第3回 文献の輪読とディスカッション (2)
第4回 文献の輪読とディスカッション (3)
第5回 文献の輪読とディスカッション (4)
第6回 文献の輪読とディスカッション (5)
第7回 卒論中間報告 (1)
第8回 卒論中間報告 (2)
第9回 文献の輪読とディスカッション (6)
第10回 文献の輪読とディスカッション (7)
第11回 文献の輪読とディスカッション (8)
第12回 文献の輪読とディスカッション (9)
第13回 文献の輪読とディスカッション (10)
第14回 文献の輪読とディスカッション (11)
第15回 前期のまとめ
第16回 ガイダンス
第17回 文献の輪読とディスカッション (12)
第18回 文献の輪読とディスカッション (13)
第19回 文献の輪読とディスカッション (14)
第20回 文献の輪読とディスカッション (15)
第21回 文献の輪読とディスカッション (16)
第22回 文献の輪読とディスカッション (17)
第23回 卒論中間報告 (3)
第24回 卒論中間報告 (4)
第25回 文献の輪読とディスカッション (18)
第26回 文献の輪読とディスカッション (19)
第27回 文献の輪読とディスカッション (20)
第28回 文献の輪読とディスカッション (21)
第29回 卒論研究発表に備えてプレゼン資料の作成
第30回 卒論研究発表

教科書・参考文献

教科書 ガイダンス時に (あるいはそれに先立って) 指示する。

参考書 授業のなかで適宜紹介する。

授業外での学習

授業で取り上げた文献や、授業中でのディスカッションについて、あらためて自分で考えてみる。卒業論文の作成にしっかり取り組むこと。

評価方法

演習への参加姿勢と卒業論文を踏まえて評価する。

履修上の注意

卒業論文の作成にあたっては、さまざまなひとと議論を重ねつつ自分の論文をよりよいものにしていくという姿勢が大事である。できるかぎりよい論文を作成しようとするに努めてほしい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 藤本 哲 (フジモト テツ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

リーダーシップ、チームワーク、多様性管理に関する書籍を読み、学習を進める。片仮名でダイバーシティ・マネジメントと称されることも多い多様性管理は、今後ますます必要性が高まる。しかし国際化以前にも存在している多様性、つまり目に付きにくい多様性も意識しておく必要がある。多様な立場・人々が一緒に協力して仕事を遂行するために知っておきたい事柄を、本を通じて学ぶ。また自分では気づかなかつた点を同輩の気づきを通して学ぶことで、身近な多様性に改めて気づく。相互理解を促進するための手法をゼミ活動を通して学ぶ。相互牽制で時間を浪費するのではなく、なんでもない意見であっても早く出し合うことで議論が早く進むことを理解し、それが協調性であることを学ぶ。率先して自己開示することによって皆に貢献する人を高く評価し、尊重する。時間あたり生産性の考え方を学び、それが国家的競争力の向上につながることを学ぶ。

達成目標

(1) 空気を読まずに発言する積極的な態度の獲得。(2) 脈絡を読む能力の獲得。(3) 論文を探索し、読み原稿を書く、一連の作業を自律的に実行する。(4) 議論や作業を早く進めるために、自ら主導権を発揮する協同的態度の実践。(5) 積極的な自己開示を通して内省を進める。(6) 授業時間の外での準備作業の時間を捻出するため、自分なりの時間管理方法の模索。(7) 指示待ち族から脱却し、自ら提案する。

スケジュール

- 第1回 今年度の授業計画、各自の学習計画。班編制、役割分担、班テーマ選定、班スケジュール調整。
- 第2回 資料収集。書籍、論文、新聞記事、雑誌記事。
- 第3回 課題の練り上げ(発表とコメント)
- 第4回 先行文献の収集と分類
- 第5回 仮説を導出
- 第6回 データの探索
- 第7回 分析
- 第8回 追加データ探索・入手・分析
- 第9回 結果をまとめる
- 第10回 想定される質問を考える
- 第11回 発表準備
- 第12回 プレゼンテーション1・2班
- 第13回 プレゼンテーション3・4班
- 第14回 レポートの作成、学内プレゼンテーション大会への準備
- 第15回 前期レポート(班レポート)の提出と発表
- 第16回 Google Scholarによる文献探索と収集
- 第17回 文献引用の事例を収集
- 第18回 文献引用の作成、記録
- 第19回 三分法(KJ法との対照で)、段落書法
- 第20回 三分法による構想練り
- 第21回 文献追加と構想練り直し
- 第22回 構想から文章化
- 第23回 草稿案作成
- 第24回 草稿作成
- 第25回 原稿案作成
- 第26回 原稿作成
- 第27回 原稿改訂
- 第28回 原稿仕上げ
- 第29回 後期末レポート作成
- 第30回 後期末レポート提出、演習Iのまとめ

教科書・参考文献

教科書 授業計画書にて指示する。

参考書 自律的学習態度獲得のために、各自で探しましょう。

授業外での学習

毎週の授業の間の一週間に行う準備が大切です。毎週の授業では、皆が集まったときにしか出来ないことは何かを考え、実践しよう。一人でも出来ることは、授業開始までに済ませておこう。

評価方法

前期レポート3割、後期末レポート3割、プレゼンテーションでの発表2割。ゼミ行事への貢献1割。その他1割。規定の出席数が不足する場合は失格。

履修上の注意

課題などが出来そうにない時は早めに相談する事。故に早めに取り掛かるべし。組織行動論の履修を求める。詳細な授業計画は改めて連絡する。手帳に記録するなどして、出席数の把握は各自で行うこと。演習の授業が開かれる曜日の夕刻の予定の調整をしておく。この講義要項での授業予定は概要であり詳しくは授業計画書にて指示する。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 藤本 哲 (フジモト テツ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

卒業論文の作成。文献探索および収集、文章の作成と修正の繰り返しなど。インターネットを使った文献探索および収集、図書館の利用、ワードプロセッサ・ソフトウェアの使い方など、コンピュータ関連技能について、それらの技能習得も目的となる。卒業論文のテーマ選定にあたっては、いくつかの制約条件を意識しつつ、それらもなお広い領域の中から選ぶことになる。先生にテーマを指示されるのではなく、複数の候補を自分で挙げ、自分で選ぶ。多数の文献を読みつつ、テーマの絞り込みに迷いつつ、書いていく。書いては仲間の前で発表し、意見をもらう。また読み、書き直す。テーマ変更もある。これを何度も繰り返す。やってみて初めて分かることがある。だから早く取りかかって改善点を見つけ修正し、また取り組む。このサイクルを早く速く回すことで、締め切り時点での到達点が先に行くことになる。

達成目標

(1) 卒業論文の完成 (2) 自律的学習習慣の定着 (3) 早め早めに準備する行動様式の定着 (4) 遅刻や無断欠席は場の空気を乱すという価値観の内面化 (5) 試行錯誤を無駄足ととらえない価値観の内面化 (6) 周囲の人々に過度に合わせず、適度に自分を優先する強い心の確立と生活習慣の実践 (7) 自立した者どうしの集まりがバラバラにならないための意識的行動 (8) 経営組織論や経営管理論を専門に学んだ者としての自覚

スケジュール

- 第1回 卒論マニユアル本を読み、完成までの計画を立てる。執筆計画書の作成。
- 第2回 文献探索・収集方法。CiNii
- 第3回 参考文献リストの作成方法
- 第4回 文献探索・収集方法。図書館
- 第5回 文献探索・収集方法。日本労働研究雑誌
- 第6回 文献探索・収集方法。EbscoHost。
- 第7回 課題を3つ選定し、それを取り上げる動機をそれぞれ書き留める。研究動機覚書の作成。
- 第8回 三分法、段落書法。草稿枠の使い方
- 第9回 読んだ論文・本の発表、中間報告1
- 第10回 読んだ論文・本の発表、中間報告2
- 第11回 読んだ論文・本の発表、中間報告3。第1次参考文献リストの作成。
- 第12回 読んだ論文・本の発表、中間報告4
- 第13回 読んだ論文・本の発表、中間報告5
- 第14回 前期末レポート作成
- 第15回 前期末レポート提出
- 第16回 各項の第2～4段落のtopic sentenceが大体できた
- 第17回 各項の第2～4段落に先行研究の引用（あるいは例など）が2つとclosing sentenceが大体できた
- 第18回 各項の第2～4段落のtopic sentenceがほぼできあがり
- 第19回 各項の第2～4段落に先行研究の引用（あるいは例など）が2つとclosing sentenceがほぼできあがり
- 第20回 各項の第1・5段落と図や表がほぼできあがり
- 第21回 各項の第2～4段落に先行研究の引用（あるいは例など）が2つが完備する
- 第22回 各項の第2～4段落のtopic sentenceとclosing sentenceが仕上がりました
- 第23回 各項の第5段落と図や表が仕上がりました
- 第24回 各項の第1段落が仕上がりました
- 第25回 きちんとした出典の明示
- 第26回 各段落が完成（最終確認）
- 第27回 1段組に変換
- 第28回 参考文献の表記を完成
- 第29回 卒業論文発表会
- 第30回 最終稿提出

教科書・参考文献

教科書 各自の研究テーマに応じて紹介する。

参考書 倉島保美(2012)『論理が伝わる世界標準の「書く技術」：「パラグラフ・ライティング」入門（ブルーバックス）』講談社。図書館所蔵有り。

授業外での学習

毎週の授業は、基本的に進捗状況を報告する（仲間の報告を聞く）場となる。従って、授業と授業の間の1週間での準備が大切になる。これまでの学生を見てみると、自分の卒論のことはつい後回しになりがちのようなのでスケジュール管理が大切。自分のための時間を確保しよう。

評価方法

規定の出席数が不足する場合は失格。（前期）ピアレビューへの貢献10％、前期末レポートの進捗達成率20％。（後期）ピアレビューへの貢献10％、卒業論文40％、卒論発表20％。

履修上の注意

卒業論文作成の進捗状況がはかばかしくなくても休まない。早めに相談する。データのバックアップを怠りなさない。出席数の確保は厳守。就職内定先の呼び出しで欠席する場合は、予定されていた進捗を前週までに達成して報告する。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
教授 水口 剛 (ミズグチ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済学部 학생 として自ら問題意識を持ち、自ら研究し、問題解決にあたる姿勢と能力を身に付けることがこの授業の目的である。

達成目標

ゼミ生が協力して共通のプロジェクトに取り組み、プレゼンテーションを行い、最終的に論文の形にまとめて成果発表会を行うことで、研究から発表までの一連の研究スタイルを身につけることを達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマについての討論
- 第3回 研究テーマの決定
- 第4回 文献調査と発表
- 第5回 追加の文献調査の結果発表
- 第6回 分析手法の解説と検討(定性的手法)
- 第7回 分析手法の解説と検討(定量的手法)
- 第8回 工場見学・現場視察の討論と決定
- 第9回 研究の進捗状況報告と討論会(その1)
- 第10回 見学先に関する勉強会
- 第11回 研究の進捗状況報告と討論会(その2)
- 第12回 中間報告と討論(第1班)
- 第13回 中間報告と討論(第2班)
- 第14回 中間報告と討論(第3班)
- 第15回 夏季休業期間中の研究計画と夏合宿の計画決定
- 第16回 夏休み期間中の進捗の報告
- 第17回 インナー大会プレゼンテーションの報告資料の発表
- 第18回 プレゼンテーションのリハーサルと指導
- 第19回 プレゼンテーション反省会
- 第20回 論文の書き方(その1) 論文とは何か
- 第21回 論文の書き方(その2) 先行研究の調査と整理
- 第22回 論文の書き方(その3) 分析と論理の展開について
- 第23回 論文の構想の発表
- 第24回 構成案(目次)の発表
- 第25回 論理展開についての発表と討論
- 第26回 論理展開についての発表と討論
- 第27回 論文一次ドラフトの提出と評価
- 第28回 修正ドラフトの提出と評価
- 第29回 最終論文の提出と発表会の準備
- 第30回 成果論文発表会

教科書・参考文献

教科書 ゼミ生と相談のうえ、決定する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

授業時間中は、ゼミ生間での発表と討論の時間とする。プロジェクトは班活動を基本とするので、プロジェクトに関わる調査、研究などを、班の自主的な判断において、授業時間外で行うことになる。なおプロジェクトの中間発表の場としてゼミナール協議会インナー大会への参加を予定している。

評価方法

毎回の演習での討論・発言、および各班における研究成果を基礎として評価する。

履修上の注意

演習は「知識を教わる場」ではなく、「自ら研究する場」であり、ゼミ生同士が出会い、討論する場である。ゼミを作るのは、ゼミ生自身であることを忘れないこと。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
教授 水口 剛 (ミズグチ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済学部4年間の学生として自ら問題意識を持ち、自ら研究し、問題解決にあたる姿勢と能力を身につけることがこの授業の目的である。

達成目標

経済学部4年間の集大成として、卒業論文を完成させる。卒業論文は各自で作成するが、授業でその過程を発表し、全員で討論することで、全員で研究を深めることを目指す。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方とスケジュールの確認)
- 第2回 講義：問題意識を持つとは。
- 第3回 研究テーマの発表と検討 (第1グループ)
- 第4回 研究テーマの発表と検討 (第2グループ)
- 第5回 研究テーマの発表と検討 (第3グループ)
- 第6回 講義：先行研究を調べるとは。
- 第7回 先行研究についての発表と評価 (第1グループ)
- 第8回 先行研究についての発表と評価 (第2グループ)
- 第9回 先行研究についての発表と評価 (第3グループ)
- 第10回 講義：研究方法と研究計画
- 第11回 研究計画の発表と討論 (第1グループ)
- 第12回 研究計画の発表と討論 (第2グループ)
- 第13回 研究計画の発表と討論 (第3グループ)
- 第14回 講義と討論：ESG投資を巡る研究動向・実務動向
- 第15回 講義と討論：非財務情報開示を巡る研究動向・実務動向
- 第16回 分析・調査結果状況の報告 (第1グループ)
- 第17回 分析・調査結果状況の報告 (第2グループ)
- 第18回 分析・調査結果状況の報告 (第3グループ)
- 第19回 講義：論文の構成
- 第20回 論文ドラフトの報告 (第1グループ)
- 第21回 論文ドラフトの報告 (第2グループ)
- 第22回 論文ドラフトの報告 (第3グループ)
- 第23回 講義：論文の「批判的」検討とは何か
- 第24回 論文概要の発表と批判的検討 (第1グループ)
- 第25回 論文概要の発表と批判的検討 (第2グループ)
- 第26回 論文概要の発表と批判的検討 (第3グループ)
- 第27回 講義：論文プレゼンテーションと質疑
- 第28回 卒業論文発表会 (第1グループ)
- 第29回 卒業論文発表会 (第2グループ)
- 第30回 卒業論文発表会 (第3グループ)

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

授業では進捗を発表して討論するので、授業外の時間に各自の研究を進め、発表の準備をすること。

評価方法

毎回の授業での討論への貢献、および最終的な卒業論文の完成度と発表を基に評価する。

履修上の注意

卒業論文のテーマに制約は設けないが、1年かけて追求するのにふさわしい奥行きのある研究テーマを設定されたい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

講師 三富 悠紀 (ミトミ ユウキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

卒業論文を執筆する上で、必要な先行研究の調べ方・まとめ方、データの収集・分析の仕方の習得を目的とする。
情報・通信業における実務経験を踏まえて、グループ研究を通じて実施していく。

達成目標

- ①マーケティング・消費者行動論に関連する仮説を立てる論理力を養うこと。
 - ②データの収集・分析を通して、仮説を検証する能力を獲得すること。
 - ③グループで1つの作業を円滑に遂行するためのコミュニケーション能力を養うこと。
- 以上の3つを習得できるようにすることが、本講義の達成目標である。

スケジュール

- 第1回 前期オリエンテーション (講義内容・進め方の確認)
- 第2回 文献の読み方とレビューの仕方
- 第3回 日本語文献の輪読 その1
- 第4回 日本語文献の輪読 その2
- 第5回 日本語文献の輪読 その3
- 第6回 日本語文献の輪読 その4
- 第7回 日本語文献の輪読 その5
- 第8回 統計分析ソフトの使い方について (実習)
- 第9回 マーケティングモデルの実演練習 その1
- 第10回 マーケティングモデルの実演練習 その2
- 第11回 マーケティングモデルの実演練習 その3
- 第12回 マーケティングモデルの実演練習 その4
- 第13回 マーケティングモデルの実演練習 その5
- 第14回 グループ研究のチーム分け・方針の決定
- 第15回 グループ研究の問題意識設定
- 第16回 後期オリエンテーション (後期での進め方の確認)
- 第17回 先行研究のレビュー
- 第18回 グループ研究のテーマ設定 (問題意識・研究背景について) その2
- 第19回 グループ研究の仮説構築 その1
- 第20回 グループ研究の仮説構築 その2
- 第21回 分析データ集計方法の検討 その1
- 第22回 分析データ集計方法の検討 その2
- 第23回 データ集計
- 第24回 データの分析結果報告 その1
- 第25回 データの分析結果報告 その1
- 第26回 最終発表に向けての研究相談 その1
- 第27回 最終発表に向けての研究相談 その2
- 第28回 最終発表①
- 第29回 最終発表②
- 第30回 まとめ (演習の総括)

教科書・参考文献

- 教科書 藤本隆宏・新宅順二郎・粕谷誠・高橋伸夫・阿部誠『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ、2005年
- 参考書 里村卓也『マーケティング・モデル 第2版 (Rで学ぶデータサイエンス 13)』共立出版、2015年
その他参考文献は、講義中に追って明示する

授業外での学習

輪読や実演の資料準備や事前学習などがあるため、積極的に授業外で、関連分野に関する情報収集を行うこと。
また、発表資料に関しては他人に見せることを意識してください。

評価方法

講義内での発表70%、平常点30%で判断する。

履修上の注意

基本的なマーケティングに関する知識、ならびに統計の知識を身に着けているという前提の下で講義を実施する。もし講義に関連する知識をまだ身に着けていないという場合は、並行して関連講義の単位を取得しておくこと。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

講師 三富 悠紀 (ミトミ ユウキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

企業のマーケティング戦略もしくは、消費者の行動に関して、学生自身の疑問を基にして、研究を行い、卒業論文の執筆を目的とする。

また情報・通信業における実務経験を踏まえて指導をおこない、学生自身の手である程度のデータの収集・加工・分析が実施可能になることを目的とする。

達成目標

①マーケティング・消費者行動論に関する学生自身の疑問と先行研究を吟味し、仮説を立てる論理力を養うこと。②データの収集・分析を通して、仮説を検証する能力を獲得すること。③卒業論文を執筆することで、問題意識から結果考察までの一連の流れを纏める能力を獲得すること。以上の3つを習得できるようにすることが、本講義の達成目標である。

スケジュール

第1回	前期オリエンテーション（進め方の確認）	
第2回	卒表論文のテーマ設定（問題意識・研究背景について）	その1
第3回	卒表論文のテーマ設定（問題意識・研究背景について）	その2
第4回	卒表論文のテーマ設定（問題意識・研究背景について）	その3
第5回	論文テーマのコアとなる先行研究レビュー	その1
第6回	論文テーマのコアとなる先行研究レビュー	その2
第7回	論文テーマのコアとなる先行研究レビュー	その3
第8回	先行研究を基にした仮説構築	その1
第9回	先行研究を基にした仮説構築	その2
第10回	先行研究を基にした仮説構築	その3
第11回	検証データの集計方法について検討	その1
第12回	検証データの集計方法について検討	その2
第13回	検証データの集計方法について検討	その3
第14回	データ集計	
第15回	前期のまとめ	
第16回	後期オリエンテーション（進捗の確認）	
第17回	中間報告準備	
第18回	中間報告	その1
第19回	中間報告	その2
第20回	中間報告	その3
第21回	検証データの分析結果報告	その1
第22回	検証データの分析結果報告	その2
第23回	検証データの分析結果報告	その3
第24回	最終発表に向けての研究相談	その1
第25回	最終発表に向けての研究相談	その2
第26回	最終発表に向けての研究相談	その3
第27回	最終発表	その1
第28回	最終発表	その2
第29回	最終発表	その3
第30回	後期のまとめ（最終発表の総括）	

教科書・参考文献

- 教科書 井上哲浩・日本マーケティング・サイエンス学会 編『Webマーケティングの科学-リサーチとネットワーク-』千倉書房、2007年
- 参考書 勝又壮太郎・西本章宏『競争を味方につけるマーケティング-脱コモディティ化のための新発想-』有斐閣、2016年

授業外での学習

輪読や実演の資料準備や事前学習などがあるため、積極的に授業外で、関連分野に関する情報収集を行うこと。また、発表資料に関しては他人に見せることを意識してください。

評価方法

講義内での発表70%、平常点30%で判断する。

履修上の注意

基本的なマーケティングに関する知識、ならびに統計の知識を身に着けているという前提の下で講義を実施する。もし講義に関連する知識をまだ身に着けていないという場合は、並行して関連講義の単位を取得しておくこと。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 宮田 庸一 (ミヤタ ヨウイチ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

回帰分析は与えられた多変量データの関連性の有無を調べたり、ある変数を予測するのに有用な手法である。近年、統計処理ソフトの普及により誰でも簡単に回帰分析を扱えるようになったが、その原理を理解していないと誤った使い方をしたり、統計処理で問題が生じた時に、解決できない場合がある。
このため、この講義では以下を目標とする。
(1) 教科書に書いてある内容をなるべく飛ばさずに、途中式を埋めてきちんと読んでいく。
(2) 教科書に書いてある内容が何を意味しているのかを、図および言葉で説明できるようにする。

達成目標

回帰分析の理論を正確に理解することがこの演習の目的となる。

スケジュール

- 第1回 平均、分散、共分散
- 第2回 最小二乗法
- 第3回 決定係数、 Σ 記号の計算テクニック(pp.28-32,36-41)
- 第4回 確率、確率変数(pp.282-287)
- 第5回 期待値、分散(pp.287-290)
- 第6回 期待値、分散の性質(pp.291-296)
- 第7回 独立、条件付き期待値(pp.296-300)
- 第8回 独立、条件付き期待値(pp.300-304)
- 第9回 連続型確率変数(pp.304-308)
- 第10回 正規分布(pp.304-312)
- 第11回 カイ2乗分布、t分布
- 第12回 t分布、F分布
- 第13回 母集団、標本分布(pp.315-326)
- 第14回 推定量、不偏性(pp.326-330)
- 第15回 平均二乗誤差、一致推定量(pp.331-334)
- 第16回 単純回帰モデル(pp.44-51)
- 第17回 最小二乗推定量の期待値と分散その1(pp.52-56)
- 第18回 最小二乗推定量の期待値と分散その2(pp.52-56)
- 第19回 ガウス・マルコフの定理(pp.56-60)
- 第20回 ガウス・マルコフの定理、推定量の一致性(pp.61-65)
- 第21回 最小二乗推定量の分散の推定(pp.65-69)
- 第22回 最小二乗推定量の標本分布(pp.69-71)
- 第23回 回帰係数のt検定(pp.71-75)
- 第24回 回帰係数のt検定(pp.76-81)
- 第25回 予測、予測誤差、予測区間(pp.81-85)
- 第26回 多重回帰分析(pp.92-94)
- 第27回 多重回帰分析(pp.95-99)
- 第28回 多重回帰分析における最小二乗推定量の確率的表現(pp.100-103)
- 第29回 最小二乗推定量の期待値、分散、多重共線性(pp.104-107)
- 第30回 まとめ・評価・他

教科書・参考文献

教科書 『計量経済学』山本拓，新世社

参考書 [1] 経済分析のための統計的方法 岩田暁一，東洋経済新報社 [2] 統計学からの計量経済学入門 藤山英樹 昭和堂 (行列を用いた回帰分析) [3] 例題で学ぶ初歩からの計量経済学 白砂 堤津耶

授業外での学習

内容が難しくなってくるので、発表者でない者も教科書の当該ページを読んでくること。(そうすると、ゼミでコメントを言いやすくなる)

評価方法

- ・ゼミでのコメント/課題提出/リアクションペーパー/他 50%
- ・発表50%

履修上の注意

- ・発表者は教科書の内容や途中式を加えたノート(レジメ)を人数分コピーしてくること。
- ・ゼミは輪読で行うため、無断欠席は厳禁。(他のゼミ生に大きく迷惑をかける)

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 宮田 庸一 (ミヤタ ヨウイチ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

回帰分析は与えられた多変量データの関連性の有無を調べたり、ある変数を予測するのに有用な手法である。近年、統計処理ソフトの普及により誰でも簡単に回帰分析を扱えるようになったが、その原理を理解していないと誤った使い方をしたり、統計処理で問題が生じた時に、解決できない場合がある。

このため、この講義では以下を目標とする。

- (1) 卒業論文を作成し、卒論報告会で発表する。(一番重要)
- (2) 教科書に書いてある内容をなるべく飛ばさずに、途中式を埋めてきちんと読んでいく。
- (3) 教科書に書いてある内容が何を意味しているのかを、図および言葉で説明できるようにする。

達成目標

統計学を用いた、もしくは統計手法に関する卒業論文(以後、卒論と略記する)を書き、卒論報告会で発表すること。

スケジュール

- 第1回 自由度調整済み決定係数(pp.110-112)
- 第2回 変数選択1(pp.113-116)
- 第3回 変数選択2(pp.113-116)
- 第4回 定数項を持たない回帰モデル(pp.116-119)
- 第5回 非線形回帰モデル1(pp.124-132)
- 第6回 非線形回帰モデル2(pp.124-132)
- 第7回 ダミー変数1(pp.132-144)
- 第8回 ダミー変数2(pp.132-144)
- 第9回 F検定1(pp.146-152)
- 第10回 F検定2(pp.146-152)
- 第11回 構造変化の検定1(pp.153-157)
- 第12回 構造変化の検定2(pp.153-157)
- 第13回 統計ソフトR実習(データのインポート, 基本的な統計量, グラフの出力)
- 第14回 統計ソフトR実習(単回帰分析, 重回帰分析)
- 第15回 まとめ・復習・他
- 第16回 卒論のための研究、先行研究に関する疑問点について議論を行う。
- 第17回 卒論のための研究、先行研究に関する疑問点について議論を行う。
- 第18回 卒論中間報告
- 第19回 卒論中間報告
- 第20回 卒論中間報告
- 第21回 卒論のための研究、および卒論における疑問点を議論する。
- 第22回 卒論のための研究、および卒論における疑問点を議論する。
- 第23回 卒論のための研究、および卒論における疑問点を議論する。
- 第24回 卒論のための研究、および卒論における疑問点を議論する。
- 第25回 卒論の仮提出
- 第26回 卒論報告会
- 第27回 卒論報告会
- 第28回 卒論報告会
- 第29回 卒論報告会
- 第30回 まとめ・評価・他

教科書・参考文献

教科書 『計量経済学』山本拓, 新世社

参考書 [1] 経済分析のための統計的方法, 岩田暁一, 東洋経済新報社 [2] 統計学からの計量経済学, 藤山英樹, 昭和堂 [3] 例題で学ぶ初歩からの計量経済学, 白砂 堤津耶. 難易度は[1]>[2]>[3]です。

授業外での学習

- ・ 輪読においては、自分の担当箇所以外のところでも、各自前もって読んでおくこと。
- ・ 卒業論文におけるテーマを7月までには見つけておくこと。

評価方法

卒業論文 60%, 発表 20%, セミでのコメント 20%
尚、卒業論文の提出と卒論報告会での発表は、演習IIの単位を取得するために必ず行う必要がある。

履修上の注意

卒論の中間報告会および卒論報告会における発表はパワーポイント, PDFなどを用いて行ってください。またスライドは印刷したもの(ゼミ生と教員)を配布してください。
尚、統計ソフトRに関して役立つサイトは以下に記載しておきます。http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 向井 悠一郎 (ムカイ ユウイチロウ)
担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本ゼミの目的は、
・あらゆる仕事に必要な想像力と広い視野と行動力を身に付けること
・企業経営や経済活動を見る「ものづくり」(≠製造業)の考え方を身につけること
である。
こうした力は、どのような職業につくにしても、将来、皆さんが仕事する時に役立つと考えている。

達成目標

ゼミ活動を通じて、以下の力を身に付けることを達成目標とする。
・経営学の概念やフレームワークを用いて経営現象の事例を分析する能力・脈絡のある発表ができる能力・発表と質疑を通じて、他の人の主張を批判的に検討する(鵜呑みにしない)能力・現場・現実・現物ベースで問題発見・解決に向けて考察する能力・文系の人間でも、技術者と対話できる能力

スケジュール

第1回	前期の進め方・スケジュールの確認(詳細については時間中に指示あるいは相談する)
第2回	テキスト輪読(戦略論)+ケース研究(戦略論のフレームワークを用いた事例分析)(1班)
第3回	テキスト輪読(戦略論)+ケース研究(戦略論のフレームワークを用いた事例分析)(2班)
第4回	テキスト輪読(戦略論)+ケース研究(戦略論のフレームワークを用いた事例分析)(3班)
第5回	テキスト輪読(戦略論)+ケース研究(戦略論のフレームワークを用いた事例分析)(4班)
第6回	テキスト輪読(組織論)+ケース研究(組織論のフレームワークを用いた事例分析)(1班)
第7回	テキスト輪読(組織論)+ケース研究(組織論のフレームワークを用いた事例分析)(2班)
第8回	テキスト輪読(組織論)+ケース研究(組織論のフレームワークを用いた事例分析)(3班)
第9回	テキスト輪読(組織論)+ケース研究(組織論のフレームワークを用いた事例分析)(4班)
第10回	テキスト輪読(イノベーション論)+ケース研究(サービス業事例の競争力分析)(1班)
第11回	テキスト輪読(イノベーション論)+ケース研究(サービス業事例の競争力分析)(2班)
第12回	テキスト輪読(イノベーション論)+ケース研究(サービス業事例の競争力分析)(3班)
第13回	テキスト輪読(イノベーション論)+ケース研究(サービス業事例の競争力分析)(4班)
第14回	夏期休暇中の活動に関する確認・相談・準備
第15回	前期のまとめ
第16回	後期の進め方・スケジュールの確認(詳細については時間中に指示あるいは相談する)
第17回	テキスト輪読(ものづくり論)+ケース研究(製造業事例への競争力分析)(1班)
第18回	テキスト輪読(ものづくり論)+ケース研究(製造業事例への競争力分析)(2班)
第19回	テキスト輪読(ものづくり論)+ケース研究(製造業事例への競争力分析)(3班)
第20回	テキスト輪読(ものづくり論)+ケース研究(製造業事例への競争力分析)(4班)
第21回	テキスト輪読(国際経営論)+ケース研究(海外進出企業の分析)(1班)
第22回	テキスト輪読(国際経営論)+ケース研究(海外進出企業の分析)(2班)
第23回	テキスト輪読(国際経営論)+ケース研究(海外進出企業の分析)(3班)
第24回	テキスト輪読(国際経営論)+ケース研究(海外進出企業の分析)(4班)
第25回	テキスト輪読(SCM論)+ケース研究(SCM分析)(1班)
第26回	テキスト輪読(SCM論)+ケース研究(SCM分析)(2班)
第27回	テキスト輪読(SCM論)+ケース研究(SCM分析)(3班)
第28回	テキスト輪読(SCM論)+ケース研究(SCM分析)(4班)
第29回	春期休暇中の活動に関する確認・相談・準備
第30回	後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 輪読するテキストは、初回に指示する。
ケース研究は、企業訪問などによる1次情報または2次情報(ビジネス誌)を利用する。

参考書 E:ゴールドラット(2001)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社
「日経ビジネス」・「週刊東洋経済」・「週刊ダイヤモンド」など

授業外での学習

上記のゼミでの発表準備は少人数のグループで行う。発表前日までに、発表資料を提出すること。
企業訪問は随時行う。長期休暇中には地方、海外の可能性もある。インゼミなどを行う可能性もある。
これらの準備にあたっては、ゼミ時間内外においてゼミ生が能動的に行動することが求められる。

評価方法

普段の発表の内容と質、議論への参加の状況や、出席などを総合的に評価する。

履修上の注意

能動的な参加、柔軟な思考、担当教員や他のゼミ生など周囲とのコミュニケーションが重要である。
企業訪問などの課外活動は、教員とゼミ生で相談しながら行う。
なお、これまで、ゼミ活動において能動的に行動しようとする学生の方が、結果的に本人の満足度が高い進路に進んでいる。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 向井 悠一郎 (ムカイ ユウイチロウ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

自ら設定する問題意識に対して、長期間にわたって向き合うことを通じて、粘り強く考察し、主張する能力を身につける。

達成目標

基礎演習、演習Iで身に付けた能力や知見を活用し、問題意識、先行研究のレビュー、事例研究/分析、結論・示唆のある首尾一貫した卒業論文を完成させる。

スケジュール

- 第1回 本年度の進め方・スケジュールの確認
- 第2回 卒業論文の書き方・構成・書式に関するレクチャー
- 第3回 問題意識の導出・討議 (1)
- 第4回 問題意識の導出・討議 (2)
- 第5回 問題意識の導出・討議 (3)
- 第6回 問題意識の導出・討議 (4)
- 第7回 問題意識に対応した先行研究のレビューの方法・討議 (1)
- 第8回 問題意識に対応した先行研究のレビューの方法・討議 (2)
- 第9回 問題意識に対応した先行研究のレビューの方法・討議 (3)
- 第10回 問題意識に対応した先行研究のレビューの方法・討議 (4)
- 第11回 事例選択の方法・討議 (1)
- 第12回 事例選択の方法・討議 (2)
- 第13回 事例選択の方法・討議 (3)
- 第14回 事例選択の方法・討議 (4)
- 第15回 卒論執筆にあたっての相談
- 第16回 事例研究・分析の方法・結論に関する討議 (1)
- 第17回 事例研究・分析の方法・結論に関する討議 (2)
- 第18回 事例研究・分析の方法・結論に関する討議 (3)
- 第19回 事例研究・分析の方法・結論に関する討議 (4)
- 第20回 卒論中間発表 (1)
- 第21回 卒論中間発表 (2)
- 第22回 卒論中間発表 (3)
- 第23回 卒論中間発表 (4)
- 第24回 初稿提出および内容・構成・書式などの確認・修正 (1・2)
- 第25回 初稿提出および内容・構成・書式などの確認・修正 (3・4)
- 第26回 完成稿提出および確認・修正
- 第27回 卒論発表会 (1)
- 第28回 卒論発表会 (2)
- 第29回 卒論発表会 (3)
- 第30回 卒論発表会 (4)

教科書・参考文献

教科書 セミ生と相談の上、活動内容を変更する可能性がある。

参考書 各自に随時紹介する。

授業外での学習

ゼミの時間は、卒論の作業内容を発表、検討する時間とする。各自、発表予定に合わせて作業を進めること。発表資料は前日中に送ってこること。発表当日その場でデータで渡すのは不可。教員が研究室で卒論指導を行う。加えて内容、構成、書式などに関して、ゼミ生相互で議論し合うことが求められる。

評価方法

発表内容・態度、議論への参加の状況、卒業論文の質、出席状況を評価する。

履修上の注意

形式、内容両面で、卒論と認めうる水準に達していれば単位を認定する。出席数や論文の文字数のみで単位認定の可否が決まるわけではない。各自、発表予定に合わせて作業を進めることが求められる。発表資料は前日中に提出すること。企業訪問などの課外活動は、教員とゼミ生で相談しながら行う。ゼミ全体での活動や、相手先企業など外部への影響、他のゼミ生の活動にも支障を来すので、無断欠席は不可とする。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 藻利 衣恵 (モウリ キヌエ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本講義では、基礎演習で学んだ財務会計に関する知識を前提として、専門知識をより深化させます。なお、財務会計・IIおよび経営分析の単位を取得または並行して履修していることを前提とします。ゼミは通常の授業とは異なり学生が主体となって作り上げていくものです。そのため、原則、毎回のテーマについて発表担当を決め、(基礎演習ではWordでしたが、)PowerPointで作成した資料を事前に用意して発表を行っていただきます。そのうえで、グループごとに質問を考えてもらい討論を行う形式で進めていきます。演習科目の履修には、通常の授業以上に主体的に学ぶ意欲が求められます。また、財務会計に関する知識のみならず、プレゼンテーション・質疑応答の技術等、社会に出れば必須となる技能の向上も図っていきます。

達成目標

- ①財務会計に関する知識を深化させ、企業分析に関する基本的な考え方を習得する。
- ②研究の基本的な方法(情報収集・分析能力や情報伝達能力)を学ぶ。
- ③情報伝達手法としてプレゼンテーションやそれに対する質問の技法を身に付ける。

スケジュール

- 第1回 テキストの輪読(1) - 安全性の分析
- 第2回 テキストの輪読(2)とケーススタディ - 収益性の分析
- 第3回 テキストの輪読(3)とケーススタディ - 効率性の分析
- 第4回 テキストの輪読(4) - デュポン・システム
- 第5回 テキストの輪読(5) - 損益分岐点分析
- 第6回 テキストの輪読(6) - キャッシュフロー分析
- 第7回 テキストの輪読(7) - データの入手方法
- 第8回 テキストの輪読(8) - 企業会計の役割
- 第9回 テキストの輪読(9) - 企業会計の仕組み
- 第10回 テキストの輪読(10) - 資本と利益の情報
- 第11回 テキストの輪読(11) - 収益認識のルール
- 第12回 テキストの輪読(12) - 費用の認識と配分
- 第13回 テキストの輪読(13) - 負債の認識と測定
- 第14回 テキストの輪読(14) - 純資産の開示と規制
- 第15回 テキストの輪読(15) - 日本の会計制度改革
- 第16回 グループ研究(1)とテキストの輪読(16) - 企業価値の測定
- 第17回 グループ研究(2)とテキストの輪読(17) - M&Aの分析
- 第18回 グループ研究(3)
- 第19回 グループ研究(4)とテキストの輪読(18) - 多国籍企業の出現と国際会計
- 第20回 グループ研究(5)とテキストの輪読(19) - 会計基準の国際的調和化と限界
- 第21回 グループ研究(6)とテキストの輪読(20) - 会計基準の国際的収斂の動向
- 第22回 グループ研究(7)とテキストの輪読(21) - IFRSの基本的特徴
- 第23回 グループ研究(8)とテキストの輪読(22) - 財務諸表の表示
- 第24回 グループ研究(9)
- 第25回 グループ研究(10)
- 第26回 グループ研究のとりまとめ(1)
- 第27回 グループ研究のとりまとめ(2)
- 第28回 グループ研究のとりまとめ(3)
- 第29回 グループ研究のとりまとめ(4)
- 第30回 グループ研究のとりまとめ(5)

教科書・参考文献

- 教科書 「前期」松本勝弘他『新訂版 財務諸表分析入門-Excelでわかる企業力』Bkc/斎藤静樹『企業会計入門-考えて学ぶ』有斐閣
- 参考書 <http://www.asb.or.jp> (企業会計基準委員会)
<http://www.ifrs.org/> (IFRS Foundation)

授業外での学習

- ・授業で扱う指定した教科書の予習・復習(各1.5時間)
- ・発表準備(ゼミ内での発表:5時間程度、学外での発表:10時間~)

評価方法

平常点 100%
(試験は行わず[予定]、発表内容、質疑応答や、資料の出来等を勘案して評価します。)

履修上の注意

遅刻、欠席や、課題の未提出はしないようにしてください。(なお、遅刻や急病・身内の不幸等やむを得ない場合を除く。)
まだ履修していない学生は、会計学I・II、財務会計I・IIのほか、経営分析、企業財務論I・II(経営戦略論)等を履修することが望まれます。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 藻利 衣恵 (モウリ キヌエ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

「基礎演習」および「演習I」で習得した専門知識、情報収集・分析能力や、情報伝達能力を総動員させて、一人一人が研究を行い、その成果をまとめる。

達成目標

- ①大学卒業後、一人でも勉学・研究が行えるよう、演習Iで習得した研究の手法を一人で行う。
- ②より具体的には、専門知識、情報収集能力や、情報伝達能力を深化させる。
- ③最終的に、①②の成果として、卒業論文をまとめる。

スケジュール

回数	内容	講義
第1回	オリエンテーション	その1(1) - 研究テーマとリサーチ方法の決定
第2回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その1(2) - 研究テーマとリサーチ方法の決定
第3回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その2(1) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ①
第4回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その2(2) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ①
第5回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その2(3) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ①
第6回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その2(4) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ①
第7回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その3(1) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ②
第8回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その3(2) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ②
第9回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その3(3) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ②
第10回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その3(4) - 先行研究の整理・分析 (批判的分析) ②
第11回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その4(1) - 目次と分析方法の決定
第12回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その4(2) - 目次と分析方法の決定
第13回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その4(3) - 目次と分析方法の決定
第14回	卒業論文進捗度に関する報告と討議	その4(4) - 目次と分析方法の決定
第15回	卒業論文中間発表と討議	その1(1) - 第1次提出前の最終討議
第16回	卒業論文中間発表と討議	その1(2) - 第1次提出前の最終討議
第17回	卒業論文中間発表と討議	その1(3) - 第1次提出前の最終討議
第18回	卒業論文中間発表と討議	その1(4) - 第1次提出前の最終討議
第19回	卒業論文第1次提出と討議	その2(1) - 第1次提出に基づく論文の加筆・修正
第20回	卒業論文中間発表と討議	その2(2) - 第1次提出に基づく論文の加筆・修正
第21回	卒業論文中間発表と討議	その2(3) - 第1次提出に基づく論文の加筆・修正
第22回	卒業論文中間発表と討議	その2(4) - 第1次提出に基づく論文の加筆・修正
第23回	卒業論文中間発表と討議	その3(1) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第24回	卒業論文中間発表と討議	その3(2) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第25回	卒業論文中間発表と討議	その3(3) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第26回	卒業論文中間発表と討議	その3(4) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第27回	卒業論文中間発表と討議	その4(1) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第28回	卒業論文中間発表と討議	その4(2) - 第1次提出に基づく論文の再修正
第29回	最終提出前の執筆相談・指導	
第30回	卒業論文最終提出	(体裁等を整えて論文集にまとめた上で、後日、卒論発表会を行います。)

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。
(ただし、ゼミ生との話し合いにより輪読を行う場合があります。)

参考書 <http://www.asb.or.jp/> (企業会計基準委員会)
<http://www.ifrs.org/> (IFRS Foundation)

授業外での学習

- ・授業で扱う指定した教科書の予習・復習 (各1.5時間)
- ・発表準備 (ゼミ内での発表: 5時間程度)
- ・卒業論文執筆: 100時間～

評価方法

平常点 100%
(試験は行わず、発表内容、質疑応答、資料や卒業論文等の途中経過・出来を勘案して評価します。)

履修上の注意

遅刻、欠席や、課題の未提出はしないようにしてください。(なお、急病や身内の不幸等、やむを得ない場合を除く。)
また、卒業論文のテーマは特に指定していませんが、他のメンバーの卒論の内容等を議論するためには、会计学I・II、財務会計I・IIのほか、経営分析、企業財務論I・II等を履修することが望まれます。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 矢野 修一 (ヤノ シュウイチ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済学をはじめ社会科学の基本的な考え方を習得するとともに、グローバルゼッションのもたらす諸問題を様々な角度から研究していく。TOEIC受験を推奨・支援（スコアが640点を超えた場合、ゼミ基金より受験料をキャッシュバック）しつつ、また英文テキストを用いて輪読を行い語学力の向上を図る。他大学との合同ゼミ・ディベート等を実施し、プレゼンテーション能力も涵養する。企業のケーススタディも行い、その一環として本社を訪問しインタビューを行う。年度末には、研究の総まとめとして「進級論文」を執筆する。1年後に自信を持って進路選択の場に臨めるようになることが目標である。

達成目標

グローバルゼッションの多面的理解、アカデミック・リテラシーの向上、TOEIC自己ベストの更新。

スケジュール

- 第1回 Ravenhill, ed., Global Political Economy, Chap.1 The Study of Global Political Economy の輪読・討論
- 第2回 同上。
- 第3回 同上。
- 第4回 Chap.5 Evolution of Global Trade Regime の輪読・討論
- 第5回 同上。
- 第6回 同上。
- 第7回 同上。
- 第8回 Chap.6 Regional Trade Agreement の輪読・討論
- 第9回 同上。
- 第10回 同上。
- 第11回 同上。
- 第12回 Chap.7 Globalization of Production の輪読・討論
- 第13回 同上。
- 第14回 同上。
- 第15回 同上。
- 第16回 Chap.8 The Evolution of the International Monetary and Financial System の輪読・討論
- 第17回 同上。
- 第18回 同上。
- 第19回 同上。
- 第20回 Chap.9 The Political Economy of Global Financial Crises の輪読・討論。並行して合同ゼミの準備。
- 第21回 同上。
- 第22回 同上。
- 第23回 同上。
- 第24回 合同ゼミの準備（論文・パワーポイント作成、プレゼン練習、相手方ゼミの研究内容の検討など）。
- 第25回 同上。
- 第26回 同上。
- 第27回 同上。
- 第28回 同上。
- 第29回 合同ゼミのまとめ、および「進級論文」概要報告①
- 第30回 「進級論文」概要報告②、および年度末のまとめ

教科書・参考文献

教科書 John Ravenhill, ed., Global Political Economy, 5th ed., Oxford University Press, 2017. ほか。

参考書 矢野修一『可能性の政治経済学』法政大学出版局、2004年、エリック・ヘライナー著 / 矢野修一他訳『国家とグローバル金融』法政大学出版局、2015年ほか多数。

授業外での学習

正規のゼミの予習はもちろん、3年次5月のTOEIC受験準備、高大コラボゼミにおける企業研究、矢野ゼミ就活文庫（前期15冊分）の輪読、合同ゼミの準備など。

評価方法

受講状況を最重視し、ゼミ内での報告・発表・コメント等の内容、レポート・論文の提出状況等を勘案し、総合的に評価する。

履修上の注意

入ゼミ時の約束どおり、予習は必須である。準備もせずにゼミに臨んでも得られるものは少ない。「矢野ゼミの課題はノルマではなく、チャンス」という言葉の意味をかみしめつつ、ゼミでの研究に打ち込んでほしい。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 矢野 修一 (ヤノ シュウイチ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

卒業論文集『経済学研究年報』第28号を印刷・発刊すべく、各自が自らの問題意識に基づき、卒業論文を仕上げるのが目的である。また、演習IIに引き続き、TOEIC受験を推奨・支援する（スコアが640点を超えた場合、ゼミ基金より受験料をキャッシュバック）。前期は課題テキストの輪読を行うが、年度末には、ゼミに在籍し「同じ釜の飯」を食った証、人生の記念碑としての卒業論文を書き上げてほしい。

達成目標

卒業論文集『経済学研究年報』第28号の発刊。TOEIC自己ベストの更新。

スケジュール

- 第1回 マーク・マゾワ『国際協調の先駆者たち』プロローグ、第1章の輪読・討論。
- 第2回 同上、第2章の輪読・討論。
- 第3回 同上、第3章の輪読・討論。
- 第4回 同上、第4章の輪読・討論。
- 第5回 同上、第5章の輪読・討論。
- 第6回 同上、第6章の輪読・討論。
- 第7回 同上、第7章の輪読・討論。
- 第8回 同上、第8章の輪読・討論。
- 第9回 同上、第9章の輪読・討論。
- 第10回 同上、第10章の輪読・討論。
- 第11回 同上、第11章の輪読・討論。
- 第12回 同上、第12章の輪読・討論。
- 第13回 同上、第13章の輪読・討論。
- 第14回 同上、第14章の輪読・討論。
- 第15回 卒業論文「論題」報告および論文書式・形式面の確認。
- 第16回 卒業論文「概要報告」（論題・問題意識・章立て・参考文献・予想される結論など）①：3名
- 第17回 概要報告②：3名
- 第18回 概要報告③：3名
- 第19回 概要報告④：3名
- 第20回 概要報告⑤：4名
- 第21回 卒業論文「中間報告」（執筆途中の卒業論文について「概要報告」と関連づけ進捗状況とともに報告）①
- 第22回 中間報告②
- 第23回 中間報告③
- 第24回 中間報告④
- 第25回 中間報告⑤
- 第26回 卒業論文「最終報告」（完成間近の卒論の形式・内容について最終チェック）①
- 第27回 最終報告②
- 第28回 最終報告③
- 第29回 最終報告④
- 第30回 卒業論文報告会：2年生（28期生）・3年生（27期生）を交え、卒業論文の内容報告：全員

教科書・参考文献

- 教科書 前期に輪読するテキストは、マーク・マゾワ『国際協調の先駆者たち—理想と現実の200年』（NTT出版、2015年）を予定している。
- 参考書 ゼミ開講後、指示する。

授業外での学習

卒業研究に向けた関連文献の渉猟・読破。

評価方法

受講状況、ゼミ内での報告・発表・コメント等の内容、レポート・論文等の提出状況等を勘案し、総合的に評価する。

履修上の注意

無断欠席は厳禁である。就職活動等で欠席の場合、メール等で必ず連絡すること。「矢野ゼミの課題はノルマではなく、チャンス」という言葉の意味をかみしめつつ、ゼミでの研究、卒業論文に打ち込んでほしい。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 山崎 薫里 (ヤマザキ カオリ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

社会の中で数学がどのように用いられているかを正しく理解し、他の人に分かりやすくかつ論理的に説明することを目指します。

達成目標

1. 数学に関するテーマを見つけ、卒論をまとめるための準備を始める。
2. 金融に使われる数学、人口動態シミュレーション、マルコフ連鎖モデル等のテーマについて理解を深める。
3. 他のゼミ生にわかってもらえるような発表準備を行い、ゼミにおける討論を通じ研究テーマの理解を深める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、グループワークの打ち合わせ
- 第2回 グループワーク (金融に使われる数学、人口動態シミュレーション、等)
- 第3回 グループワーク (内容の決定・分担)
- 第4回 グループワーク (発表打ち合わせ・グループ内討論)
- 第5回 グループ発表と討論1
- 第6回 グループ発表と討論2
- 第7回 グループ課題発表
- 第8回 個人発表1
- 第9回 個人発表2
- 第10回 個人発表3
- 第11回 個人発表4
- 第12回 討論と課題1
- 第13回 討論と課題2
- 第14回 課題発表1
- 第15回 課題発表2
- 第16回 グループワークのテーマ決定と打ち合わせ
- 第17回 グループワーク1 (内容の確認、修正)
- 第18回 グループワーク2 (内容の確認、修正)
- 第19回 グループワーク3 (発表打ち合わせ・グループ内討論)
- 第20回 グループ発表、質疑応答、討論1
- 第21回 グループ発表、質疑応答、討論2
- 第22回 グループ課題発表
- 第23回 卒論計画発表1
- 第24回 卒論計画発表2
- 第25回 卒論計画発表3
- 第26回 卒論計画発表4
- 第27回 討論と課題 (ゼミ生からのコメント)
- 第28回 討論と課題 (コメントへの対応)
- 第29回 卒論計画 (修正) 発表1
- 第30回 卒論計画 (修正) 発表2

教科書・参考文献

教科書 イアン・ブラットリー他著「社会の中の数理」九州大学出版会。他、授業中に指定します。

参考書 具体的なテーマに即して、適宜、授業中に紹介します。

授業外での学習

発表準備において、わかった箇所とわからなかった箇所をはっきりさせておくこと。限られた時間で要点をつかんだ発表ができるように練習すること。また、発表後、もらった意見等を踏まえ学習内容の定着をはかること。

評価方法

日常の発表50%、討論・提出物50%

履修上の注意

休まないこと。就職活動や体調不良でやむを得ず休む時には、必ず連絡すること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 山崎 薫里 (ヤマザキ カオリ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

「数学」、「数学が使われている理論・現象・問題」等の中から、各自の研究テーマを見つける。文献の精読、わかりやすい説明、具体例、ゼミ生との討論等を通じて理解を深め、卒論を製作する。

達成目標

1. 卒論のテーマを見つける。
2. 発表や討論を通して、テーマについて理解を深め、卒業論文を作成する。
3. 他のゼミ生にわかってもらえるような発表準備を行い、ゼミにおける討論を通じ内容の修正を図る。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (卒論の準備、スケジュールの確認)
- 第2回 卒論の準備状況発表 (問題意識の明確化)
- 第3回 卒論の準備状況発表 (論文の構成、文献の紹介等)
- 第4回 卒論内容の討論1
- 第5回 卒論内容の討論2
- 第6回 卒論内容の討論3
- 第7回 卒論内容の討論4
- 第8回 中間発表1 (発表、質疑応答)
- 第9回 中間発表2 (発表、質疑応答)
- 第10回 中間発表3 (発表、質疑応答)
- 第11回 中間発表4 (発表、質疑応答)
- 第12回 課題の検討1 (ゼミ生からのコメント、修正、課題の確認)
- 第13回 課題の検討2 (ゼミ生からのコメント、修正、課題の確認)
- 第14回 課題の検討3 (個別指導)
- 第15回 課題の検討4 (個別指導)
- 第16回 卒論の書き方1 (参考文献、脚注、図表、等)
- 第17回 卒論の書き方2 (個別指導、ゼミ生からのコメント)
- 第18回 討論1
- 第19回 討論2
- 第20回 討論3
- 第21回 討論4
- 第22回 討論5
- 第23回 卒論発表1 (発表、質疑応答)
- 第24回 卒論発表2 (発表、質疑応答)
- 第25回 卒論発表3 (発表、質疑応答)
- 第26回 卒論発表4 (発表、質疑応答)
- 第27回 討論と課題 (ゼミ生からのコメント)
- 第28回 討論と課題 (コメントへの対応)
- 第29回 卒論 (修正、加筆) 発表 1
- 第30回 卒論 (修正、加筆) 発表 2

教科書・参考文献

教科書 必要に応じて、授業中に適宜、指定します。

参考書 必要に応じて、授業中に適宜、紹介します。

授業外での学習

発表の準備では、疑問点を明確にし、ゼミ生の意見を聞きたい箇所をはっきりさせておくこと。発表後は、もらった意見や質疑をもとに、研究内容の確認や修正につなげること。

評価方法

日常の発表・討論50%、卒論等の提出物50%

履修上の注意

休まないこと。就職活動や体調不良でやむを得ず休む時には、必ず連絡すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	山本 芳弘 (ヤマモト ヨシヒロ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

地域の環境問題についてグループで調査研究する。
研究の進め方を習得する。

達成目標

地域の環境問題について課題設定ができる。
課題解決のための調査研究ができる。
研究成果を効果的に発表し議論ができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地域環境問題について事前調査
- 第3回 地域環境問題についての発表 (第1グループ)
- 第4回 地域環境問題についての発表 (第2グループ)
- 第5回 地域環境問題についての講演を聴講するための事前学習
- 第6回 地域環境問題についての講演を聴講 (外部講師)
- 第7回 地域環境問題研究の進め方とスケジュールの確認
- 第8回 課題設定① (文献調査)
- 第9回 課題設定② (情報収集)
- 第10回 研究課題の検討① (第1グループ)
- 第11回 研究課題の検討② (第2グループ)
- 第12回 研究方法の決め方について説明
- 第13回 研究方法の検討① (第1グループ)
- 第14回 研究方法の検討② (第2グループ)
- 第15回 調査研究スケジュールの確認
- 第16回 調査研究の進捗状況について報告① (第1グループ)
- 第17回 調査研究の進捗状況について報告② (第2グループ)
- 第18回 研究スケジュールの確認
- 第19回 研究成果の中間報告① (第1グループ)
- 第20回 研究成果の中間報告② (第2グループ)
- 第21回 研究成果プレゼンテーションの方法について説明
- 第22回 研究成果プレゼンテーションの検討① (第1グループ)
- 第23回 研究成果プレゼンテーションの検討② (第2グループ)
- 第24回 研究成果プレゼンテーションの修正
- 第25回 研究成果プレゼンテーションの最終検討① (第1グループ)
- 第26回 研究成果プレゼンテーションの最終検討② (第2グループ)
- 第27回 研究成果報告会の準備とリハーサル
- 第28回 研究成果報告会
- 第29回 地域環境問題調査研究についてのまとめ
- 第30回 卒業研究の進め方について説明

教科書・参考文献

教科書 使用しない。

参考書 研究課題や研究方法に応じて都度紹介する。

授業外での学習

スケジュールにそってグループ毎に調査研究を進めておく。

評価方法

グループ研究への積極的にかかわり：50%、研究内容：40%、ディスカッションへの積極的な参加：10%

履修上の注意

主体的にグループ活動に取り組むこと。グループで責任をもって研究の進捗管理をすること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 山本 芳弘 (ヤマモト ヨシヒロ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

環境問題について自分で研究テーマを決め調査研究する。研究の進捗状況を効果的に発表する。
研究テーマに対する成果を導き出す。

達成目標

全体のスケジュールにそって研究の進捗状況を発表する。
卒業論文を仕上げ、発表会で卒業研究を口頭発表する。

スケジュール

- 第1回 卒業研究の進め方とスケジュールの確認
- 第2回 研究テーマの設定方法について説明
- 第3回 研究テーマの発表と検討① (第1班)
- 第4回 研究テーマの発表と検討② (第2班)
- 第5回 研究テーマの発表と検討③ (第3班)
- 第6回 研究テーマの発表と検討④ (第4班)
- 第7回 研究テーマの発表と検討⑤ (第5班)
- 第8回 研究方法について説明
- 第9回 研究方法の発表と検討① (第1班)
- 第10回 研究方法の発表と検討② (第2班)
- 第11回 研究方法の発表と検討③ (第3班)
- 第12回 研究方法の発表と検討④ (第4班)
- 第13回 研究方法の発表と検討⑤ (第5班)
- 第14回 研究結果の導き方について説明
- 第15回 スケジュールの確認
- 第16回 研究中間報告① (第1班)
- 第17回 研究中間報告② (第2班)
- 第18回 研究中間報告③ (第3班)
- 第19回 研究中間報告④ (第4班)
- 第20回 研究中間報告⑤ (第5班)
- 第21回 研究のまとめ方について説明
- 第22回 研究全体の発表と検討① (第1、2班)
- 第23回 研究全体の発表と検討② (第3、4班)
- 第24回 研究全体の発表と検討③ (第5班)、まとめ
- 第25回 卒業論文の作成方法について説明
- 第26回 卒業論文の修正 (書き方)
- 第27回 卒業論文の修正 (内容)
- 第28回 卒業研究発表会について説明
- 第29回 卒業研究発表会プレゼンテーションの準備とリハーサル
- 第30回 卒業研究発表会

教科書・参考文献

教科書 使用しない。

参考書 研究テーマや研究方法に応じて都度紹介する。

授業外での学習

スケジュールにそって調査研究を進めておく。

評価方法

卒業研究の取り組み姿勢：40%、卒業論文と卒業研究発表会の内容：40%、議論への積極的参加：20%

履修上の注意

自分で考える。単なる情報収集で終わってはならない。
自分で研究スケジュールを管理する。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
教授 梅島 修 (ウメジマ オサム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

今、国際貿易は、一方では自国優先主義、他方では国家資本主義が覇を競い、GATT・世界貿易機関 (WTO) を問うて築き上げてきたルールに従った秩序が危機に瀕している。
本演習では、国際貿易体制の今の動きの本質を議論して理解を深めるすると共に、これまでWTOのルールに基づき肅々と議論され、解決してきたWTO紛争解決機関のパネル報告書、上級委員会報告 (英文) を講読して、WTO紛争解決手続の歴史的な重要性を把握し、その仕組みを理解し、国際貿易の主要ルールについて理解を深める。
本演習は、自動車製造会社の法務部員として、米国ニューヨーク州及びワシントンDC弁護士として、また経済産業省通商政策局通商機構部通商交渉調整官として、国際貿易問題に35年以上携わってきた経験を基にした指導がなされる。

達成目標

前期では、WTO判例を全員で購読し、生の英語を学びつつ、WTOルールの基礎を学ぶ。
後期では、主なWTO判例を個人または数人のチームに割り当てて、当該判例について、その概要を報告することにより、WTOルールについてさらに深い理解を得ると共に、プレゼンテーション能力を養う。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション WTO協定の概要と本演習の進め方
- 第2回 WTO紛争解決制度の概要説明
- 第3回 WTO判例購読：日本-酒税事件 1
- 第4回 WTO判例購読：日本-酒税事件 2
- 第5回 WTO判例購読：日本-酒税事件 3
- 第6回 WTO判例購読：日本-酒税事件 4
- 第7回 WTO判例購読：トルコ - 繊維事件 1
- 第8回 WTO判例購読：トルコ - 繊維事件 2
- 第9回 WTO判例購読：トルコ - 繊維事件 3
- 第10回 WTO判例購読：トルコ - 繊維事件 4
- 第11回 WTO判例購読：EC-ベツドリネン事件 1
- 第12回 WTO判例購読：EC-ベツドリネン事件 2
- 第13回 WTO判例購読：EC-ベツドリネン事件 3
- 第14回 WTO判例購読：EC-ベツドリネン事件 4
- 第15回 前期のまとめ。後期担当割り当て
- 第16回 WTO判例報告 (グループ 1、第1回)、討議
- 第17回 WTO判例報告 (グループ 2、第1回)、討議
- 第18回 WTO判例報告 (グループ 3、第1回)、討議
- 第19回 WTO判例報告 (グループ 4、第1回)、討議
- 第20回 WTO判例報告 (グループ 5、第1回)、討議
- 第21回 WTO判例報告 (グループ 6、第1回)、討議
- 第22回 WTO判例報告 (グループ 7、第1回)、討議
- 第23回 WTO判例報告 (グループ 1、第2回)、討議
- 第24回 WTO判例報告 (グループ 2、第2回)、討議
- 第25回 WTO判例報告 (グループ 3、第2回)、討議
- 第26回 WTO判例報告 (グループ 4、第2回)、討議
- 第27回 WTO判例報告 (グループ 5、第2回)、討議
- 第28回 WTO判例報告 (グループ 6、第2回)、討議
- 第29回 WTO判例報告 (グループ 7、第2回)、討議
- 第30回 全体統括、討議。

教科書・参考文献

教科書 柳赫秀編『講義 国際経済法』東信堂 (2018)

参考書 松下満雄、清水章雄、中川淳司編『ケースブックWTO法』有斐閣 (2009)
経済産業省通商政策局編『不公正貿易報告書』

授業外での学習

事前に判例を読んでおくこと。
日本経済新聞等に目を通して、最新の国際経済法問題に注目し、その問題点について考察しておくこと。

評価方法

報告60%、演習での積極的参加40%

履修上の注意

学生諸君の議論への積極的参加を期待する。
このため、授業における積極的発言、討議参加を高く評価する。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 梅島 修 (ウメジマ オサム)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

1995年のWTO成立により、貿易摩擦をルールに則って解決する時代へと発展してきた。しかし、最近では、途上国の経済発展と共に、新たな貿易、新たな問題に対応することが難しくなり、国際経済ルールの創設の場は二国間・地域内の協定へと移っている。その一方で、世界最大のGDPを誇る国が一方的な措置を輸入に課するという自国第一主義により、国家貿易主義と評している世界第二位のGDPの国との問題を解決しようとしている。本演習では、このように変化する世界貿易問題の中から学生諸君各自の関心に従ってテーマを設定し、卒業論文を作成し、プレゼンテーションを行う。また、本演習では、自動車製造会社の法務部員として、米国ニューヨーク州及びワシントンDC弁護士として、また経済産業省通商政策局通商機構部通商交渉調整官として、国際貿易問題に35年以上携わってきた経験を基にした指導がなされる。

達成目標

卒業論文を完成させるとともに、そのプレゼンテーション能力を獲得する。
他者の発表について疑問点を掘り起こし、積極的に質問する能力を養う。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション 本演習の進め方、ゼミ論文のテーマの選定の進め方。
- 第2回 WTO・関税評価協定を読み解く。
- 第3回 WTO・セーフガード協定を読み解く。
- 第4回 WTO・アンチダンピング協定を読み解く。
- 第5回 WTO・補助金協定を読み解く。
- 第6回 WTO・サービス協定を読み解く。
- 第7回 自由貿易協定・物品貿易章を読み解く。
- 第8回 自由貿易協定・原産地規則章を読み解く。
- 第9回 自由貿易協定・原産地証明章を読み解く。
- 第10回 自由貿易協定・eコマース章を読み解く。
- 第11回 投資協定（米国BIT）を読み解く。
- 第12回 投資協定（EUカナダ）を読み解く。
- 第13回 投資紛争事例を読み解く。
- 第14回 投資紛争事例を読み解く。
- 第15回 前期のまとめ。後期発表順の決定。
- 第16回 卒業研究第1回中間報告1、討議
- 第17回 卒業研究第1回中間報告2、討議
- 第18回 卒業研究第1回中間報告3、討議
- 第19回 卒業研究第1回中間報告4、討議
- 第20回 卒業研究第1回中間報告5、討議
- 第21回 卒業研究第1回中間報告6、討議
- 第22回 卒業研究第2回中間報告1、討議
- 第23回 卒業研究第2回中間報告2、討議
- 第24回 卒業研究第2回中間報告3、討議
- 第25回 卒業研究第2回中間報告4、討議
- 第26回 卒業研究第2回中間報告5、討議
- 第27回 卒業研究第2回中間報告6、討議
- 第28回 卒業研究最終報告1
- 第29回 卒業研究最終報告2
- 第30回 卒業研究最終報告3

教科書・参考文献

教科書 柳赫秀編『講義 国際経済法』東信堂（2018）

参考書 松下満雄ほか編『ケースブックWTO法』有斐閣（2009）。
また、各自の卒業論文に向けた参考資料は、個別に相談する。

授業外での学習

卒業論文の完成に向けて、各自が資料収集し、執筆を進めること。

評価方法

卒業論文の内容50%、卒業論文のプレゼンテーション（中間報告、最終報告）30%、演習での積極的参加20%

履修上の注意

授業外での研究に時間を要することに留意する。演習へは、学生諸君の議論への積極的参加を期待する。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 黒崎 龍悟 (クロサキ リュウゴ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

この演習では、現代世界（特にアフリカ地域）を複眼的にとらえるために、政治・経済・文化・社会・生態環境・開発・歴史など多方面から対象にアプローチする視点（地域研究的視点）を養うことを目的とします。受講者の関心を勘案しながら関連文献を選定し、講読／輪読をおこないます。また、自文化を意識化することによって異文化をよりよく理解できるという認識を持つために、自文化理解のためのフィールドワークの実践も演習の目的とします。

達成目標

- ・ アフリカやその他の地域の現代的動向について学際的に理解する。
- ・ フィールドワークの意義や基礎的な手法について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスー演習の進め方について
第2回 文献講読／輪読①
第3回 文献講読／輪読②
第4回 文献講読／輪読③
第5回 文献講読／輪読④
第6回 文献講読／輪読⑤
第7回 文献講読／輪読⑥
第8回 小括①
第9回 文献講読／輪読⑦
第10回 文献講読／輪読⑧
第11回 文献講読／輪読⑨
第12回 文献講読／輪読⑩
第13回 文献講読／輪読⑪
第14回 文献講読／輪読⑫
第15回 小括②
第16回 フィールドワークとは①：歴史的展開
第17回 フィールドワークとは②：手法
第18回 フィールドワークとは③：1時間でフィールドワーク
第19回 テーマの探索①
第20回 テーマの探索②
第21回 フィールドワークの準備①
第22回 フィールドワークの準備②
第23回 フィールドワークの実施①
第24回 フィールドワークの実施②
第25回 フィールドワークのまとめ①
第26回 フィールドワークのまとめ②
第27回 フィールドワークの結果報告①
第28回 フィールドワークの結果報告②
第29回 フィールドワークの結果報告③
第30回 総括

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。講読／輪読の資料は参加学生と話し合ったうえで決めていきます。その他、適宜作成した資料を配布します。

参考書 太田 至 総編集 2014. 『アフリカ潜在力』シリーズ全5巻 京都大学学術出版会
FENICS編 『100万人のフィールドワーカーズ』シリーズ 古今書院

授業外での学習

演習IIに向けて、関連した最新情報（新聞記事、雑誌記事など）を収集・整理・蓄積していくことを推奨します

評価方法

受講状況50%・最終課題50%

履修上の注意

授業の内容や順序は、進行状況によって一部変更になる場合があります。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員 黒崎 龍悟 (クロサキ リュウゴ)
准教授
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

アフリカ、その他の世界の諸地域において生じている事象から関心あるものをテーマとして探し出し、授業内で関連文献の発表や討論をとおして最終課題の論文作成へとつなげていきます。複眼的な視点で物事を探究する総合的な能力を養います。

達成目標

- ・ アフリカやその他の諸地域の現代的動向を踏まえて取り組むべき論文テーマを抽出する。
- ・ 最終課題としての論文を作成する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスー演習の進め方について
- 第2回 文献発表①
- 第3回 文献発表②
- 第4回 文献発表③
- 第5回 文献発表④
- 第6回 文献発表⑤
- 第7回 文献発表⑥
- 第8回 論文テーマの発表①
- 第9回 文献発表⑦
- 第10回 文献発表⑧
- 第11回 文献発表⑨
- 第12回 文献発表⑩
- 第13回 文献発表⑪
- 第14回 文献発表⑫
- 第15回 論文テーマの発表②
- 第16回 論文作成に関するガイダンス
- 第17回 データ収集と整理①
- 第18回 データ収集と整理②
- 第19回 データの分析①
- 第20回 データの分析②
- 第21回 アウトラインの作成①
- 第22回 アウトラインの作成②
- 第23回 論文作成：経過報告①
- 第24回 論文作成：経過報告②
- 第25回 論文作成：経過報告③
- 第26回 論文作成：経過報告④
- 第27回 論文作成：経過報告⑤
- 第28回 論文作成：経過報告⑥
- 第29回 論文発表①
- 第30回 論文発表②

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。使用する資料は参加学生と話し合ったうえで決めていきます。その他、適宜作成した資料を配布します。

参考書 日本アフリカ学会編『アフリカ研究』、国際開発学会編『国際開発研究』ほか、地域研究や国際協力研究にかかわる学会が編集した学術雑誌掲載の各種論文

授業外での学習

最終課題の論文作成に向けて、関連情報の収集・整理・蓄積・分析が必要になります。

評価方法

受講状況50%
最終課題50%

履修上の注意

授業の内容や順序は、進行状況によって一部変更する場合があります。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 齋川 貴嗣 (サイカワ タカシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習では、国際関係を文化の視点から歴史的に分析する方法を学ぶ。特に、現代において顕著な現象となっており、国際移動と文化要素の国際移動について、代表的な研究論文、研究書を参照しながら、参加者それぞれが任意の事例を取り上げて検討し、現代国際社会の特質を理解することを目指す。具体的には、移民、難民、ディアスポラ、出稼ぎ、ワーキングホリデー、留学、国際交流など様々な形態のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・ホスト国や国際組織の関与、移動者・移動元・移動先の社会との関係や多文化共存のあり方などを考察対象とする。その際、国際関係が国家間関係から多様な主体によって重層的に構成されるグローバル関係へと構造的に変化を遂げつつあることを踏まえ、広い歴史的視野を備えた分析を参加者とともに試みる。

達成目標

卒業論文の執筆を視野に入れつつ、基本文献の講読を通じて、人と文化の国際移動に関する基礎的な知識を習得するとともに、参加者一人一人が関心あるテーマを見つけることを目標とする。

スケジュール

第1回	ガイダンス	
第2回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第1章)	
第3回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第2章)	
第4回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第3章)	
第5回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第4章)	
第6回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第5章)	
第7回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第6章)	
第8回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第7章)	
第9回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第8章)	
第10回	基礎文献の輪読 (例: 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年、第9章)	
第11回	卒業論文テーマ発表1-①	
第12回	卒業論文テーマ発表1-②	
第13回	卒業論文テーマ発表1-③	
第14回	卒業論文テーマ発表1-④	
第15回	まとめ	
第16回	ガイダンス	
第17回	基礎文献輪読	
第18回	基礎文献輪読	
第19回	基礎文献輪読	
第20回	論文作成のルール、書き方について	
第21回	論文作成のルール、書き方について	
第22回	卒業論文テーマ発表2-①	
第23回	卒業論文テーマ発表2-②	
第24回	卒業論文テーマ発表2-③	
第25回	卒業論文テーマ発表2-④	
第26回	卒業論文テーマ発表3-①	
第27回	卒業論文テーマ発表3-②	
第28回	卒業論文テーマ発表3-③	
第29回	卒業論文テーマ発表3-④	
第30回	まとめ	

教科書・参考文献

教科書 以下はあくまで例であり、実際に輪読する文献は参加者と相談の上決める。
平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。

参考書 授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

学内外の図書館、史料館などを活用すること。

評価方法

授業への取り組み、議論への貢献度で評価する。

履修上の注意

演習の特性上、毎回の出席は当然であり、積極的な参加が求められる。正当な理由なき欠席は認めない。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 齋川 貴嗣 (サイカワ タカシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習では、国際関係を文化の視点から歴史的に分析する方法を学ぶ。特に、現代において顕著な現象となっており、参加者それぞれが任意の事例を取り上げて検討し、現代国際社会の特質を理解することを目的とする。具体的には、移民、難民、ディアスポラ、出稼ぎ、ワーキングホリデー、留学、国際交流など様々な形態のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・ホスト国や国際組織の関与、移動者・移動元の社会との関係や多文化共存のあり方などを考察対象とする。その際、国際関係が国家間関係から多様な主体によって重層的に構成されるグローバル関係へと構造的に変化を遂げつつあることを踏まえ、広い歴史的視野を備えた分析を参加者とともに試みる。

達成目標

卒業論文に相当するゼミ論文を最終目標として、参加者一人一人が関心ある事例を調査、分析する。授業で研究報告を行い、全員で討論し、論文に仕上げていく。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文テーマ選択
- 第3回 卒業論文概要報告1-①
- 第4回 卒業論文概要報告1-②
- 第5回 卒業論文概要報告1-③
- 第6回 卒業論文概要報告1-④
- 第7回 卒業論文概要報告2-①
- 第8回 卒業論文概要報告2-②
- 第9回 卒業論文概要報告2-③
- 第10回 卒業論文概要報告2-④
- 第11回 卒業論文概要報告3-①
- 第12回 卒業論文概要報告3-②
- 第13回 卒業論文概要報告3-③
- 第14回 卒業論文概要報告3-④
- 第15回 まとめ
- 第16回 ガイダンス
- 第17回 研究発表①
- 第18回 研究発表②
- 第19回 研究発表③
- 第20回 研究発表④
- 第21回 研究中間発表①
- 第22回 研究中間発表②
- 第23回 研究中間発表③
- 第24回 研究中間発表④
- 第25回 研究最終報告①
- 第26回 研究最終報告②
- 第27回 研究最終報告③
- 第28回 研究最終報告④
- 第29回 卒業論文提出に向けた最終準備①
- 第30回 卒業論文提出に向けた最終準備②

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

学内外の図書館、史料館などを活用すること。

評価方法

授業への取り組みと卒業論文によって評価する。なお、評価は卒業論文の提出を必須とする。

履修上の注意

演習の特性上、毎回の出席は当然であり、積極的な参加が求められる。正当な理由なき欠席は認めない。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 佐藤 敦子 (サトウ アツコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

国際ビジネス研究、異文化マネジメント研究の分野における専門知識の取得を目指し、関連する論文や文献を輪読し、理解を深めます。その上で、国際ビジネスに関する諸問題や様々な事象について研究・分析を行います。

達成目標

(1) 国際ビジネス、異文化マネジメント分野の理解を深め、分析の視座を会得する。(2) プレゼンテーションスキルおよびロジカルシンキングの獲得と向上。

スケジュール

第1回 ガイダンス (演習の進め方)
第2回 論文輪読 (1)
第3回 論文輪読 (2)
第4回 論文輪読 (3)
第5回 論文輪読 (4)
第6回 論文輪読 (5)
第7回 論文輪読 (6)
第8回 グループ研究テーマの検討
第9回 グループ研究テーマの選定
第10回 プロジェクト作業
第11回 プロジェクト作業
第12回 中間発表
第13回 プロジェクト作業
第14回 研究発表会
第15回 前期のまとめ
第16回 ガイダンス (後期の進め方)
第17回 論文輪読 (1)
第18回 論文輪読 (2)
第19回 論文輪読 (3)
第20回 論文輪読 (4)
第21回 (個人) 研究テーマの検討と選定
第22回 プロジェクト作業
第23回 プロジェクト作業
第24回 中間発表
第25回 予備日
第26回 プロジェクト作業
第27回 プロジェクト作業
第28回 研究発表会
第29回 予備日
第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 開講後、指示します。

参考書 開講後、指示します。

授業外での学習

演習の時間におけるプロジェクト作業は、議論を行う場であるため、実際の作業や発表準備は時間外に行う必要があります。

評価方法

ゼミにおける発表内容 (輪読および研究発表) を考慮して行います。

履修上の注意

特に無し

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 佐藤 敦子 (サトウ アツコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

これまで取り組んで来た国際ビジネス全般に係る学習の集大成として、卒業論文を作成します。そのための研究テーマの選び方、研究手法、論文の書き方を理解し、その上で、個々の研究に関連する論文や文献の輪読を行い、論文作成に取り組めます。

達成目標

大学生活の集大成としての卒業論文の完成。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス (演習の進め方)
- 第2回 卒業研究テーマの選択と論文の書き方 (1)
- 第3回 卒業研究テーマの選択と論文の書き方 (2)
- 第4回 卒業研究テーマの選択と論文の書き方 (3)
- 第5回 卒業論文テーマの決定と論文執筆計画の確認
- 第6回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (1)
- 第7回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (2)
- 第8回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (3)
- 第9回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (4)
- 第10回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (5)
- 第11回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (6)
- 第12回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (7)
- 第13回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (8)
- 第14回 中間報告会 (1)
- 第15回 まとめ、今後の進め方の確認
- 第16回 ガイダンス (研究進捗の確認)
- 第17回 中間報告会 (2)
- 第18回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (1)
- 第19回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (2)
- 第20回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (3)
- 第21回 中間報告会 (3)
- 第22回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (4)
- 第23回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (5)
- 第24回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (6)
- 第25回 中間報告会 (4)
- 第26回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (7)
- 第27回 文献調査および各自テーマに則した論文輪読 (8)
- 第28回 最終報告会
- 第29回 予備日、論文提出
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 開講後、指示する。

参考書 開講後、指示する。

授業外での学習

卒業論文作成は授業外での調査、研究、執筆への取り組みが不可欠です。出来る限り、各自で努力して取り組んでください。

評価方法

ゼミでは発表内容、議論への参加貢献度、卒業論文の内容を考慮して評価します。

履修上の注意

特に無し

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	清水 さゆり (シミズ サユリ)	

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

国際ビジネスにかかわる多国籍企業は、国際生産活動を行い、貿易にかかわり、国際社会や受入国など環境の変化に影響を受け、進化していきます。単に受け身的に変わっていくのではなく、自らの能力を高めながら変容し、それが国際社会にも影響を与えています。多国籍企業だけでなく、中堅・中小企業も国際的な事業活動を展開しています。それら企業の姿を理解していくことがこの演習の目的です。

達成目標

変容する多国籍企業や中堅・中小企業の活動を理解するだけでなく、演習を通じて、参加してくれたメンバーがお互いにわかりあい、刺激しあい、新たな発見が次々とあればいいと思います。お互いにそのように心がけたいと思います。

スケジュール

第1回	演習I前期ガイダンス
第2～10回	輪読担当者報告とディスカッション
第11～14回	テーマ別ディスカッション
第15回	演習I前期まとめ
第16回	演習I後期ガイダンス
第17～25回	輪読担当者報告とディスカッション
第26～29回	テーマ別ディスカッション
第30回	演習I後期まとめ

教科書・参考文献

教科書 第1回の際に相談の上、論読書籍を決定する。

参考書

授業外での学習

演習の際だけでなく、新聞その他のメディア、そしてインターネットなどで補完しつつ多国籍企業の姿を理解してもらいたい。

評価方法

演習へのコミットメント（参加具合）等によって総合的に評価します。

履修上の注意

関連講義などの履修が望まれる。
また、時間割外の演習にかかわる活動（合同ゼミ等）への積極的な参加も必要です。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
教授	清水 さゆり (シミズ サユリ)	

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

国際経営論を中心に企業と経営について学び、卒業論文を作成する。

達成目標

国際ビジネス、企業経営に関する専門的な知識を学び、実際の企業行動を自ら分析する。
卒業論文のテーマを設定し、作成する。

スケジュール

第1回	ガイダンス (年間および前期の進め方)
第2～6回	卒業論文のテーマ設定と報告
第7～15回	卒業論文の中間報告 (1)
第16回	ガイダンス (後期の進め方)
第17～25回	卒業論文の中間報告 (2)
第26～30回	卒業論文発表

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

卒業論文作成のための資料収集および検討等を行う。

評価方法

演習 (授業) への出席と参加態度 (コミットメント)、卒業論文 (プロセスおよび成果) 等で評価します。

履修上の注意

演習やイベント等への積極的な参加およびそのための準備が求められます。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
准教授 土谷 岳史 (ツチヤ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期：国際関係論および政治学の文献を輪読しながら論文作成のための力をつける。特に文献を正確に読解する能力を身に着ける。
後期：卒業論文執筆に向けてゼミ生各自の興味関心のあるテーマを選び、先行研究についてまとめ、報告する。卒業論文の骨子を作り、期末論文を作成する。

達成目標

基本的知識を深め、自身で積極的に課題を見つけ、探究する能力を培う。卒業論文のテーマを見つける。

スケジュール

第1回 春休み課題の発表①
第2回 春休み課題の発表②
第3回 論文作成のための精読①
第4回 論文作成のための精読②
第5回 論文資料のための読解①
第6回 論文資料のための読解②
第7回 論文テーマ決定のための指導①
第8回 論文テーマ決定のための指導②
第9回 論文テーマ決定のための指導③
第10回 論文テーマに関する報告①
第11回 論文テーマに関する報告②
第12回 論文テーマに関する報告③
第13回 論文テーマに関する報告④
第14回 研究論文の探求①
第15回 研究論文の探求②
第16回 夏休み課題の発表①
第17回 夏休み課題の発表②
第18回 卒業論文テーマの発表①
第19回 卒業論文テーマの発表②
第20回 卒業論文テーマの発表③
第21回 卒業論文テーマの発表④
第22回 卒業論文骨子の発表①
第23回 卒業論文骨子の発表②
第24回 卒業論文骨子の発表③
第25回 卒業論文骨子の発表④
第26回 3年期末論文原稿の提出①
第27回 3年期末論文原稿の提出②
第28回 3年期末論文原稿の提出③
第29回 3年期末論文原稿の提出④
第30回 3年期末論文の最終確認と修正

教科書・参考文献

教科書 講義で指示する。

参考書 講義で指示する。

授業外での学習

輪読文献を精読してくること、報告者はレジュメおよびコメントを作成すること。

評価方法

受講状況・レポート・授業での報告・コメント・司会・発言等を総合的に考慮して評価する。

履修上の注意

無断での欠席・遅刻は厳禁。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

担当教員
准教授 土谷 岳史 (ツチヤ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

前期：国際関係論および政治学の文献を輪読しながら論文作成のための力をつける。特に文献を批判的に読み解く能力を身に着ける。
後期：卒業論文執筆に向けてゼミ生各自の興味関心のあるテーマを選び、先行研究についてまとめ、報告する。卒業論文を完成させる。

達成目標

卒業論文の完成へ向け、テーマを深め、執筆する。

スケジュール

第1回 春休み課題の発表①
第2回 春休み課題の発表②
第3回 論文作成のための精読①
第4回 論文作成のための精読②
第5回 論文資料のための読解①
第6回 論文資料のための読解②
第7回 論文テーマ決定のための指導①
第8回 論文テーマ決定のための指導②
第9回 論文テーマ決定のための指導③
第10回 論文テーマに関する報告①
第11回 論文テーマに関する報告②
第12回 論文テーマに関する報告③
第13回 論文テーマに関する報告④
第14回 研究論文の探求①
第15回 研究論文の探求②
第16回 夏休み課題の発表①
第17回 夏休み課題の発表②
第18回 卒業論文テーマの発表①
第19回 卒業論文テーマの発表②
第20回 卒業論文テーマの発表③
第21回 卒業論文テーマの発表④
第22回 卒業論文骨子の発表①
第23回 卒業論文骨子の発表②
第24回 卒業論文骨子の発表③
第25回 卒業論文骨子の発表④
第26回 卒業論文原稿の提出①
第27回 卒業論文原稿の提出②
第28回 卒業論文原稿の提出③
第29回 卒業論文原稿の提出④
第30回 卒業論文の最終確認と修正

教科書・参考文献

教科書 講義で指示する。

参考書 講義で指示する。

授業外での学習

輪読文献を精読してくること、報告者はレジュメおよびコメントを作成すること。

評価方法

受講状況・レポート・授業での報告・コメント・司会・発言等を総合的に考慮して評価する。

履修上の注意

無断での欠席・遅刻は厳禁。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
教授 野崎 謙二 (ノザキ ケンジ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済企画庁・内閣府及び在外公館での勤務実績を活かして、具体的な政策分析や政策立案の視点から演習を行います。具体的には、2015年末にASEAN経済共同体が発足したASEANを対象に進めます。域内関税の引き下げなど、人・モノ・サービスの移動の自由化がASEANを構成する各国経済にどのような影響が及んでいるでしょうか。3年次の演習では、ASEAN経済共同体が貿易や所得にどのような影響があるのか、文献によるサーベイに加え、可能な限りデータによる分析で総合的な検討を試みます。

達成目標

- (1) 文献のサーベイから論点を抽出することができるようになります。
- (2) 経済データによる分析方法を習得します。
- (3) プレゼンテーション能力を高めます。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：ゼミの進め方と使用する資料の説明
- 第2回 文献講読①
- 第3回 文献講読②
- 第4回 文献講読③
- 第5回 文献講読④
- 第6回 文献講読⑤
- 第7回 共通の論点と各国の課題の整理
- 第8回 担当国の調査①
- 第9回 担当国の調査②
- 第10回 第1次中間報告①
- 第11回 第1次中間報告②
- 第12回 第1次中間報告③
- 第13回 全体討論
- 第14回 データの収集方法の指導
- 第15回 前期のまとめと夏休みの課題の設定
- 第16回 夏休みの課題についての報告
- 第17回 データ分析の方法指導
- 第18回 データ分析①
- 第19回 データ分析②
- 第20回 データ分析③
- 第21回 分析結果の取りまとめ
- 第22回 第2次中間報告①
- 第23回 第2次中間報告②
- 第24回 第2次中間報告③
- 第25回 修正点の検討と作業
- 第26回 追加作業
- 第27回 レポート作成
- 第28回 最終報告①
- 第29回 最終報告②
- 第30回 卒業論文に向けた方向性の整理

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しません。

参考書 石川幸一他(2019)『アジアの経済統合と保護主義: 変わる通商秩序の構図』文眞堂など、演習の時間に適宜紹介します。

授業外での学習

ゼミの時間は、報告・討論が中心となります。必ず事前に報告資料を作成するようにしてください。また、討論等の中ではっきりしなかった点については、復習して自分で調べたり、教員や仲間と議論する習慣を身に付けましょう。

評価方法

ゼミへの参加態度(40%)及び最終レポートの内容(60%)により評価します。

履修上の注意

特にありません。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 野崎 謙二 (ノザキ ケンジ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済企画庁・内閣府及び在外公館での勤務実績を活かして、具体的な政策分析や政策立案の視点から演習を行います。演習Iで行ってきた作業から、自分の問題意識に基づき政策分析あるいは政策立案に資する研究を行います。それらの最終的な成果物として卒業論文にまとめます。

達成目標

- (1) これまでの研究成果を卒業論文という形に取りまとめます。
- (2) プレゼンテーション能力を高めます。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(作業スケジュールの確認)
- 第2回 論文執筆要領の指導
- 第3回 文献講読・論点整理①
- 第4回 文献講読・論点整理②
- 第5回 文献講読・論点整理③
- 第6回 資料・データ収集①
- 第7回 資料・データ収集②
- 第8回 データ分析①
- 第9回 データ分析②
- 第10回 データ分析③
- 第11回 データ分析④
- 第12回 分析結果の取りまとめ
- 第13回 卒業論文骨子作成
- 第14回 卒業論文骨子指導
- 第15回 ここまでのまとめと夏休みの課題の確認
- 第16回 夏休みの作業報告
- 第17回 卒業論文骨子作成
- 第18回 卒業論文骨子指導
- 第19回 卒業論文執筆指導①
- 第20回 卒業論文執筆指導②
- 第21回 卒業論文執筆指導③
- 第22回 中間報告①
- 第23回 中間報告②
- 第24回 共通する問題点の指導
- 第25回 卒業論文修正指導①
- 第26回 卒業論文修正指導②
- 第27回 卒業論文修正指導③
- 第28回 最終報告①
- 第29回 最終報告②
- 第30回 講評と今後の課題

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しません。

参考書 学生のテーマに応じて、随時指示します。

授業外での学習

ゼミの時間は、報告・討論が中心となります。必ず事前に報告資料を作成するようにしてください。また、討論等の中ではっきりしなかった点については、復習して自分で調べたり、教員や仲間と議論する習慣を身に付けましょう。

評価方法

ゼミへの参加態度(自身の報告内容や他のゼミ生の報告に対するコメントなど：40%)及び卒業論文の内容(60%)により評価します。

履修上の注意

卒業論文の提出期限の変更等により、スケジュールは変わる可能性があります。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員
教授 藤井 孝宗 (フジイ タカムネ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミナール形式で国際経済学やその分析に必要な各分野の専門知識を深く理解するとともに、自ら実際に国際経済学に関する諸問題に関し研究・分析を行い、論文執筆をめざす。前期は2年次に輪読した教科書の内容をより高度により深く理解するために多くの文献を読み、輪読を行う。また同時に、後期のグループ別自主研究に関するテーマ設定や参考文献調査を行う。後期は前期の内容をふまえて調査研究を行い、論文としてまとめ、他大学との研究報告会において発表を行う。

達成目標

国際貿易理論を確実に理解するとともに、グループ研究などにより自身でその応用に関する研究を行う。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション (講義の進め方の打ち合わせ)
- 第2回 関連文献の輪読1 (国内外の論文: 開講後指示)
- 第3回 関連文献の輪読2 (国内外の論文: 開講後指示)
- 第4回 関連文献の輪読3 (国内外の論文: 開講後指示)
- 第5回 関連文献の輪読4 (国内外の論文: 開講後指示)
- 第6回 研究テーマの検討・グループ分け (夏合宿及びインゼミ論文作成のため)
- 第7回 グループ分け・文献調査
- 第8回 テーマの決定・文献調査・資料調査
- 第9回 文献・資料調査
- 第10回 中間報告1
- 第11回 研究論文の作成・執筆1
- 第12回 研究論文の作成・執筆2
- 第13回 研究論文の作成・執筆3
- 第14回 中間報告2 (夏合宿で最終報告)
- 第15回 まとめ
- 第16回 インタロダクション (講義の進め方の打ち合わせ)
- 第17回 夏合宿での研究報告に関する講評・反省
- 第18回 夏合宿での批判・指摘を踏まえた研究のブラッシュアップ1: 資料など準備
- 第19回 夏合宿での批判・指摘を踏まえた研究のブラッシュアップ2: 論文改訂
- 第20回 夏合宿での批判・指摘を踏まえた研究のブラッシュアップ3: 論文改訂
- 第21回 中間報告1
- 第22回 研究論文の改良1 (中間報告での指摘を踏まえ)
- 第23回 研究論文の改良2 (中間報告での指摘を踏まえ)
- 第24回 研究論文の改良3 (中間報告での指摘を踏まえ)
- 第25回 中間報告2
- 第26回 インゼミ発表に関する準備: 当日の打ち合わせ
- 第27回 インゼミ発表に関する準備: 他大学ゼミの発表に対するコメント作成
- 第28回 インゼミ予行演習 (この週末あたりにインゼミ本番)
- 第29回 インゼミ発表の講評・反省
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に指定しない。教材については開講後別途支持する。

参考書 Paul R. Krugman, et al. (2017), "International Economics: Theory and Policy (11th edition)", Pearson; 石川城太他(2013)「国際経済学をつかむ (第2版)」有斐閣

授業外での学習

自主研究や論文執筆のためには授業外での調査、研究、実習などが不可欠です。後期のインゼミに向けてできる限り講義以外での努力を行ってください。

評価方法

平常点で評価する。

履修上の注意

合宿、工場見学、スタディツアー、インゼミ大会など、課外活動などは上記の講義スケジュールとは別に適宜挟まれる。また、最新の研究成果を講義に反映させたいので、取り扱う文献などは適宜変更する可能性がある。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 藤井 孝宗 (フジイ タカムネ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

1年半にわたるゼミ活動で、様々な文献輪読、インゼミ論文作成などを通じて国際経済学に関する研究、分析を行ってもらったが、4年次にはその集大成として、自身の研究を行い、卒業論文を作成してもらいたい。卒業論文を大学生生活4年間の勉学の成果として執筆することは、卒業後の社会人生活にとっても有益なものとなるはずである。本演習では、卒業論文執筆のための指導と、その参考となる文献の輪読を行う。

達成目標

これまでの1年半の演習における研究成果を生かして、自身独自の研究を完成させ、卒業論文を執筆する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション (講義の進め方の打ち合わせ)
- 第2回 卒業論文に関するガイダンス : 諸手続及び論文の書き方の説明
- 第3回 卒業論文作成のアドバイス (論文の書き方、フォーマットなどに関する講義)
- 第4回 各自の興味をもとに文献調査、卒業論文テーマ検討
- 第5回 各自の興味に関連する文献の輪読・発表 1
- 第6回 各自の興味に関連する文献の輪読・発表 2
- 第7回 各自の興味に関連する文献の輪読・発表 3
- 第8回 各自の興味に関連する文献の輪読・発表 4
- 第9回 各自の研究内容に関する資料調査・文献研究 1
- 第10回 各自の研究内容に関する資料調査・文献研究 2
- 第11回 各自の研究内容に関する資料調査・文献研究 3
- 第12回 卒業論文テーマ検討・アウトライン作成
- 第13回 卒業論文テーマ検討・アウトライン作成
- 第14回 卒業論文テーマ・アウトライン提出
- 第15回 まとめ
- 第16回 インタロダクション (講義の進め方)
- 第17回 卒業論文執筆要領の説明 (前期も行っているが再度行う)、スケジュールリング
- 第18回 第1回中間報告
- 第19回 第1回中間報告
- 第20回 第1回中間報告
- 第21回 第2回中間報告
- 第22回 第2回中間報告
- 第23回 第2回中間報告
- 第24回 第3回中間報告
- 第25回 第3回中間報告
- 第26回 第3回中間報告
- 第27回 最終報告・卒業論文原稿提出
- 第28回 卒業論文原稿返却・修正指示
- 第29回 修正指示を元に各自卒業論文修正
- 第30回 再提出・まとめ

教科書・参考文献

教科書 開講後指示する。

参考書 開講後、個々人の研究内容に合わせ適宜指示する。

授業外での学習

卒業論文作成を行うためには講義時間内での学習のみでは当然不十分である。講義時間外にも参考文献の調査、データ分析、現地調査などを適宜行ってもらいたい。

評価方法

ゼミに対する貢献度 (発現頻度、内容や発表内容) および卒業論文の完成度により評価する。

履修上の注意

当然のことだが、必ず卒業論文を提出すること。卒業論文の提出が本科目単位取得の最低条件である。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

教授 溝口 哲郎 (ミゾグチ テツロウ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

日経ストックリーグに参加するため、そのためのレポート作成に向けてファイナンスの基礎テキストを輪読する。ゼミ生は担当を決め、発表する。また時事的な経済動向を知るために、英字新聞等の記事、会社四季報よりデータをピックアップし、内容について吟味し、全体に発表する。また同時に、後期のインターゼミナールに向けた準備のため参考文献調査、トピックを決定する。後期は前期の内容をふまえて調査研究を行い、他大学とのインターゼミナールにおいて発表を行う。

達成目標

- ①ファイナンスの基礎理論を勉強する。
- ②株式市場を通じて現実経済の動きを理解する。
- ③経済学的な思考を様々な形で応用できるようにする。
- ④実際に活動している企業の状況について、深く勉強する。

スケジュール

前期はこれまで学んできたミクロ経済学・マクロ経済学に関する教科書を輪読しつつ、応用・発展のための知識を深めるための様々なトピックに関する各種論文・新聞記事などを輪読する。また会社四季報などを研究し、グループ研究のテーマ決めと調査を行い、インターゼミナールに向けた準備を行う。後期は前期に学んだ知識をベースに、各自が法政大学、横浜市立大学、東洋大学とのインターゼミナールの発表のための研究報告に向けた最終調整を行う。

【前期】

- 第1週 オリエンテーション
第2~4週 新聞記事の解説、会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表
第5週 新聞記事の解説、会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマの検討
第6週 新聞記事の解説、会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマの決定
第7~14週 会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマ調査研究及び分析
第15週 前期ゼミのまとめ

【後期】

- 第1週 オリエンテーション
第2~6週 新聞記事の解説、会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマ調査研究・分析
第7~10週 会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマ調査研究及び分析
第11週 会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマ調査研究・分析、インゼミ発表練習
第12週 インゼミ発表練習
第13週 会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表、インゼミ発表のテーマ調査研究及び分析
第14週 会社四季報の研究、指定したテキストの輪読・発表
第15週 後期ゼミのまとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に指定しない。教材については開講後別途指示する。

参考書 フィナンシャル・アカデミー編著(2013)『株式投資の学校[入門編]』(ダイヤモンド社)

授業外での学習

時事的な内容を取り扱うため、日々のニュース等には常にアンテナを張って自主的に興味をもって調べておくこと。また後期開催予定の他大学とのインターゼミナールの発表に向けた調査や学習については、自らある程度決定しておくこと。

評価方法

ゼミでの貢献、平常点で評価する。

履修上の注意

工場見学、スタディツアー、合宿、インターゼミナールなどの課外活動は上記の講義スケジュールとは別に適宜組まれる可能性がある。また、時事的な内容を取り扱うため、参考文献や資料等は適宜変更する可能性がある。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

教授 担当教員 溝口 哲郎 (ミゾグチ テツロウ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

経済社会で起こっている様々な問題を取り上げ、研究テーマを設定した上で、卒業論文の執筆を行う。卒業論文の研究テーマの設定においては、社会科学の分野が望ましいが、相談に応じる。自分でテーマ設定を行い、自身で調べたことだけを論文としてまとめていく。

達成目標

- ①これまで学んできた経済理論を応用し、経済現象の裏側にある問題の理論的構造を理解し、政策提言につなげる。
- ②大学生生活4年間の集大成として、自分でテーマ設定を行い、卒業論文をまとめること。

スケジュール

前期は卒業論文の作成のためのトピック探しを行う。同時に3年生までに勉強してきた知識を応用するため、演習Iに引き続き新聞記事を調査し、発表する。また経済学理論のテキストの輪読を引き続き行う。後期は卒業研究報告に向けて、最終的に卒業論文を完成させることを目的とする。

【前期】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2~5週 卒業論文のトピックの選定と論文の書き方の指導、指定されたテキストの輪読
- 第6~9週 研究計画の発表と分析手法の精査・ゼミ生を含めた議論、論文指導、指定されたテキストの輪読
- 第10週 前期中間報告
- 第11~14週 論文指導、指定されたテキストの輪読
- 第15週 前期ゼミまとめ

【後期】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2~9週 卒論進捗状況報告（随時）、論文指導、指定されたテキストの輪読
- 第10週 後期中間報告
- 第11~13週 卒論進捗状況報告（随時）、論文指導、指定されたテキストの輪読
- 第14週 卒業研究報告（最終）および修正・加筆等の作業、論文指導
- 第15週 卒業論文の提出

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に指定しない。教材については開講後別途指示する。

参考書 白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 第2版』（ミネルヴァ書房）

授業外での学習

卒業論文作成を行うための参考文献の調査、データ分析、現地調査などを自主的に行う必要があります。

評価方法

ゼミでの発表内容、卒業論文の内容を考慮して評価します。

履修上の注意

ゼミでの平常点だけではなく、最終的には完成させた卒業論文を提出すること。演習IIでの単位取得には卒業論文の提出が不可欠である。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 三牧 聖子 (ミマキ セイコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミナール形式。前半は、国際関係を歴史的・理論的に理解するための重要文献や論文を輪読し、考察する。各回に報告者を割り当てる。担当者は、割り当てられた箇所の要約だけでなく、必ず論点を提示し、他参考文献にも積極的にあたり、独自の考察を加える。他受講者も、課題文献を精読し、内容を理解し、質問を準備しておくことが求められる。

その後、今日の世界平和をおびやかしている諸問題について、ディスカッションを行う。各自、定められたテーマに関連するニュースや記事を持ち寄る。なお、英文記事にも挑戦する。

達成目標

変化する世界を知るために、日々、ニュースを追うことは重要であるが、それだけでは不十分である。むしろ、情報の山に埋もれて、より世界が「見えなく」なることすらありうる。ゼミナールの前半部では、世界のいま、そしてこれからを展望する基礎となるような、歴史的・理論的な視座を身につけていく。そして研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション (授業の進め方および輪読文献の説明、報告担当回の決定)
- 第2回 文献輪読 (1)
- 第3回 文献輪読 (2)
- 第4回 文献輪読 (3)
- 第5回 文献輪読 (4)
- 第6回 文献輪読 (5)
- 第7回 文献輪読 (6)
- 第8回 文献輪読 (7)
- 第9回 文献輪読 (8)
- 第10回 文献輪読 (9)
- 第11回 文献輪読 (10)
- 第12回 文献輪読 (11)
- 第13回 文献輪読 (12)
- 第14回 文献輪読 (13)
- 第15回 文献輪読 (14)
- 第16回 文献輪読 (15)
- 第17回 文献輪読 (16)
- 第18回 学習の振り返り
- 第19回 テーマ研究 (1)
- 第20回 テーマ研究 (2)
- 第21回 テーマ研究 (3)
- 第22回 テーマ研究 (4)
- 第23回 テーマ研究 (5)
- 第24回 テーマ研究 (6)
- 第25回 研究報告 (1)
- 第26回 研究報告 (2)
- 第27回 研究報告 (3)
- 第28回 研究報告 (4)
- 第29回 研究報告 (5)
- 第30回 全体討論・今学期のまとめ

教科書・参考文献

- 教科書 宇野 重規『未来をはじめ：「人と一緒にいること」の政治学』（東京大学出版会、2018年）などを使用予定。授業で詳細を指示する。
- 参考書 授業内に適宜指示する。

授業外での学習

報告者以外も全員が文献を精読し、授業には最低1つは論点をもつてのぞむこと。報告のみならず、討論への貢献も平常点の重要な要素となる。

評価方法

授業への貢献（発言、討論への参加）および研究報告、論文の完成度で評価する。

履修上の注意

特になし。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 三牧 聖子 (ミマキ セイコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

ゼミナール形式。現在、世界、そして日本の平和は岐路に立たされている。前半は平和と暴力の問題を、特に世界と日本の平和にとって密接な関係を持つアメリカとの関係について考える。各回、担当者を決めて関連文献を輪読していく予定。

後半は、卒業論文を、一定のペースに従い、論文を相互チェックしながら、書き上げていく。自分の調べたテーマについて、ポイントをまとめてわかりやすくプレゼンテーションする能力、議論する能力も養う。

達成目標

1つのテーマについて、1年をかけてじっくり取り組める時間は、かけがえのないものである。これまでの学習に基づき、自分が設定したテーマについて、徹底的に調べ上げ、論文を完成させる。

スケジュール

第1回 インタロダクション
第2回 文献輪読 (1)
第3回 文献輪読 (2)
第4回 文献輪読 (3)
第5回 文献輪読 (4)
第6回 文献輪読 (5)
第7回 文献輪読 (6)
第8回 文献輪読 (7)
第9回 文献輪読 (8)
第10回 文献輪読 (9)
第11回 文献輪読 (10)
第12回 文献輪読 (11)
第13回 文献輪読 (12)
第14回 文献輪読 (13)
第15回 文献輪読 (14)
第16回 中間まとめ
第17回 論文中間報告・ディスカッション (1)
第18回 論文中間報告・ディスカッション (2)
第19回 論文中間報告・ディスカッション (3)
第20回 論文中間報告・ディスカッション (4)
第21回 論文中間報告・ディスカッション (5)
第22回 論文中間報告・ディスカッション (6)
第23回 論文の相互検討 (1)
第24回 論文の相互検討 (2)
第25回 論文の相互検討 (3)
第26回 論文最終報告 (1)
第27回 論文最終報告 (2)
第28回 論文最終報告 (3)
第29回 論文最終チェック・提出
第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 スティーブン・レビツキー『民主主義の死に方』（新潮社、2018）等を予定。その他、受講生の関心に沿った重要文献、時事的な論文や記事も使用。

参考書 個々の研究内容に従って、追って指示する。

授業外での学習

卒業論文を完成させる上で、授業は一部に過ぎず、授業で得られた知識をもとに、授業外で研究を進めることが重要である。受講生間でよい刺激を与えあいながら、積極的に課外学習を進め、論文を仕上げてほしい。

評価方法

授業への貢献（発言、討論への参加）および研究報告、論文の完成度で評価する。

履修上の注意

基本的に卒業論文では、1つのテーマについてどんどん調査を進め、自由に論を展開させてほしいが、他方、テーマを展開させるばかりではなく、期日までにまとめる内容におさめることも重要である。テーマを絞る中で、見えてくることもある。そのことを踏まえた論文執筆を心がけ、必ず期日までに提出すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

准教授 板垣 智洋 (イタガキ トモヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

通信速度の向上やスマートフォンなどの普及により現代では膨大なデータを収集することができるようになりました。そして、自分で課題を見つけ、関連する適切なデータから必要な情報を得ることによって、課題を解決する能力が求められています。この授業では、卒業研究のための準備として、

- (1) 発表などを通じて卒業研究のテーマを考える
- (2) 統計学、Rなどの統計ソフトを用いたデータ分析の手法に関する内容、または数学に関連する内容を学習する

達成目標

(1) 卒業論文のテーマを決めるための準備として統計学、データ分析、その他数学に関連する内容の理解を深める。(2) 演習IIの卒業研究の発表や卒業報告会を通して、卒業研究のテーマの構想を固める。(3) 輪読を通して、客観的かつ論理的に書籍を読む能力を身に付ける。(4) 発表などを通して、学習し準備してきた内容への理解を深め、プレゼンテーション能力を向上させる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 演習Iのテーマの決定とグループの決定
- 第3回 グループ内の役割分担と輪読の計画1
- 第4回 テーマに関する文献の輪読1
- 第5回 テーマに関する文献の輪読2
- 第6回 テーマに関する文献の輪読3
- 第7回 テーマに関する文献の輪読4
- 第8回 テーマに関する文献の輪読5
- 第9回 テーマに関する文献の輪読6
- 第10回 テーマに関する文献の輪読7
- 第11回 テーマに関する文献の輪読8
- 第12回 テーマに関する文献の輪読9
- 第13回 テーマに関する文献の輪読10
- 第14回 テーマに関する文献の輪読11
- 第15回 まとめ
- 第16回 ガイダンス2
- 第17回 グループ内の役割分担と輪読の計画2
- 第18回 テーマに関する文献の輪読12
- 第19回 テーマに関する文献の輪読13
- 第20回 テーマに関する文献の輪読14
- 第21回 テーマに関する文献の輪読15
- 第22回 テーマに関する文献の輪読16
- 第23回 テーマに関する文献の輪読17
- 第24回 テーマに関する文献の輪読18
- 第25回 テーマに関する文献の輪読19
- 第26回 テーマに関する文献の輪読20
- 第27回 テーマに関する文献の輪読21
- 第28回 卒業論文報告会(聴講)またはテーマに関する文献の輪読22
- 第29回 卒業論文報告会(聴講)または卒業論文のテーマ決め1
- 第30回 卒業論文報告会(聴講)または卒業論文のテーマ決め2

教科書・参考文献

- 教科書 山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎著 『Rによるやさしい統計学』、オーム社、2008年
その他、授業でいくつか紹介する。
- 参考書 永野裕之著 『ゼロから始める！統計学見るだけノート』、宝島社、2018年
その他、授業で適宜紹介する。

授業外での学習

発表準備では、理解している箇所、理解していない箇所を明確にし、要点を整理すること。

評価方法

演習への参加・課題への取り組み状況50%、発表50%

履修上の注意

「統計学I」「データ分析入門」を履修していることが望ましい。
休まずゼミに参加すること。就職活動や体調不良などやむを得ない理由で休む場合は、必ず連絡すること。
なお、この授業は「演習II」と合同で行う。
発表者は発表内容の資料(ノートやパワーポイントのスライドなどのコピー)を人数分用意すること。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

准教授 板垣 智洋 (イタガキ トモヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

この授業では、課題を設定し、課題解決までの工程を計画および実行し結果をまとめ発表することによって、課題を発見・解決する能力を向上させることを目的とします。
演習IIでは、演習Iで学習した、統計学、Rなどの統計ソフトを用いたデータ分析手法に関連する内容、数学が関連している内容、または演習IIの発表内容等を参考に、研究テーマを設定し、卒業研究を行います。
なお、人数などによって適宜スケジュールを調整します。

達成目標

(1) 卒業論文のテーマについて理解を深め、卒業論文を作成する。(2) 研究テーマを設定し、関連する文献などの調査、進捗状況などの報告を行う。(3) 他者の報告に対して、適切な質問やコメントを行う。(4) 発表を通してプレゼンテーション能力を向上させる。

スケジュール

第1回 ガイダンス1
第2回 卒業研究のテーマ設定1
第3回 卒業研究のテーマ設定2
第4回 卒業研究計画・検討1
第5回 卒業研究計画・検討2
第6回 卒業研究計画・検討3
第7回 卒業研究計画・検討4
第8回 卒業研究の経過報告・討論1
第9回 卒業研究の経過報告・討論2
第10回 卒業研究の経過報告・討論3
第11回 卒業研究の経過報告・討論4
第12回 卒業研究の経過報告・討論5
第13回 卒業研究の経過報告・討論6
第14回 卒業研究の経過報告・討論7
第15回 卒業研究の経過報告・討論8
第16回 ガイダンス2
第17回 卒業論文中間報告1
第18回 卒業論文中間報告2
第19回 卒業研究の経過報告・討論9
第20回 卒業研究の経過報告・討論10
第21回 卒業研究の経過報告・討論11
第22回 卒業研究の経過報告・討論12
第23回 卒業研究の経過報告・討論13
第24回 卒業研究の経過報告・討論14
第25回 卒業論文提出・検討1
第26回 卒業論文提出・検討2
第27回 卒業論文提出・検討3
第28回 卒業論文報告会 (発表) 1
第29回 卒業論文報告会 (発表) 2
第30回 卒業論文報告会 (発表) 3

教科書・参考文献

教科書 山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎著 『Rによるやさしい統計学』、オーム社、2008年
その他、授業でいくつか紹介する。
参考書 永野裕之著 『ゼロから始める！統計学見るだけノート』、宝島社、2018年
その他、授業で適宜紹介する。

授業外での学習

発表準備では、わかりやすく説明するために、目的・目標、問題点、解決策、課題、など要点を整理すること。
データを収集する際は文献やインターネットなどを通じて収集し、どこから収集したのが適宜記録に残しておくこと。

評価方法

発表・ゼミへの参加40%、卒業研究の完成度60%

履修上の注意

休まずゼミに参加すること。就職活動や体調不良などやむを得ない理由で休む場合は、必ず連絡すること。
なお、この授業は「演習I」と合同で行う。
発表者は発表内容の資料 (ノートやパワーポイントのスライドなどのコピー) を人数分用意すること。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

講師 王 雪 (オウ セツ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

各自の卒業論文執筆にあたって指導を行う。イノベーション、国内外の経営に関する文献の輪読で、卒業論文のテーマ設定から文献・資料収集、調査の方法、データの収集、論文の構成の仕方、執筆についてアドバイスを行う。
また、演習では各自が卒業論文の執筆に向けて、問題意識の明確化、参加者同士でディスカッションを行い、4年次論文の完成度を高めることを目指す。

達成目標

1. 断片的な知識を覚えることなく、問題の発見および解決の方法を学ぶことを目指します。
2. また、プレゼンテーションや議論の仕方やプロジェクトのマネジメントなど、企業人として求められるスキルの習得を目指します。

スケジュール

- 第1回 前期オリエンテーション
- 第2回 チームビルディング、文献の輪読1 (国内外の論文：授業中に指示) とディスカッション
- 第3回 文献の輪読2 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第4回 文献の輪読3 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第5回 文献の輪読4 (国内外の論文：授業中に指示)、チームディスカッション、チームワーク
- 第6回 文献の輪読5 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第7回 中間まとめ、文献輪読の感想に関するプレゼンテーション1
- 第8回 文献の輪読6 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第9回 文献の輪読7 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第10回 文献の輪読8 (国内外の論文：授業中に指示)、ディスカッション、チームワーク
- 第11回 文献輪読の感想に関するプレゼンテーション2
- 第12回 論文の構成と進め方について
- 第13回 各自の研究テーマに基づいた個別指導と全体発表、研究テーマの決定1
- 第14回 各自の研究テーマに基づいた個別指導と全体発表、研究テーマの決定2
- 第15回 前期のまとめ、後期まで完成必要課題のディスカッション、後期スケジュールの提示
- 第16回 リサーチクエスションと先行研究の検討方法について1
- 第17回 リサーチクエスションと先行研究の検討方法について2
- 第18回 各自のリサーチクエスションに関するディスカッション1、チームワーク
- 第19回 各自のリサーチクエスションに関するディスカッション2、チームワーク
- 第20回 各自の仮説を立てる1、ディスカッション、チームワーク
- 第21回 各自の仮説を立てる2、ディスカッション、チームワーク
- 第22回 先行研究の整理1
- 第23回 先行研究の整理2
- 第24回 先行研究レビュー発表1、ディスカッション、チームワーク
- 第25回 先行研究レビュー発表2、ディスカッション、チームワーク
- 第26回 調査方法または研究手法について1
- 第27回 調査方法または研究手法について2
- 第28回 各自の研究手法決定、研究計画の立案1、ディスカッション、チームワーク
- 第29回 各自の研究手法決定、研究計画の立案2、ディスカッション、チームワーク
- 第30回 全体のまとめ、4年次の年間スケジュールの提示

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する

参考書 Christensen, The Innovator's Dilemma, Harvard Business Review Press, 2016

授業外での学習

自分のチームについて準備発表するだけでなく、他のチームの発表についても理解しアドバイスできるようにすること。

評価方法

出席を前提に、プレゼンテーション (40%)、レポート (30%)、ディスカッション参加度 (20%)、チームへの貢献度 (10%) で評価する。

履修上の注意

1. 受講者には、問題意識を強く持ち、自律的かつ能動的に活動することを求めます。
2. この演習で最も重要なことは、調子よくその場をやり過ごすことなく、課題や仲間に真摯に向き合い、人間として成長することです。
3. 様々な文化背景を持った人。外国人留学生の参加を歓迎します。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

講師 王 雪 (オウ セツ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

3年次で得た知識をと分析力等を踏まえ、まとめた成果と経験を下敷きにしながら、研究計画を再構築する。また、卒業論文の完成に向けて、ゼミにおける報告や議論を積み重ねながら、卒業論文執筆に向けた知識の習得と、チームメンバー全員の分析力や考察力のさらなる向上に取り組み、卒業論文の提出を完遂する。

達成目標

論文のテーマの設定の仕方や探索方法、論文の論理構成、仮説の構築方法、調査の進め方、実際の論文の書き方、そして論文の内容 そのものについて、各自が実際の研究テーマをもとに個人発表とチームディスカッションを行う中で立体的、インタラクティブに実践を通じて理解を深める。

スケジュール

- 第1回 夏休み研究の発表、卒業論文の進捗報告、ディスカッション1
- 第2回 夏休み研究の発表、卒業論文の進捗報告、ディスカッション2
- 第3回 夏休み研究の発表、卒業論文の進捗報告、ディスカッション3、卒業論文の章立て（目次）の提出
- 第4回 卒業論文調査結果の発表、分析、仮説検証1
- 第5回 卒業論文調査結果の発表、分析、仮説検証2
- 第6回 卒業論文調査結果の発表、分析、仮説検証3
- 第7回 卒業論文の中間段階の学生同士の添削、個別指導1
- 第8回 卒業論文の中間段階の学生同士の添削、個別指導2
- 第9回 卒業論文の中間段階の学生同士の添削、個別指導3
- 第10回 中間原稿の提出、ディスカッション
- 第11回 卒業論文作成の全体指導、論文修正1（論文作成の要領）
- 第12回 卒業論文作成の全体指導、論文修正2（研究背景の提示）
- 第13回 卒業論文作成の全体指導、論文修正3（リサーチクエスションの明確）
- 第14回 卒業論文作成の全体指導、論文修正4（研究目的の明確）
- 第15回 卒業論文作成の全体指導、論文修正5（研究対象の明確）
- 第16回 卒業論文作成の全体指導、論文修正6（先行研究のレビュー）
- 第17回 卒業論文作成の全体指導、論文修正7（仮説の明確）
- 第18回 卒業論文作成の全体指導、論文修正8（研究方法の提示）
- 第19回 卒業論文作成の全体指導、論文修正9（研究結果：データ記述、図表の体裁）
- 第20回 卒業論文作成の全体指導、論文修正10（仮説の検証、分析まとめ）
- 第21回 卒業論文作成の全体指導、論文修正11（結論と論文の要旨）
- 第22回 卒業論文作成の全体指導、論文修正12（引用文献の書き方、文献リスト方）
- 第23回 卒業論文のプレゼンテーションスライド作成1（スライドの構成）
- 第24回 卒業論文のプレゼンテーションスライド作成2（スライドのデザイン）
- 第25回 卒業論文のプレゼンテーションスライド作成3（スライドのデザイン）
- 第26回 卒業論文のプレゼンテーション1
- 第27回 卒業論文のプレゼンテーション2
- 第28回 卒業論文のプレゼンテーション3
- 第29回 卒業論文のプレゼンテーションのまとめ
- 第30回 卒業論文最終稿の提出、プレゼンテーションスライドの提出

教科書・参考文献

教科書 教科書は指定しません。
毎回レジュメの配布。

参考書 戸田山和久(著) 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2012

授業外での学習

本演習では、多くの活動をチームで行い。また、就職活動があるので、自分のペースで研究をおすすめ。
演習時間外で作業してもらうことも多くなりますので、これらのプロジェクトが多忙となる一定期間は演習活動を優先できることが必要である。

評価方法

出席を前提に、卒業論文の提出（60％）、プレゼンテーション（40％）で評価する。

履修上の注意

1. 履修上の注意・履修要件・就職活動でどうしても参加できない場合は、必ず事前に連絡を行うこと。
2. 必要に応じて、演習時間外でも個別指導を行う。メールでアポイントを取ってください。

科目名 演習I
Title Seminar I
科目区分 演習

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 服部 昌彦 (ハットリ マサヒコ)

E-Mail

配当年次
3

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

産業組織論に関わる科学知識を体得すると同時に、自身の研究テーマを模索する。また、発表やディベートを通じて、プレゼンテーションスキル、ディスカッションスキルを身に着ける。
前期は個人発表、グループ発表、教科書の輪読を通じて自身の関心があるテーマを見つけだし、それを具体化していくことを目指す。後期は前期で得られた関心をもとに、ディベート、講義と演習、教科書の輪読を通じて議論を深めながら専門知識とアカデミックスキルの体得を目指す。

達成目標

産業組織論に関わる専門知識を身に着ける。
研究テーマを設定する。
プレゼンテーションスキル、ディスカッションスキルを身に着ける。

スケジュール

第1回 インタロダクション
第2回 授業計画の決定
第3回 個人発表I
第4回 個人発表II
第5回 テーマの決定と班決め
第6回 発表準備
第7回 グループ発表I
第8回 グループ発表II
第9回 教科書の決定と班決め
第10回 発表準備
第11回 教科書の輪読I
第12回 教科書の輪読II
第13回 教科書の輪読III
第14回 教科書の輪読IV
第15回 前期まとめ
第16回 インタロダクション
第17回 ディベートのテーマと班決め
第18回 ディベートのやり方
第19回 ディベート準備
第20回 ディベートI
第21回 ディベートII
第22回 ディベートIII
第23回 講義と演習I
第24回 講義と演習II
第25回 教科書の輪読I
第26回 教科書の輪読II
第27回 教科書の輪読III
第28回 外部講師I
第29回 外部講師II
第30回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜指定します。

参考書 適宜指定します。

授業外での学習

発表やディベートを行うための調査、準備が求められます。

評価方法

課題の水準や議論への参加度合い、ゼミ貢献などから総合的に判断します。

履修上の注意

ゼミ活動への積極的な参加が求められます。

科目名 演習II
Title Seminar II
科目区分 演習

	担当教員	担当教員との連絡方法
准教授	服部 昌彦 (ハットリ マサヒコ)	

E-Mail

配当年次
4

単位区分
必修

単位数
4

開講時期
通年

目的

これまで学習した知識をもとに、自身の関心に沿ったテーマを設定し、調査、考察、議論をもとに論文の作成を目指す。論文テーマを見つけだし、テーマに関するサーベイを行い、発表とディスカッションを通じて一つの仮説を明らかにすることを目指す。また、テーマに関わる座学や演習を通じて、テーマに関するより深い分析能力、洞察力を養う。

達成目標

テーマを決め、サーベイを行い、議論を深めながら論文を執筆する。

スケジュール

第1回 インタロダクション
第2回 論文のテーマ探しI
第3回 論文のテーマ探しII
第4回 講義I
第5回 講義II
第6回 サーベイI
第7回 サーベイII
第8回 発表I
第9回 発表II
第10回 論文の書き方
第11回 論文作成I
第12回 論文作成II
第13回 論文発表I
第14回 論文発表II
第15回 前期まとめと論文へのコメント
第16回 インタロダクション
第17回 講義と演習I
第18回 講義と演習II
第19回 講義と演習III
第20回 講義と演習IV
第21回 論文作成I
第22回 論文作成II
第23回 論文中間発表I
第24回 論文中間発表II
第25回 論文作成III
第26回 論文作成IV
第27回 論文作成V
第28回 論文最終発表I
第29回 論文最終発表II
第30回 全体のまとめと論文へのコメント

教科書・参考文献

教科書 適宜指定します。

参考書 適宜指定します。

授業外での学習

論文作成のための調査、執筆、発表準備が求められます。

評価方法

課題の水準や議論への参加度合い、ゼミ貢献などから総合的に判断します。

履修上の注意

ゼミ活動への積極的な参加が求められます。